

日本の文化

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 日本の文化

科目責任者

担当教員 斉藤 靖之

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 11000502

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・担当者が、毎時プリントを用意して、その内容について解説することが中心となるが、時には、具体的な文化の内容について、資料や写真等を活用し、学生の意見（感想）等の場を設けたりして、授業の深化を図りたい。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第 1 回	15時間の授業の概要について・「文化」とは「日本の文化」を学ぶ意味について「日本の文化」の分類例について「和モノ」（衣食住）について「日本のしきたり」について学習指導要領と伝統文化の取り扱いについて代表的な文化（美術・歌舞伎・建築等）代表的な文化（能と狂言・和歌・短歌等）日本の文化に関わる人物や遺産等について「日本の文化」についてのまとめ
		第 2 回	
		第 3 回	
		第 4 回～第 5 回	
		第 6 回～第 7 回	
		第 8 回～第 11 回	
		第 12 回	
		第 13 回	
		第 14 回	
		第 15 回	

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準 研究テーマへの取り組み，計画性，推進力，研究結果の分析力，論文化等を基準とする。

評価の方法 上記を総合的に判定する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

参考資料は、プリントを配付する。併せて参考書籍等も授業で紹介する。

推薦図書等

参考URL

備考

道徳と福祉の心

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 道徳と福祉の心

科目責任者

担当教員 村上 悦子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 11001002

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

DVDの視聴や様々な社会的・道徳的・福祉を題材とした資料を通して、福祉や社会に積極的に携わろうとする人々の「人間としての生き方・あり方」について考える。また、これまでの自分の生き方・あり方を振り返り、将来への道をたくましく切り拓こうとする意欲を高める。

学生の達成目標

授業内容

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 第1回 オリエンテーション「現在の自分とこれからの自分の生き方」について小論文を書く。 |
| | 第2回 植草学園短期大学の歴史「社会の変遷とともに見つめてきた教育」 |
| | 第3回 建学の理念を語る「植草学園短期大学が目指すもの」 |
| | 第4回 DVDを視聴し、人間の生き方について自分の考えをまとめる。 |
| | 第5回 DVDを視聴し、人間の生き方について自分の考えをまとめる。 |
| | 第6回 DVDを視聴し、人間の生き方について自分の考えをまとめる。 |
| | 第7回 DVDを視聴し、人間の生き方について自分の考えをまとめる。 |

第8回 DVDを視聴し、人間の生き方について自分の考えをまとめる。
第9回 DVDを視聴し、人間の生き方について自分の考えをまとめる。
第10回 福祉に関する新聞記事を読み、意見文を書き、発表する。
第11回 福祉教育に関する資料を読み、意見文を書き、発表する。
第12回 福祉教育に関する資料を読み、意見文を書き、発表する。
第13回 外部講師を招き、高齢者福祉に関する情報に関心を持つ。
第14回 外部講師による講話（DVについて）
第15回 まとめ 次年度への課題

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	適宜資料配布（要整理・要保存）	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 法学

科目責任者

担当教員 金津 謙

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 12000001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 授業では身近な具体的な事例を扱い平易に解説をする予定である。

学生の達成目標

第1回	第1回 法律の全体像
	第2回 憲法に規定される基本的人権概論
	第3回 生存権と社会福祉
	第4回 高齢者と悪質商法 ①／消費者契約法、特定商取引法概論
	第5回 高齢者と悪質商法 ②／特定商取引法各論
	第6回 悪質商法と損害の回復
	第7回 高齢者の権利擁護 ①／成年後見制度概論
	第8回 高齢者の権利擁護 ②／成年後見制度の実務
	第9回 日常生活自立支援事業と法律の関わり
	第10回 福祉と行政（法）の関わり
	第11回 相続と遺言
	第12回 福祉と労働（法）
	第13回 福祉現場における事故と法的責任 ①／損害賠償制度概論
	第14回 福祉現場における事故と法的責任 ②／損害賠償制度各論
	第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『権利擁護と成年後見制度』中央法規出版 社会福祉士養成講座編集委員会	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

日本国憲法

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 日本国憲法

科目責任者

担当教員 金津 謙

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 12000102

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

法律の講義には難解な専門用語が使われるが、本講座は法律の基礎を学ぶことを目標とするため、身近な具体的テーマを用いて平易に解説する。

学生の達成目標

授業内容

- | | |
|-----|--------------------------------------|
| 第1回 | 第1回 憲法の意義 |
| | 第2回 憲法総論／日本国憲法史 |
| | 第3回 国民主権という考え方／明治憲法と現行憲法との比較 |
| | 第4回 平和主義／憲法9条と世界平和 |
| | 第5回 基本的人権とはなにか／人権宣言の意義／基本的人権の限界 |
| | 第6回 個人の思想の自由は制限されるか／法の下での平等・精神的自由権 ① |
| | 第7回 表現の自由とはなにか／法の下での平等・精神的自由権 ② |
| | 第8回 中間テスト |
| | 第9回 国民の経済活動を保証するルールとは／経済的自由 |
| | 第10回 犯罪捜査・刑罰を科す上での基本ルールとは／人身の自由 |
| | 第11回 ホームレスの存在は憲法違反か／社会権／生存権 |
| | 第12回 義務教育はなぜ無料なのか／社会権／教育を受ける権利 |

第13回 国会の地位と権限・内閣の構造／統治機構概論
第14回 地方自治の推進と問題点
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	河原 格編著『法学への一歩（第3版）』八千代出版

推薦図書等

参考URL

備考

コンピュータ概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 コンピュータ概論

科目責任者

担当教員 緒方 佐紀子

授業形態 講義

開講時期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

テキストを参考に練習問題に取り組み、その後プリントによる演習問題を自由に作成する。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	コンピュータの周辺機器と Windowsの基本知識
		第2回	メモ帳、 Wordによる入力、保存、ファイル管理
		第3回	Wordの基本操作 1（文字、文章入力、文書保存）
		第4回	Wordの基本操作 2（編集機能）
		第5回	Wordの基本操作 3（表、罫線）
		第6回	Wordの基本操作 4（ビジュアルな文書、図形）
		第7回～第8回	総合的な文章の作成
		第9回	Excelの基本操作 1（ワークシート、セル、表）
		第10回	Excelの基本操作 2（計算式を用いた表の作成、挿入／削除など）
		第11回	Excelの基本操作 3（グラフの作成）
		第12回	Excelの基本操作 4（グラフの変更、装飾など）
		第13回	Excelの基本操作 5（関数の使い方）
		第14回	Excelで基本操作 6（データベース機能）
		第15回	まとめ（総合問題の提出）

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『 30時間でマスター Word&Excel2007』	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

コンピュータ演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 コンピュータ演習

科目責任者

担当教員 荻原 尚

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 12000701

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

一人1台のコンピュータを操作し、各人が適宜アプリケーションおよび手法を選択し、演習レポートを作成する。

学生の達成目標

授業内容

- | | |
|-----|------------------------|
| 第1回 | 第1回 コンピュータの基本操作 |
| | 第2回 グラフィックの種類と特徴 |
| | 第3回 画像のファイル形式 |
| | 第4回 ペイント系 CG（レイヤーの使い方） |
| | 第5回 ペイント系 CG（範囲選択） |
| | 第6回 フォトレタッチ（画像の合成技術） |
| | 第7回 フォトレタッチ（色相、明度、彩度） |
| | 第8回 フォトレタッチ（クイックマスク） |
| | 第9回 フォトレタッチ（レイヤーマスク） |
| | 第10回 フォトレタッチ（自由作品制作） |
| | 第11回 Webデザインの基礎知識 |
| | 第12回 CSS（文字デザイン） |
| | 第13回 CSS（レイアウト） |
| | 第14回 ホームページの作成（1） |
| | 第15回 ホームページの作成（2） |

- 第16回 コンピュータ音楽の概要
- 第17回 MIDIのしくみ
- 第18回 MIDIファイルの作成（１）
- 第19回 MIDIファイルの作成（２）
- 第20回 デジタル・オーディオの基礎知識
- 第21回 PowerPointの基本操作
- 第22回 プレゼンテーション（資料の作成）
- 第23回 プレゼンテーション（発表）
- 第24回 ドロー系 CG（基本操作）
- 第25回 ドロー系 CG（パス演算）
- 第26回 Flashアニメーション（基本操作）
- 第27回 Flashアニメーション（スプライトの使い方）
- 第28回 Flash紙芝居の作成（１）
- 第29回 Flash紙芝居の作成（２）
- 第30回 Flash紙芝居の作成（３）

	予習
予習・復習の内容	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	テキストは、使用しない。適宜資料を配布する。データ保存用に USBメモリを用意することが望ましい。

推薦図書等

参考URL

備考

キャリアガイダンス I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 キャリアガイダンス I

科目責任者

担当教員 川村 博子
布施 千草
今井 訓子
清宮 宏臣
岩本 義浩

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 12000801

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義やグループワーク、講演などを通し、キャリアについて考える。また、将来の自分の状況をイメージしながら、学習がすすむように展開する。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	オリエンテーション、自己理解を深める、職業選
		第2回	択について
		第3回	進路について考える（職業に就くということ、キ
		第4回～第5回	ャリアについて）
		第6回	進路について考える（キャリア支援室の利用）
		第7回	グループワーク
		第8回	アサーティブ講座
		第9回	卒業生のお話を聞く会
		第10回	講演会
			作文添削講座
			マナー講座

第11回	ストレスマネジメント講座
第12回	現場の話を聞く会
第13回～第14回	グループ面談（進路希望）
第15回	内定者報告会（2年生）

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	キャリアデザイン・ボランティアノート

推薦図書等

参考URL

備考

キャリアガイダンス I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 キャリアガイダンス I

科目責任者

担当教員 田村 光子
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
松原 敬子
浅川 繭子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 12000802

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

面接指導等を通して、学生一人ひとりに必要なキャリア支援について、学生・職員の双方で相互理解を深めるとともに、ボランティア等の体験活動のコーディネート、公務員講座、卒業生の話を聞く会など、現場と触れ合う体験の場を設け、専門職として働く意識を高める。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション	キャリアガイダンスの目的・1年間の日程、出席について
		第2回	キャリア支援について（1）キャリア支援室の利

		用について
	第3回	キャリア支援について（2）進路選択とは、就職
	すること	
	第4回	グループ面談（1）進路、ボランティア活動につ
	いて	
	第5回	公務員講座（1）公務員ガイダンス
	第6回	公務員講座（2）公務員、一般教養筆記対策講座
	第7回～第8回	卒業生の話を聞く会
	第9回	作文添削
	第10回～第11回	マナー講座
	第12回	グループワーク（1）アサーティブ・トレーニ
	ング	
	第13回	グループワーク（2）ストレスマネジメント
	第14回～第15回	内定報告会 進路選択・就職活動に向けて
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、 自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめること ができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の 意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価す る。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリアガイダンス II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 キャリアガイダンス II

科目責任者

担当教員 川村 博子
布施 千草
今井 訓子
清宮 宏臣
岩本 義浩

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 12001001

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義やグループワーク、講演などを通し、キャリアについて考える。また、将来の自分の状況をイメージしながら、学習がすすむように展開する。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション、自己理解を深める、職業選択について
	第2回	進路について考える（職業に就くということ）
	第3回	進路について考える（キャリアについて・職場定着について）
	第4回～第5回	グループワーク
	第6回	アサーティブ講座
	第7回	卒業生のお話を聞く会
	第8回	講演会
	第9回	作文添削講座
	第10回	マナー講座

第11回	職場定着のための労働・社会保障関係法の知識
第12回	ストレスマネジメント講座
第13回～第14回	グループ面談（進路希望）
第15回	現場の話しを聞く会

	予習	
予習・復習の内容	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
	教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 キャリアデザイン・ボランティアノート、進路ガイドブック
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリアガイダンス II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 キャリアガイダンス II

科目責任者

担当教員 黒田 静江
中坪 晃一
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
松原 敬子
浅川 繭子
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 12001002

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

今まで学んだことを活かしながら、保育・福祉・教育などの職場で働いている先輩の話を聞いたり、ゼミ担当者やキャリア支援員との面接を通して、自分に合った進路・適職について考える。また円滑な就職活動をするために必要なことを学び、積極的に進路を切り拓いていけるようにする。

学生の達成目標

1. 社会人になるために必要な常識・マナー・言葉づかいなど実践できるようにする。
2. 自分の長所・仕事観などに理解を深め、どのような職場で自分の長所を發揮できるか考えて行動する。

3. 講座を受講し、社会人になった時どのようにバランスを取ると良いか考える。

授業内容	第1回	第 1 回	オリエンテーション	
		第 2 回	作文添削講座	
		第 3 回	マナー講座	
		第 4 回～第 5 回	保育士公務員模擬試験	
		第 6 回	履歴書の書き方	
		第 7 回	就職活動の進め方	
		第 8 回～第 9 回	卒業生の話を聞く会	
		第10回	就職試験対策について	
		第11回～第12回	模擬面接講座	
		第13回	アサーティブ講座（社会人としてのコミュニケーション術）	
		第14回	働く人のための法律講座	
		第15回	ストレスマネジメント講座	
	予習・復習の内容	予習		
		復習		
展開				
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）		
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。		
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	進路ガイドブック・キャリアデザインノート			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

環境と人間

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 環境と人間

科目責任者

担当教員 村上 公信

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 12000902

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

「地球環境を考える」に関する講義が中心になるが、DVD視聴や新聞記事による探究学習なども組み込んで授業を行う。＊健康管理士一般指導員資格を取得する場合は選択必修となる。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|------|-----------------|
| 第1回 | 第1回 | 環境とは何か・環境問題とは何か |
| | 第2回 | 環境を形づくるもの－生態系 |
| | 第3回 | 自然界の物質循環 |
| | 第4回 | 体内環境の調節 |
| | 第5回 | 大気の汚染 |
| | 第6回 | オゾン層の破壊と地球温暖化問題 |
| | 第7回 | 水の汚染 |
| | 第8回 | 酸性雨 |
| | 第9回 | 土壌の汚染 |
| | 第10回 | 環境ホルモンとダイオキシン |
| | 第11回 | 騒音・振動・悪臭と健康 |
| | 第12回 | 環境と食の問題 |
| | 第13回 | 環境汚染に対する行政上の対応 |

第14回 環境問題のための新技術

第15回 「環境と人間」のまとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『地球環境がわかる』	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

総合英語

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 総合英語

科目責任者

担当教員 北條 洋子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 14000001

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

各回のテーマに従い、原則として、次の内容に関する授業を行う。

- 1) 英語圏諸国の特色ある場面について聞き取り練習や表現練習を行う。
- 2) 日常のあいさつや話題を取り入れながらのコミュニケーション活動を練習し、発表する。
- 3) マザー テレサの生涯を読み、心の葛藤を知る。将来、介護に携わる機会を考え、英語を使ってコミュニケーションしようとする態度の育成を考えて授業を行う。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 Introduction 共通語としての英語や英語学習について。授業の進め方など。
第2回～第3回 初対面の人とのコミュニケーション：SelfIntroduction:name/hobby/birthplace/family etc. Dailytopics:dates/weather/events etc.
第4回～第5回 症状を聞き合う：Names ofthe Body/symptoms/medicines/request
第6回～第8回 健康な生活の助言：The RightFood/FoodAroundtheWorld/WhyDo you Wash?/ExercisesProtectYour Bodyetc.
第9回～第10回 地域福祉を話そう：

FindingoutandCreat'UniversalDesign'in OurTown
第11回～第13回 先人の足跡例： ListeningPractice
From"MotherTeresa"
第 14回 介護場面でのコミュニケーション：
CaringScene Conversation
第 15回 Presentation andEvaluation

	予習	
予習・復習の内容	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 “How to StayHealthyLife”OxfordUniversityPress.を主要な教材とし、プリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

総合英語 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 総合英語 I

科目責任者

担当教員 北條 洋子

授業形態 演習

開講時期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

各回のテーマに従い、原則として、次のような3種類の内容に関する授業を行う。

- 1) 英語圏諸国の特色ある場面について EnglishTimeで、Listeningや Speakingの練習を行う。会話練習も含む。
- 2) “Mother Goose”からの伝承童謡や欧米の児童に知られている言い回しを取り上げ、Speakingや Readingの表現練習を行う。
- 3) 本時の学習内容の Reproductionや Presentaionを発表し合い、評価し合う。将来、児童に接する機会を考え、児童が英語に親しむことができる「手本」になれるよう、その育成を考えて授業を行う。

学生の達成目標

授業内容

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 第1回 Introduction 英語・英語学習について。授業の進め方など。
Classroom EnglishPractice |
| 第2回 | Theme:SpringEvents“HumptyDumpty”etc.
MyFavorite Season |
| 第3回 | Theme:Names“OldMcDonaldHada Farm”etc.
MyBirthday |
| 第4回 | Theme:In the Morning“This is the Way”etc.
MyBreakfast |
| 第5回 | Theme:Numbers“Five Little Monkeys”etc. How many? |
| 第6回 | Theme:Names ofthe Body“Head,Shoulders”etc.
Symptoms |
| 第7回 | Theme:Weather“Rain,rain,go away”etc. |

When/What/How

第8回 Theme:Teatime“Do you know the Muffin Man?”etc.
Request

第9回 Theme:Food“Ten FatSausages”etc. Cooking

第10回 Theme:Colours“Rainbow”etc. Likes andDislikes

第11回 Theme:UniversalDesign“ATisketATasket”etc.
Message

第12回 Theme:Animals“MaryHada Little Lamb”etc. Pets

第13回 Theme:Time“HickoryDickoryDock”etc. MySchedule

第14回 Theme:Houses“This is the House thatJackBuilt”etc.
Furniture

第15回 Presentation andEvaluation

*後期は第2回の内容を変更する。

	予習
予習・復習の内容	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、 自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめること ができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の 意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価す る。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 “Songs andChants”publishedbympiinc.を主要な教材とし、プリントを配布する。
-----	---

推薦図書等

参考URL

備考

総合英語 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 総合英語 II

科目責任者 マーク レモン

授業形態 演習

開講時期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 Warmupactivity,Identifyingtargetlanguage,Listening,Practice,Presentation.

学生の達成目標

授業内容	第1回	第 1 回 Unit1:Gettingto know the teacher andhis background.
	第 2 回	Unit2:TalkingaboutJapanese holidays and events.
	第 3 回	Unit3:Askingandgivingpersonalinformation.
	第 4 回	Unit4:Discussinglikes anddislikes.
	第 5 回	Unit5:Practicingthe differences between countables anduncountables.
	第 6 回	Unit6:Usingadverbs offrequencyandaskingquestions abouthabits.
	第 7 回	Unit7:Talkingaboutabilityanddegrees ofproficiency.
	第 8 回	Review and presentation.
	第 9 回	Unit8:Describinganddefiningthings,continued.
	第10回	Unit9:Askingaboutfamily,relatives andsports.
	第11回	Unit9 cont.:Askingaboutfamily,relatives andsports,continued.
	第12回	Unit10:Talkingaboutexperiences andtellinga story.
	第13回	Movie review:An animatedmovie is usedto review storytelling.
	第14回	Unit11:Discussingjobs andjobfunctions.
	第15回	Review andfinalpresentation.

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
Talka Lot, Starter BookEFLPress

推薦図書等

参考URL

備考

スポーツ・レクリエーション

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 スポーツ・レクリエーション

科目責任者

担当教員 八鍬 拓

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 15000101

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

現代社会におけるスポーツの意義、とりわけ生涯スポーツとしてのスポーツやレクリエーションの必要性や魅力を理解し、福祉領域で活用できる能力を身に付けてほしい。各種レクリエーション種目の特性やルール名アドを記入するためのノートを用意し、現場でも役立つような資料作りをする。

学生の達成目標

授業内容

第1回	第1回	実技：アイスブレーキング	
	第2回	実技：ホスピタリティー・トレーニング	①
	第3回	実技：フライング・ディスク	
	第4回～第7回	◎軽スポーツ・バドミントン	
	第8回	◎軽スポーツ・卓球（ラージ・ボール）	①
	第9回	〃	②
	第10回	〃	③
	第11回	実技：ソフトバレーボール	①
	第12回	実技：ソフトバレーボール	②
	第13回	実技：インディアカ	①
	第14回	実技：インディアカ	②
	第15回	実技：ベタンク	
	第16回	スポーツとレクリエーション	

第17回～第 26回	集団レクリエーション援助実習	①～ ⑩
第27回	チャレンジ・ザ・ゲーム	①
第28回	チャレンジ・ザ・ゲーム	②
第29回	チャレンジ・ザ・ゲーム	③
第30回	まとめ、評価	

	予習
予習・復習の内容	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	資料を配付

推薦図書等

参考URL

備考

スポーツ・レクリエーション（講義）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 スポーツ・レクリエーション（講義）

科目責任者

担当教員 佐久間 淳

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 15000202

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

現代社会が抱える問題とスポーツ・レクリエーションの果たす役割について発達段階との関連から取り上げ、それぞれの発達段階において保持・増進をすべき体力要素を理解し、保持・増進のための方策について考察する。また、それぞれの体験や日常生活を省察しながら、ライフステージに合わせたスポーツの在り方や実践方法を獲得してほしい。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|-----|---------------|
| 第1回 | 第1回 | スポーツとは |
| | 第2回 | 現代社会の問題点とスポーツ |
| | 第3回 | 発育発達と運動 ① |
| | 第4回 | 発育発達と運動 ② |
| | 第5回 | 身体運動のメカニズム |
| | 第6回 | 運動と障害 |
| | 第7回 | 運動処方 |
| | 第8回 | 障害予防と応急処置 |

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。

自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。

テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）

評価の方法

テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

スポーツ・レクリエーション（実技）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 スポーツ・レクリエーション（実技）

科目責任者

担当教員 佐久間 淳

授業形態 実技

開講時期

登録コード・曜日・時限 15000302

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

種々のスポーツやニューススポーツなどを体験し、レクリエーション活動の必要性や魅力を認識するとともに、その基本的な内容を習得し活用できる能力を身につけてほしい。そのために、積極的に授業に参加し、活動することを心がけること。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|------|---------------|
| 第1回 | 第1回 | オリエンテーション |
| | 第2回 | アイスブレーキング ① |
| | 第3回 | アイスブレーキング ② |
| | 第4回 | フライングディスク ① |
| | 第5回 | フライングディスク ② |
| | 第6回 | ユニバーサルホッケー ① |
| | 第7回 | ユニバーサルホッケー ② |
| | 第8回 | インディアカ ① |
| | 第9回 | インディアカ ② |
| | 第10回 | チャレンジ・ザ・ゲーム ① |
| | 第11回 | チャレンジ・ザ・ゲーム ② |
| | 第12回 | ソフトバレーボール ① |
| | 第13回 | ソフトバレーボール ② |
| | 第14回 | 伝承遊び ① |

第15回 伝承遊び ②
第16回 ドッチボール ①
第17回 ドッチボール ②
第18回 ホスピタリティ・トレーニング ①
第19回 ホスピタリティ・トレーニング ②
第20回 支援実習 ①
第21回 支援実習 ②
第22回 支援実習 ③
第23回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	特になし（必要に応じてプリントを配布する）

推薦図書等

参考URL

備考

人間の尊厳と自立

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 人間の尊厳と自立

科目責任者 川村 博子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20000001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

人間の尊厳と自立が基本的な人権であることを理解する。事例を通して、自分の問題として理解できるようにする。

学生の達成目標

授業内容	第1回 第 1 回 介護福祉における人間の尊厳の意義 第 2 回 介護福祉における自立の意義 第 3 回 人間の尊厳と介護の関係（マズローの欲求段階説） 第 4 回 介護における自立の持つ意義（自律と自立） 第 5 回 介護における自立の持つ意義（ ICF、リハビリテーション、自己実現の視点） 第 6 回 人権思想に基づいた人間の尊厳と自立 第 7 回 理念価値としての人間の尊厳と自立、生活支援における倫理 第 8 回 法制度からみた人間の尊厳と自立 第 9 回 ライフステージに応じた自立の課題 第10回 介護における尊厳の保持と自立支援 第11回 介護における尊厳の保持と自立支援：事例研究 第12回 人間の尊厳と自立と介護福祉士養成体系 第13回 権利擁護（高齢者、障害者、児童） 第14回 同上 第15回 災害時の人間と尊厳と自立とは、まとめ
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%） 評価の方法 テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「人間の尊厳と自立」建帛社
推薦図書等	
参考URL	
備考	

人間関係の形成とコミュニケーション

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 人間関係の形成とコミュニケーション

科目責任者 川村 博子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20000101

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 自己理解、他者理解、コミュニケーション能力を高めるために演習を中心に行う。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	人間関係の形成：紹介しあう
		第2回	人間関係の形成：メッセージの共有する意欲をた
		かめる	
		第3回～第4回	人間関係の形成：自己理解（キャリアデザインノ
			ート使用）
		第5回	人間関係の形成：他者理解（多様な価値観を知
			る）
		第6回	人間関係の形成：協力
		第7回	自分の話し方を知る（逐語記録）
		第8回	コミュニケーションの基礎（意義と概要）
		第9回	コミュニケーションの技法（非言語的コミュニケ
			ーション）
		第10回～第11回	コミュニケーションの技法（言語的コミュニケ
			ーション）

第12回	職場における人間関係とコミュニケーション
第13回	利用者・家族との人間関係とコミュニケーション
第14回	道具を用いた言語的コミュニケーション

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
	教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 キャリアデザインノート、演習ノート配布「人間関係とコミュニケーション」建帛社
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活と福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 生活と福祉

科目責任者 川村 博子

担当教員 根本 曜子
中西 正人

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20000201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

社会の中での介護福祉士を意識しつつ、福祉の側面から、家族、地域、社会、日本全体へ視野を広げ、自分の生活と社会がどうつながっているのかを捉える。なぜ、個人的な生活の問題が社会で支援されているのかを考え、そのための社会保障制度と福祉のしくみと成り立ちについての必要な知識を習得する。

学生の達成目標

授業内容

第1回

第1回 オリエンテーション

第2回 家庭の基本的機能を学び、家族の概念、変容、構造や形態、さまざまな家族の機能や役割と家族の結びつきについて討議し、多様化する家族を捉える視点を養う。

第3回 地域の概念、コミュニティの概念、都市化と地域社会・過疎化と地域社会などを学び、自分の家族がどのように地域につながっているか地域社会の集団・組織を考える。

第4回 地域で暮らすことの意味を考える。地域で支えあう事例を学び、地域で暮らすことの重要性を理解する。

第5回 社会・組織の概念、機能、役割、戦前から戦後現代までの社会の変遷を学び、どのようにライフスタイルが変化したかを理解する。

第6回 福祉の現在までの考え方の変遷、自助・互助・共助・公助について学び、生活支援（自分の暮らし）と福祉とのつながりについて討議し、考えをまとめる。

第7回 社会保障とは何か、基本的な考え方、概念（範囲、憲法との関係）。その役割と意義、理念などの考え方を解説する。

第8回 戦後の緊急援護と社会保障の基礎整備：日本の社会福祉制度がなぜ発達してきたかを考える。

第9回 社会保障制度にはさまざまな制度があり、それぞれの発達について解説する。（国民皆保険、国民皆年金）

第10回 中央から地方（地方分権）へと社会保障の主体が変化してきていることを解説する。（社会福祉法、福祉六法）

第11回 日本の社会保障のしくみを解説し、自分の生活とどう関わっているかを理解する。（社会保障費用の適正化・効率化）

第12回 日本の社会の変化に対応し、今後の社会保障制度はどうあるべきかを考える。（社会保障構造改革）

第13回 従来家族の中で行われてきた生活の支援をなぜ地域、社会が担うようになったかを考える。（地域福祉の充実）

第14回 自分たちが生きて生活することとそれを支える福祉と社会保障がどのように関わり、いかに必要であるかを考える。（社会保障の財源、社会保険、社会扶助、公的保険制度、民間保険制度、持続可能な社会保障制度）

第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「新・介護福祉士養成講座2 社会と制度の理解」中央法規出版「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房「介護福祉用語辞典」ミネルヴァ書房	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護保険制度とその他の諸制度

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護保険制度とその他の諸制度

科目責任者 川村 博子

担当教員 古川 繁子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20000301

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護保険制度・障害者自立支援制度・成年後見制度・社会福祉法における権利擁護の仕組み・消費者保護法・高齢者虐待防止法・個人情報に関する制度・高齢者保険医療制度・生活習慣病予防その他の健康づくりのための施策・感染症や難病対策・予防対策など

学生の達成目標

授業内容

第1回

- 第1回 我が国の社会保障の基本的考え方、歴史と変遷について
- 第2回 介護保険制度創設の背景と目的・介護保険制度の動向
- 第3回 介護保険制度の仕組み ①（保険者・被保険者・保険料と利用者負担・受給権者）
- 第4回 介護保険制度の仕組み ②（介護保険サービス利用までの流れ・サービスの種類と内容）
- 第5回 介護保険制度の仕組み ③（介護予防・介護サービス情報の公表・第三者評価等）
- 第6回 介護保険制度における組織・団体の役割。専門職の役割
- 第7回 障害者自立支援制度創設の背景と目的、動向
- 第8回 障害者自立支援制度の仕組み ①（自立支援給付・利用者負担・障害者自立支援制度における事業者・施設・専門職と役割）
- 第9回 障害者自立支援制度の仕組み ②（障害者福祉サービス利

用の流れ・種類と内容、組織・団体・の役割)

第10回 介護実践に関連する諸制度 ①(個人情報に関する制度。成年後見制度・社会福祉法における権利擁護の仕組み。消費者保護法)

第11回 介護実践に関連する諸制度 ②(高齢者虐待防止法。高齢者保険医療制度)

第12回 介護実践に関連する諸制度 ③(生活習慣病予防その他の健康づくりのための施策。感染症・難病対策と予防)

第13回 介護実践に関連する諸制度 ④(医療関係者に関する法規・医療関係施設に関する法規)

第14回 介護実践に関連する諸制度 ⑤(生活保護制度・老人福祉法・海外の社会保障制度など)

第15回 介護実践専門家として諸制度の理解の重要性和まとめ

第7回～第9回は、川村が担当する。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「新・介護福祉士養成講座2 社会と制度の理解」中央法規出版	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護福祉特論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護福祉特論

科目責任者 田村 光子

担当教員
中西 正人
布施 千草
古川 繁子
川村 博子
井口 ひとみ
今井 訓子
清宮 宏臣
岩本 義浩

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 31002601

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 国家試験の合格に相応する内容に準じた卒業時共通試験に合格できる実力を養う。2. 初回に模擬試験を行い、その解答と解説を各授業回で学びながら主体的な学習につなげていく。3. 本試験の直前に再度模擬試験を行い、学習によって養われた自己の実力を確かめる。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 模擬試験 ①第2回 人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション第3回 社会の理解第4回 発達と老化の理解第5回 認知症の理解第6回 障害の理解第7回 コミュニケーション技術第8回 介護の基本 その1第9回 介護の基本 その2第10回 生活支援技術 その1第11回 生活支援技術 その2第

予習・復習の内容	予習		
	復習		
	展開		
成績評価	評価の基準	保育現場を想定し、子ども歌の弾き歌いができる。 期末試験・中間試験・授業への参加態度	
	評価の方法	期末試験（40%）	中間試験（30%） 授業への参加態度（30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 いとう総研資格取得支援センター編『目で見えて覚える！介護福祉士国試ナビ』中央法規出版		
推薦図書等			
参考URL			
備考			

災害・緊急時の介護

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 災害・緊急時の介護

科目責任者

担当教員
布施 千草
古川 繁子
川村 博子
井口 ひとみ
今井 訓子
清宮 宏臣
岩本 義浩
中西 正人

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 20004701

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 実際の事例等を通し、状況に応じた災害時の介護実践力をたかめるようにする。

学生の達成目標

授業内容
第1回 第1回 災害介護の必要性（布施）
第2回 災害・緊急時の種類と災害サイクル、トリアージの存在（布施）
第3回 人・生活に及ぼす影響（川村） 事例に見る生活保障
第4回 災害時のコミュニケーション支援（古川）
第5回 災害時支援の視点 からだところ（井口）
1）災害の種類別にみた健康や生活の問題、災害時期別・避難生活別に見た健康問題、日常生活問題

第 6 回 災害時の生活支援技術

- 1) 「環境」(中西) 第 7 回 災害時の生活支援技術
- 2) 「食」(岩本) 第 8 回 災害時の生活支援技術
- 3) 「排泄」(井口) 第 9 回 災害時の生活支援技術
- 4) 「睡眠」(今井) 第 10 回 災害時の生活支援技術
- 5) 「清潔」(清宮) 第 11 回 災害時の生活不活発病の予防(今井)

第 12 回 社会福祉施設における災害時の対応と防災計画(中西)

第 13 回 災害時の地域住民らとの防災計画(ハザードマップ含む)(岩本)

第 14 回 災害時の働く障害者への支援と災害後の就労・継続支援(川村)

第 15 回 まとめ、災害時の介護福祉士としての役割(布施)

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVD やさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト(70%) 振り返り(20%) 授業中の意見文(10%)
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	資料配付する。

推薦図書等

参考URL

備考

地域共生論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 地域共生論

科目責任者 川村 博子

担当教員 五十嵐 正人
清宮 宏臣
宮下 裕一

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 20000401

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義を中心とする。また、学外活動を必須とし、各自が積極的、主体的に取り組む。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション（科目の内容、授業の進め方など） 第2回 地域生活支援の歴史 第3回 障害をもつ人の暮らし方と共生について（1） 第4回 障害をもつ人の暮らし方と共生について（2） 第5回 障害をもつ人の暮らし方と共生について（3） 第6回 障害をもつ人の暮らし方と共生について（4） 第7回 障害をもつ人の暮らし方と共生について（5） 第8回 グループワーク（1）（中間まとめ；学外活動の振り返り） 第9回 グループワーク（2）（身近な社会資源を知る；社会福祉協議会ほか） 第10回 障がいのある子の保護者の方からの話 第11回 社会資源（制度や施設など）と支援の現状（1）知的障がい、発達障がいについて
------	-----	--

第12回 社会資源（制度や施設など）と支援の現状（2）重症心身障がいについて
第13回 社会資源（制度や施設など）と支援の現状（3）精神障がい、触法障がいについて
第14回 福祉実践者からの話
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
	教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし。適宜資料等を用意する。
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本 I（介護福祉論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護の基本 I（介護福祉論）

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20010501

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護の歴史を踏まえての現状把握、新しい法改正下の介護福祉士の役割と義務が理解できるようにする。諸外国の状況から自国の課題を見出せるようになる。

学生の達成目標

授業内容

第1回

第1回 ガイダンス 介護福祉士を取り巻く状況、介護の歴史：小説、体験記から学ぶ家族介護の変化
第2回 現代社会と介護－介護問題の背景 ①－日本の高齢化の特徴、家族形態、家族機能
第3回 現代社会と介護－介護問題の背景 ②－老老介護、孤独死、高齢者虐待、認知介護
第4回 尊厳を支える介護 福祉の主要理念（ノーマライゼーション、QOL利用者主体、自立支援個別ケア、ICF）
第5回 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ社会福祉士及び介護福祉士法
①定義、倫理、養成制度、プライバシーの保護
第6回 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ社会福祉士及び介護福祉士法
②専門職能団体の活動、職業倫理
第7回 介護実践における連携
①多職種連携－チームの種類と機能、連携の意義と目的第8回 介護実践における連携

- ② －他の福祉職の機能と連携第 9 回 介護実践における連携
- ③ －保健医療職との連携、医療行為第 10 回 介護実践における連携
- ④地域連携－地域連携の意義と目的第 11 回 介護実践における連携
- ⑤ －インフォーマルな社会資源の重要性第 12 回 介護実践における連携
- ⑥ －地域包括支援センターの機能と役割、行政
- 第 13 回 海外における介護福祉の動向
- 第 14 回 今後の介護福祉の課題
- 第 15 回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVD やさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「最新介護福祉全書 第 3 巻」メヂカルフレンド社随時資料配布	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本 II（介護対象論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護の基本 II（介護対象論）

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20010601

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護を必要とする人の理解を生活面、健康面、ライフサイクル面から解説し、それらの人とどう向き合うか考えていく。

学生の達成目標

授業内容

第1回

- 第1回 ガイダンス VTR
- 第2回 介護を必要とする人の理解 I－①人間の多様性・複雑性の理解（生活史）
- 第3回 介護を必要とする人の理解 I－②人間の多様性・複雑性の理解（生活習慣・生活様式）
- 第4回 介護を必要とする人の理解 I－③高齢者の暮らしの理解（世帯構成、役割、社会活動）
- 第5回 介護を必要とする人の理解 I－④高齢者の暮らしの理解（住まいと環境、収入、雇用）
- 第6回 介護を必要とする人の理解 I－⑤障害のある人の暮らしの理解（生活ニーズ）
- 第7回 介護を必要とする人の理解 I－⑥障害のある人の暮らし（生活を支える基盤）
- 第8回 介護を必要とする人の理解 I－⑦生活環境としての地域の存在
- 第9回 介護を必要とする人の理解 II－VTR「声を取り戻した2年間」

第 10回	介護を必要とする人の理解 II－①高齢者の身体的・心理的特徴
第 11回	介護を必要とする人の理解 II－②障害者の身体的・心理的特徴
第 12回	介護を必要とする人の理解 II－③終末期にある人の理解 I
第 13回	介護を必要とする人の理解 II－④終末期にある人の理解 II
第 14回	介護を必要とする人の理解 II－⑤終末期にある人の理解 III
第 15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「最新介護福祉全書 第3巻」メヂカルフレンド社随時資料配布	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本 Ⅲ（リスクマネジメント）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護の基本 Ⅲ（リスクマネジメント）

科目責任者 今井 訓子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20010701

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

具体的な事例をもとにグループワークを取り入れ、リスクマネジメント、セーフティマネジメントを考える。介護従事者が陥りやすい健康障害とその予防対策について知識を深める。

学生の達成目標

授業内容

第1回

- 第1回 ガイダンス、リスクマネジメントの考え方
- 第2回 セーフティマネジメント（介護の質の向上と安全確保）
- 第3回 リスクコントロール・リスクファイナンス
- 第4回 介護における安全確保とリスクマネジメント ①ヒヤリハット事例の分析
- 第5回 介護における安全確保とリスクマネジメント ②施設内の事故の特徴と対策
- 第6回 介護における安全確保とリスクマネジメント ③在宅での事故の特徴と対策
- 第7回 介護における安全確保とリスクマネジメント ④医療対応時（受療、服薬、医療行為）
- 第8回 介護における安全確保とリスクマネジメント ⑤感染予防
- 第9回 介護における安全確保とリスクマネジメント ⑥緊急時の対応
- 第10回 介護における安全確保とリスクマネジメント ⑦防災時のネットワーク

第 11回 認知症高齢者の事故対策
第 12回 介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ①心の健康管理（スーパービジョンの存在）
第 13回 介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ②腰痛等身体健康管理（福祉用具の活用）
第 14回 介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ③感染予防の対策と労働安全（関係法規）
第 15回 まとめ（セーフティマネジメントとの関連）

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「最新介護福祉全書 第3巻」介護の基本 メヂカルフレンド社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本 IV（リハビリテーション）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護の基本 IV（リハビリテーション）

科目責任者 今井 訓子

担当教員 宮崎 陽夫
山崎 敦

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20010801

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 リハビリテーション医学から考える介護論

学生の達成目標

授業内容	第1回 第1回 リハビリテーション医学と介護（オリエンテーション、リハビリテーション概論）第2回 リハビリテーション医学と介護（リハビリテーション概論）第3回 障害の医学的基礎知識（神経・生理学）第4回 障害の医学的基礎知識（骨・筋肉解剖）第5回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション（進行性疾患）第6回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション（脳血管疾病）第7回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション（骨折）第8回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション（運動麻痺）第9回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション（言語・排尿・嚥下障害）第10回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション（脊髄損傷・切断）第11回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション（廃用症候群）第12回 認知症のリハビリテーション第13回 シーティングについて第14回 終末期のリハビリテーション第15回 まとめ
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%） 評価の方法 テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『最新介護福祉全書別巻2 リハビリテーション論』
推薦図書等	
参考URL	
備考	

介護の基本 V（レクリエーション）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護の基本 V（レクリエーション）

科目責任者

担当教員 八鍬 拓

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20010901

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

福祉的視点に立ったレクリエーションの基礎理論と集団コミュニケーションの指導体験

学生の達成目標

授業内容

第1回

第1回 ガイダンス（「尊厳の保持」「自立支援」のためのレクリエーション）

第2回 講義：介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解 ①

第3回 講義：介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解 ②

第4回 講義：レクリエーションの活動領域と意義 ①

第5回 講義：レクリエーションの活動領域と意義 ②

第6回 講義：レクリエーション活動の主体

第7回 講義：レクリエーション計画作成及び実施

第8回 講義：レクリエーション指導者の配慮

第9回 講義：レクリエーション活動の実践

第10回 講義：高齢者・障害者レクリエーションの実際

第11回 講義：レクリエーションワークの指導法

第12回 集団レク援助実習 1

- 第 13回 集団レク援助実習 2
第 14回 集団レク援助実習 3
第 15回 まとめと評価

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「新版・介護福祉士養成講座 ⑥レクリエーション活動援助法」中央法規	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本 VI（介護サービス事務）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護の基本 VI（介護サービス事務）

科目責任者

担当教員 福岡 浩

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20011001

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護保険制度の仕組みを理解したい上で、介護報酬の算定の実務知識を理解する。

学生の達成目標

授業内容

第1回

第1回 テキスト第一章 共通事項

1. サービス全般にわたる共通事項

第2回 テキスト第一章 共通事項

2. 通則

第3回 テキスト第二章 居宅サービス

1. 訪問介護

2. 訪問入浴介護

第4回 テキスト第二章 居宅サービス

3. 訪問看護

4. 訪問リハビリテーション

第5回 テキスト第二章 居宅サービス

5. 居宅療養管理指導

6. 通所介護

第6回 テキスト第二章 居宅サービス

7. 通所リハビリテーション

8. 福祉用具貸与

第7回 テキスト第二章 居宅サービス
9. 短期入所生活介護
10. 短期入所療養介護
第8回 テキスト第二章 居宅サービス
11. 特定施設入居者介護
12. 居宅介護支援
第9回 テキスト第三章 地域密着型サービス
第10回 テキスト第四章 施設サービス
第11回 テキスト第五章 公費請求方法
第12回 練習問題 様式第二、様式第八の事例問題の解答、解説
第13回 練習問題 様式第二、様式第八の事例問題の解答、解説
第14回 模擬試験（90分）
第15回 練習問題 様式第二、様式第八の事例問題の解答、解説
及び振り返り

	予習	
予習・復習の内容	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『介護保険事務士養成テキスト（実務編）』『介護給付費単位数等サービスコード表』	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

コミュニケーション技術 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 コミュニケーション技術 I

科目責任者 古川 繁子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20001101

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義形式ではあるが、全体的に事例と演習を豊富に交えながら、介護の場面に即応したコミュニケーション技術が習得できる。

学生の達成目標

授業内容

第1回

- 第1回 介護コミュニケーションの基本：介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割を知る
- 第2回 利用者・家族との関係づくり（波長合わせ・ラポールの取り方）
- 第3回 介護の場面における利用者・家族とのコミュニケーションの実際（話を聞く技法 利用者の感情表現を察する技法－気づき、洞察力、その他）
- 第4回 利用者・家族とのコミュニケーションの実際（非言語的コミュニケーション）
- 第5回 利用者・家族とのコミュニケーションの実際（納得と同意を得る方法。相談・助言・指導。意欲を引き出す技法。利用者本人と家族の意向の調整。その他）
- 第6回 利用者の状況に応じたコミュニケーションの実際（感覚機能が低下している人とのコミュニケーション。運動機能の低下している人とのコミュニケーション。認知・知覚機能の低下している人とのコミュニケーション。その他）
- 第7回 記録による情報の共有化（介護における記録の意義・目

的・介護に関する記録の種類記録の技法－方法、留意点)
第8回 記録による情報の共有化(記録の方法・留意点。記録の管理。介護記録の共有化)
第9回 情報通信機器を活用した記録の意義と実際。活用の留意点。個人情報の保護。活用
第10回 介護におけるチームコミュニケーション報告の意義・目的(報告・通知・相談の方法。留意点)
第11回 会議の意義と目的(会議の種類・方法・留意点。その他)
第12回 話を聞く技法②(傾聴とカウンセリングマインド・個別的な価値に気付く)
第13回 話を聞く技法③(家族とのコミュニケーションの実際)
第14回 記録の技法②(マッピング:ジェノグラム・ソシオグラム)
第15回 記録の技法③(評価:アセスメント・エバリュエーション・モニタリング)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト(70%) 振り返り(20%) 授業中の意見文(10%)
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	なし
推薦図書等		
参考URL		
備考		

コミュニケーション技術 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 コミュニケーション技術 II

科目責任者 古川 繁子

担当教員 渡邊 研
高橋 恵子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20001201

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

手話（渡邊 研）

授業の方法については、基礎的な手話の習得を図るための手話実技の演習を行うとともに、必要に応じて、聴覚障害を理解するための講義を行う。

授業のねらい・概要

点字（高橋恵子）

授業の方法については、基礎的な点字の習得を図るための点字実技の演習を行うとともに、必要に応じて、視覚障害を理解するための講義を行う。点字は一朝一夕に学ぶことができないので、継続的な学習を行うこと。

学生の達成目標

授業内容

第1回 手話（渡邊 研）
第1回 聴覚障害の定義及び障害の種類と分類・手話実技演習
第2回 聴力測定の方法及び補聴器の種類と機能・手話実技演習
第3回 コミュニケーションの基礎的な考え方と聴覚障害児のコミュニケーション・手話実技演習
第4回 聴覚障害教育のコミュニケーション手段・手話実技演習
第5回 聴覚障害教育におけるコミュニケーション指導法・手話実技演習

	第6回 聴覚障害教育における言語指導の重要性及び困難性・手話実技演習 第7回 聴覚障害児の各発達段階における言語指導の方法・手話実技演習 第8回 手話の造語法と統語法及び指文字の効果的習得の方法・手話実技演習 点字（高橋恵子） 第1回 点字の歴史、点字の概要、器具の使い方、五十音の読み書き 第2回 濁音、拗音、拗濁音、拗半濁音の読み書き 第3回 点字の仮名遣い 第4回 点字の数字 第5回 点字のアルファベット 第6回 点字の分かち書き（文節分かち書き） 第7回 点字の分かち書き（複合語） 第8回 記号類の使い方、書き方の形式、まとめ
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%） 評価の方法 テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 手話（渡邊 研） プリント 点字（高橋恵子） 『初めての点訳第2版』全国視覚障害者情報提供施設協会編
推薦図書等	
参考URL	
備考	

生活支援技術 I（総論・環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 生活支援技術 I（総論・環境）

科目責任者

担当教員 清宮 宏臣
今井 訓子
岩本 義浩
中西 正人

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20011201

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 生活支援に関する課題を学生が主体的に調べて発表と批評をし合いながら理解を進められる機会を設ける。2. 生活支援に関して全人間的に理解するために事例を通じた学びの機会を設ける。

学生の達成目標

1. 生活支援技術における生活支援について全人間的に理解する。
2. 人間としての尊厳を保持し、利用者が自らの生き方を主体的に実現できる生活支援の在り方が理解できる。
3. 環境を整えて活用すると共に、利用者が自らの持てる力を生かした生き方をしていける生活支援の在り方が理解できる。
4. 生活支援における社会参加を理解する。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）、生活形成のプロセス（ライフサイクル）や生活行動（生活経営）について

第2回 生活支援について（支援対象者、支援対象者の住まい、居住環境について）
第3回 居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習1）
第4回 居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習2）
第5回 居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習3）
第6回 居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習4）
第7回 居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習5）
第8回 ICFと生活支援について1（ICFの構成要素、ICFの生活支援への活用）
第9回 ICFと生活支援について2（参加に向けて；自己実現、生きがい、地域への参加）
第10回 居住環境の整備に向けて1（安全な住まい、快適な室内環境、課題や問題点）
第11回 居住環境の整備に向けて2（暮らし易さへの工夫・方法、福祉用具の活用、住宅改修事例）
第12回 居住環境の整備に向けて3（施設における工夫、認知症高齢者への環境支援、ユニバーサルデザイン）
第13回 生活行為への支援（身じたく、睡眠）
第14回 生活行為への支援（排泄）
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	「生活支援技術 I 基本編」メヂカルフレンド社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活支援技術 II（移動）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 生活支援技術 II（移動）

科目責任者

担当教員 岩本 義浩
今井 訓子
清宮 宏臣
中西 正人

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20011301

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

移動に関する課題を学生が主体的に調べ発表と批評をしながら理解を進められる機会を設ける。移動に関するプラス面と安全の大切さについてグループワークを通じて学ぶ機会を設ける。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 自立に向けた住環境
第2回 移動の介護の基本
第3回 移動に関するアセスメントと目標設定 ①本人の観点
第4回 移動に関するアセスメントと目標設定 ②「心身機能」
「身体構造」からの観点
第5回 移動に関するアセスメントと目標設定 ③「活動」「参
加」からの観点
第6回 安全で気兼ねなく動けることを支える介護
第7回 安全で的確な移動介助の方法 ①基本的留意点・立ち上がり
動作とボディメカニクス
第8回 安全で的確な移動介助の方法 ②コミュニケーション観察

と環境整備

第9回 安全で的確な移動介助の方法 ③観察と環境整備、アセスメントに基づく介助

第10回 安全で的確な移動介助の方法 ④体位交換 I・II、歩行介助

第11回 安全で的確な移動介助の方法 ⑤車いす介助

第12回 他の職種の役割と協働

第13回 移動介護演習 ①

第14回 移動介護演習 ②

第15回 1 移動における介護演習を振り返って・まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	「最新介護福祉全書 第5巻・第6巻 生活支援技術 I・II」メヂカルフレンド社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活支援技術 Ⅲ（食事）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 生活支援技術 Ⅲ（食事）

科目責任者

担当教員 今井 訓子
清宮 宏臣
岩本 義浩
中西 正人

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20011401

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 食事に関する介護技術を事例で説明し、演習で介助者・利用者の体験をすることから、食事の意義を考えられるように図る。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 意義と目的	ガイダンス、自立に向けた食事の介助：食事の意
		第2回～第3回	食事に関する利用者のアセスメント
		第4回～第5回	「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫
		第6回	安全で的確な食事介助
		第7回	感覚機能が低下している人の介助（事例検討）
		第8回	運動機能が低下している人の介助（事例検討）
		第9回	認知・知覚機能が低下している人の介助（事例検討）
		第10回	誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点
		第11回	脱水予防
		第12回～第13回	食事介助（演習）

第 14回	他職種の役割と協働（経管栄養を行っている人の介護の留意点）
第 15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	メヂカルフレンド社「最新介護福祉全書 第 5 巻・第 6 巻」	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活支援技術 IV（清潔・入浴）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 生活支援技術 IV（清潔・入浴）

科目責任者

担当教員 清宮 宏臣
今井 訓子
岩本 義浩
中西 正人

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20011501

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

清潔に関して、特に入浴について講義および演習を行う。演習では一般的な家庭浴槽や寝台浴槽などに実際に入る。そのほか、寝たまま行う全身清拭や洗髪について演習を行う。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）、清潔について（意義と目的） 第2回 入浴、清潔に関して；支援を要する利用者の様子 第3回 入浴、清潔にむけた利用者のアセスメントの視点 第4回 爽快感・安楽を支える介護（入浴を楽しむ環境作りや安全で安楽な入浴） 第5回 入浴に関して（効果とリスク） 第6回 入浴に関して（浴槽の種類） 第7回～第8回 感覚機能・運動機能・認知機能・知覚機能が低下している人の介助の留意点（事例検討） 第9回～第10回 入浴・シャワー浴の介護（演習）
------	-----	---

第 11回～第 13回 洗髪、全身清拭、足浴（演習）
第 14回 他職種との役割と協働
第 15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「生活支援技術 I 基本編」メヂカルフレンド社
-----	--

推薦図書等

参考URL

備考

生活支援技術 V（身じたく）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 生活支援技術 V（身じたく）

科目責任者

担当教員 岩本 義浩
今井 訓子
清宮 宏臣
中西 正人

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20011601

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 身じたく・整容に関する介護技術の内容である。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 第2回～第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回	ガイダンス、自立に向けた身支度の介護：身じたくの意義と目的 身じたくに関する利用者のアセスメント 生活習慣と装いの楽しみを支える介護 整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメント 整容行動、衣生活の介助の技法（洗面、整髪、ひげの手入れ、爪、化粧等） 整容行動、衣生活の介助の技法（口腔の清潔、衣服着脱） 口腔の清潔（演習） 衣服着脱（演習）パジャマ 足浴と爪切り（演習） 感覚機能が低下している人の介助（事例検討）
------	-----	--	--

		第 12回	運動機能が低下している人の介助（事例検討）
		第 13回	認知機能が低下している人の介助（事例検討）
		第 14回	他職種の役割と協働
		第 15回	まとめ
	予習		
予習・復習の内容	復習		
	展開		
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）	
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。	
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
	「最新介護福祉全書 第 5 巻・第 6 巻」メヂカルフレンド社		
推薦図書等			
参考URL			
備考			

生活支援技術 VI（排泄）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 生活支援技術 VI（排泄）

科目責任者

担当教員 岩本 義浩
今井 訓子
清宮 宏臣
中西 正人

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20011701

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 排泄に関する介護技術の内容である。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 義・目的 第2回～第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回	ガイダンス、自立に向けた排泄の介護：排泄の意義・目的 排泄に関する利用者のアセスメント（ICFの視点に基づく） 気持ちよい排泄を支える介護①（がまんさせない工夫） 気持ちよい排泄を支える介護②（環境づくり） 気持ちよい排泄を支える介護③（その他） 安全・的確な排泄の介助の技法①（トイレ・ポータブルトイレ、採尿器・差し込み便器、おむつ） 安全・的確な排泄の介助の技法②（おむつ） 排泄の介助の技法①（トイレ・ポータブルトイレ、採尿器・差し込み便器、おむつ（演習）
------	-----	--	--

第 10回 排泄の介助の技法 ②（演習）
第 11回～第 12回 感覚機能、運動機能、認知・知覚機能が低下している人の介助（事例検討）
第 13回 便秘・下痢の予防のための日常生活の留意点、尿回数が多い人、失禁時の介護
第 14回 他職種の役割と協働（坐薬、浣腸、人工肛門、留置カテーテル含む）
第 15回 まとめ

	予習	
予習・復習の内容	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「最新介護福祉全書 第5巻・第6巻」メヂカルフレンド社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）

科目責任者

担当教員 今井 訓子
清宮 宏臣
岩本 義浩
中西 正人

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20011801

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

睡眠に関する安楽な技法を理解するために自己の体験発表やグループワークを取り入れる。緊急時の対応を理解すると共に、在宅ターミナルケアや介護施設での見取りについて考えられるようになる。

学生の達成目標

授業内容

- | | |
|-----|--------------------------------------|
| 第1回 | 第1回 ガイダンス、自立に向けた睡眠の介護：睡眠の意義、目的 |
| | 第2回 睡眠に関するアセスメント |
| | 第3回 安眠のための介護、安眠を促す介護の技法、安眠に関する環境 |
| | 第4回 利用者の状況による介助の留意点 |
| | 第5回 安眠のための介護、安眠を促す介護の技法 電法、マッサージ（演習） |
| | 第6回 緊急時のアセスメント |
| | 第7回 緊急事故時の状況観察と応急手当（演習） |
| | 第8回 終末期における介護の意義と目的（事前意思確認） |
| | 第9回 利用者のアセスメントと医療との連携（ICFに基づく看取 |

りのための制度)

第 10回 終末期における介護、緩和ケア

第 11回 臨終時の対応、在宅ターミナルケア、死後の処置

第 12回 死後の処置（演習）

第 13回 グリーフケア

第 14回 事例検討

第 15回 事例を通してのまとめ

	予習
予習・復習の内容	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 メヂカルフレンド社「最新介護福祉全書 第5巻・第6巻」
-----	--

推薦図書等

参考URL

備考

生活支援技術Ⅷ（障害別）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 生活支援技術Ⅷ（障害別）

科目責任者

担当教員 今井 訓子
清宮 宏臣
岩本 義浩
中西 正人

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20011901

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

事例を用いて展開する。質問に対する答えを考えながら、運動機能障害、感覚機能障害、内部障害等の障害の内容と生活支援方法を具体的にイメージする。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 ガイダンス
第2回 片麻痺のある人の生活支援（例：脳血管障害の人）
第3回 運動および知覚機能に障害がある人の生活支援（例：脊髄損傷の人）
第4回 関節痛や関節可動域制限のある人の生活支援（例：慢性関節リウマチの人）
第5回 振戦や姿勢反射障害のある人の生活支援（例：パーキンソン病の人）
第6回 失語症や構音障害のある人の生活支援
第7回 視覚・聴覚機能障害のある人の生活支援
第8回 難病で在宅療養している人の生活支援（例：ALSまたは筋ジストロフィーの人）

- 第 9 回 発達障害のある人の生活支援
- 第 10 回 精神障害のある人の生活支援
- 第 11 回 心臓機能障害のある人の生活支援
- 第 12 回 呼吸機能障害のある人の生活支援
- 第 13 回 腎臓機能障害排泄機能障害のある人の生活支援
- 第 14 回 排泄機能障害のある人の生活支援
- 第 15 回 生活支援全般における振返・まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	メヂカルフレンド社 生活支援技術 II（障害）

推薦図書等

参考URL

備考

家事生活支援技術 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 家事生活支援技術 I

科目責任者

担当教員 廣橋 比刀美

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20002001

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 家事の意義や目的、洗濯、掃除、裁縫、家庭経営等に関する知識と介助を学ぶ。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第 1 回	授業オリエンテーション、注意事項、自己紹介 家事の意義と目的・家事に関する利用者のアセスメント
		第 2 回	被服・繊維について …繊維の講義、繊維の実験の準備
		第 3 回	被服・繊維について …繊維の実験（燃焼性・
		吸水性）	
		第 4 回	被服・繊維について …繊維の実験・しみ抜き
		の準備	
		第 5 回	しみ抜きの実習
		第 6 回	洗濯の実習（セーターの洗濯）
		第 7 回	しみ抜き・洗濯のまとめ
		第 8 回	被服実習 …基本の縫い方・繕いについて第 9
		回～第 13 回	被服実習 …おむつ・袋を縫う（ボタン付けの練習など）
		第 14 回	感覚・運動機能、認知・知覚機能が低下してい

予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%） 評価の方法 テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「最新家庭科トータルデータ」教育図書
推薦図書等	
参考URL	
備考	

家事生活支援技術 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 家事生活支援技術 II

科目責任者

担当教員 三幣 周子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20002101

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 日常生活の支援方法が確実に自己の学習内容として実践できる。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 食生活の意義（健康と栄養、状態別の栄養（年齢と栄養） 第2回 高齢者の心身の特性を知った上での形態別の配慮と対応のあり方 （生活習慣病の予防も含む） 第3回 献立と調理（摂食者の状況にあった献立作成と調理法） 第4回～第5回 調理実習（1）…日常食から介護職への展開 第6回～第7回 調理実習（2）…高齢者の食事（身体活動の保持と疾病の予防をふまえて） 第8回～第9回 調理実習（3）…障害者の食事（障害の程度に応じた食事） 第10回～第11回 調理実習（4）…生活習慣病の食事（予防と維持回復をふまえて） 第12回～第13回 調理実習（5）…郷土食 第14回 調理実習（6）…支援したい食事をグループで
------	-----	--

作る。
第15回 まとめ
※実習衣（割烹着・三角巾）を着用。第1回の授業で説明します。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『生活支援技術 IV』建帛社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護過程 I（総論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護過程 I（総論）

科目責任者

担当教員 川村 博子
古川 繁子
清宮 宏臣
根本 曜子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20012201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護過程の意義や目的、介護過程の各段階の内容

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	介護過程とは、意義と目的
		第2回	介護過程の必要性、視点（VTR、ICFの視点、新しい介護）
		第3回	介護課程の全体像（ケアマネジメントと介護課程、介護課程のプロセス説明）
		第4回～第5回	ケアマネジメント展開する際の諸サービスと関係法
		第6回	アセスメントとは（ICFの視点を踏まえて）
		第7回	アセスメントとは（情報収集、記録、ジェノグラム、エコグラム）
		第8回	計画の立案とは、目標の設定
		第9回	計画の立案の実践
		第10回	実施とは、準備と留意点

第 11回	評価とは
第 12回～第 13回	事例に基づく介護課程の展開の実際
第 14回	介護課程の展開の実際（2年生の発表会出席）
第 15回	まとめ

	予習	
予習・復習の内容	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「新・介護福祉士養成講座9 介護過程」中央法規	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護過程Ⅱ（演習）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護過程Ⅱ（演習）

科目責任者

担当教員 川村 博子
古川 繁子
清宮 宏臣
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20012301

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 身体障害および精神障害、施設および在宅介護等の事例の介護を展開する。

学生の達成目標

授業内容	第1回	グループワークを基本とする。4教員が各グループを6～8コマ担当し、諸事例によって介護過程の展開を行う。 第1回～第2回 オリエンテーション、実習事例のプロセスレコード作成 第3回～第4回 ガイダンス、事例Aの説明 第5回～第6回 アセスメント 第7回～第8回 計画・実施・評価 第9回～第10回 ガイダンス、事例Bの説明 第11回～第12回 アセスメント 第13回～第14回 計画・実施・評価 第15回～第16回 ガイダンス、事例Cの説明 第17回～第18回 アセスメント 第19回～第20回 計画・実施・評価
------	-----	---

第 21回～第 22回 ガイダンス、事例Dの説明
第 23回～第 24回 アセスメント
第 25回～第 26回 計画・実施・評価
第 27回～第 28回 発表準備
第 29回～第 30回 発表

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「介護過程」中央法規
-----	---

推薦図書等

参考URL

備考

介護過程 Ⅲ（チームアプローチ）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護過程 Ⅲ（チームアプローチ）

科目責任者

担当教員 川村 博子
古川 繁子
清宮 宏臣
根本 曜子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20012401

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 事例展開を通して、チームアプローチの方法や必要性を考える。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	ガイダンス、グループ分け
		第2回	介護に関連する各職種と連携について
		第3回	施設内でのチームアプローチを考えて展開する事例A（ケースカンファレンス）
		第4回～第8回	事例Aの介護展開のグループワーク
		第9回	地域でのチームアプローチを考えて展開する事例B（サービス担当者会議・介護サービス計画）
		第10回～第14回	事例Bの介護展開のグループワーク
		第15回	まとめ

予習・復習の内容 予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。

自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。

テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）

評価の方法

テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

「新・介護福祉士養成講座9 介護過程」中央法規

推薦図書等

参考URL

備考

介護過程Ⅳ（事例研究）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護過程Ⅳ（事例研究）

科目責任者

担当教員 川村 博子
布施 千草
古川 繁子
井口 ひとみ
今井 訓子
清宮 宏臣
岩本 義浩
中西 正人

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20012501

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 Ⅲ・Ⅳ段階の実習で展開した事例のまとめとクラス全体での発表。

学生の達成目標

授業内容 第1回 第1回 ガイダンス（全体）
第2回～第5回 実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振り返り（実習担当教員のグループで行う）
第6回～第10回 実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備（実習担当教員のグループで行う）
第11回 発表準備・印刷（全体）
第12回 発表準備・製本（全体）
第13回～第14回 発表（全体）

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、
自分の考えを相手に伝えることができる。

自分の考えを明確に示した小論文にまとめること
ができる。

テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の
意見文（ 10%）

評価の方法

テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価す
る。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

「新・介護福祉士養成講座9 介護過程」中央法規

推薦図書等

参考URL

備考

介護総合演習 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護総合演習 I

科目責任者 岩本 義浩

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20002601

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義を中心とするが、学生が考える時間や発言する機会を設ける。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）
	第2回	実習について（意義と目的、心得など）
	第3回	実習先や利用者について（1）知的障害児者
	第4回	実習先や利用者について（2）肢体不自由児者
	第5回	実習先や利用者について（3）重症心身障害児者
	第6回	実習先や利用者について（4）認知症高齢者
	第7回	記録の書き方（1）記録の意義・目的
	第8回	記録の書き方（2）基本的な書き方、文体
	第9回	学生個人標と個人目標について
	第10回	介護実習（第 I 段階）の実習先別学内オリエンテーション
	第11回	実習において予測される諸問題（1）
	第12回	実習において予測される諸問題（2）
	第13回	介護実習（第 I 段階）に必要な物の確認・準備
	第14回	まとめ
	第15回	介護実習（第 I 段階）の直前オリエンテーション

	予習	
予習・復習の内容	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
	教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『介護総合演習』メヂカルフレンド社
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護総合演習 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護総合演習 II

科目責任者 岩本 義浩

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20002701

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義を中心とするが、学生が考える時間や発言する機会を設ける。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション（授業の進め方）
	第2回	介護実習（第Ⅰ段階）のまとめ反省会
	第3回	グループワーク（1）介護実習（第Ⅰ段階）の学び
	第4回	グループワーク（2）介護実習（第Ⅰ段階）の学び
	第5回	グループワーク（3）介護実習（第Ⅰ段階）の学び
	第6回	グループワーク（4）介護実習（第Ⅰ段階）の学び
	第7回	学生個人標と個人目標について、記録の書き方
	第8回	実習先や利用者について
	第9回	リスクマネジメントについて
	第10回	介護実習（第Ⅱ段階）の実習先別学内オリエンテーション
	第11回	実習において予測される諸問題（1）
	第12回	実習において予測される諸問題（2）
	第13回	介護実習（第Ⅱ段階）に必要な物の確認・準備
	第14回	まとめ
	第15回	介護実習（第Ⅱ段階）の直前オリエンテーション

	予習	
予習・復習の内容	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	『介護総合演習』メヂカルフレンド社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護総合演習 Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護総合演習 Ⅲ

科目責任者 岩本 義浩

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 20002801

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 学生が考える時間や発言する機会を多く設ける。

学生の達成目標

授業内容

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 第1回 オリエンテーション（授業の進め方） |
| | 第2回 介護実習（第Ⅱ段階）のまとめ反省会 |
| | 第3回 グループワーク（1）介護実習（第Ⅱ段階）の学び |
| | 第4回 グループワーク（2）介護実習（第Ⅱ段階）の学び |
| | 第5回 グループワーク（3）介護実習（第Ⅱ段階）の学び |
| | 第6回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の課題への理解（1） |
| | 第7回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の課題への理解（2） |
| | 第8回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の課題への理解（3）
介護過程の必要性について |
| | 第9回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の課題への理解（4）
介護過程における情報収集と分析 |
| | 第10回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の課題への理解（5）
介護過程における計画立案、実践、評価について |
| | 第11回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の課題への理解（6）
介護過程；パイパーペイシエントによる展開 |
| | 第12回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の課題への理解（7）
介護過程；パイパーペイシエントによる展開 |
| | 第13回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の課題への理解（8） |

	介護過程；パイパーペイシエントによる展開 第14回 居宅介護実習について 第15回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の事前準備（学生個人票、個人目標など） 第16回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階、居宅実習）の実習先別学内オリエンテーション 第17回 実習後の課題の事例研究について 第18回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）に必要な物の確認・準備 第19回 まとめ（レポート） 第20回 介護実習（第Ⅲ段階）の直前オリエンテーション 第21回 介護実習（第Ⅳ段階）の直前オリエンテーションと実習課題の進捗状況 第22回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）のまとめ反省会 第23回 それぞれの介護観について 第24回 居宅介護実習の振り返り 第25回 テーマ別グループワーク（1） 第26回 テーマ別グループワーク（2） 第27回 テーマ別グループワーク（3） 第28回 テーマ別グループワーク（4） 第29回 テーマ別グループワーク（5） 第30回 まとめ（レポート）	
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『介護総合演習』メヂカルフレンド社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護実習 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護実習 I

科目責任者 岩本 義浩

担当教員

布施 千草
川村 博子
今井 訓子
清宮 宏臣
中西 正人
古川 繁子
井口 ひとみ
石原 富子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20002901

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

認知症対応グループホームにおいて1週間の介護を実践する。児童福祉施設において1日の見学実習をする。

学生の達成目標

授業内容

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。
	評価の方法	テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
教科書	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。	
	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	介護実習の手引き	
参考URL		
備考		

介護実習 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護実習 II

科目責任者 岩本 義浩

担当教員

布施 千草
川村 博子
今井 訓子
清宮 宏臣
中西 正人
古川 繁子
井口 ひとみ
石原 富子

授業形態 実習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20003001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 入所施設実習とデイサービス・デイケア実習を併用し実習する。

学生の達成目標

授業内容

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
	教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 介護実習の手引き
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護実習 Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護実習 Ⅲ

科目責任者 岩本 義浩

担当教員

布施 千草
川村 博子
今井 訓子
清宮 宏臣
中西 正人
古川 繁子
井口 ひとみ
石原 富子

授業形態 実習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20003101

教室

単位数 3

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

「実習施設・事業等（Ⅱ）」の施設において13日間の介護実習をおこなう。Ⅳ段階実習も同一場所となる。居宅介護実習の実習期間でもある。

学生の達成目標

授業内容

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
	教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 介護実習の手引き
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護実習 IV

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護実習 IV

科目責任者 岩本 義浩

担当教員

布施 千草
川村 博子
今井 訓子
清宮 宏臣
中西 正人
古川 繁子
井口 ひとみ
石原 富子

授業形態 実習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20003201

教室

単位数 4

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

Ⅲ段階介護実習と同じ施設での実習。介護過程を展開し自己の介護観をまとめる。居宅介護実習の実習期間でもある。

学生の達成目標

授業内容

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
	教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 介護実習の手引き
推薦図書等		
参考URL		
備考		

発達と老化の理解 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 発達と老化の理解 I

科目責任者

担当教員 丹羽 真里

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20003301

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

老年期の心理的問題を理解し、発見（障害の把握）やそれに基づく援助の方策について学ぶ。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|-------|---|
| 第1回 | 第 1 回 | 人間の生涯発達の過程 |
| | 第 2 回 | 発達段階の特徴 |
| | 第 3 回 | 老年心理学研究の歴史（老年期の定義） |
| | 第 4 回 | 高齢者の心と身体（老年期の発達課題） |
| | 第 5 回 | 老年期の知能と記憶 |
| | 第 6 回 | 高齢者の人格 |
| | 第 7 回 | 高齢者の知覚 |
| | 第 8 回 | 老年期の身体（1）
（身体機能の変化と日常生活への影響） |
| | 第 9 回 | 老年期の身体（2）
（知的・認知機能の変化・精神的機能の変化と日常生活への影響） |
| | 第10回 | 老年期の心理（1）
（老人を受けとめる高齢者の気持ち、役割喪失、別れ） |
| | 第11回 | 老年期の心理（2） |

		(経済不安、障害を受けとめる高齢者の気持ち)
	第12回	家族、対人関係と社会生活
	第13回	高齢者の支援（１） 職員の対応についてビデオを見て学ぶ。
	第14回	高齢者の支援（２） 対応の仕事の基本を押さえる。
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「高齢者心理学」建帛社 一番ヶ瀬康子監修 下仲順子、中里克治編著	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

発達と老化の理解 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 発達と老化の理解 II

科目責任者

担当教員 布施 千草
今井 訓子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20003401

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 老化による身体的変化、高齢者におこりやすい疾病の特徴および日常生活での予防。

学生の達成目標

授業内容	第1回 第1回 ガイダンス、加齢（老化）とは 第2回 “老い”に対する捉え方・価値 第3回 老化に伴う身体の変化と生活への影響（感覚器系、脳神経系） 第4回 老化に伴う身体の変化と生活への影響（消化器系、循環器系） 第5回 老化に伴う身体の変化と生活への影響（泌尿器系、内分泌系ほか） 第6回 高齢者と健康 高齢者の病気の特徴 第7回～第10回 生活不活発病とその予防（寝たきり予防に向けて） 第11回～第13回 高齢者がかかりやすい病気とその予防、生活上の留意点 第14回 介護保険における特定疾病 第15回 まとめ
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%） 評価の方法 テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「新・介護福祉士養成講座 11 発達と老化の理解」中央法規
推薦図書等	
参考URL	
備考	

認知症の理解 I（認知症総論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 認知症の理解 I（認知症総論）

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20013501

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

認知症のある人を取り巻く社会環境を知るとともに、医学的視点に基く認知症の症状理解を行う。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 認知症を取り巻く状況と認知症ケアの歴史的変遷（認知症の疫学、施策も含む）
	第2回	第2回 医学的側面から見た認知症についての基礎的理解（原因となる疾患と特徴）
	第3回	第3回 認知症の検査や治療法を理解
	第4回	第4回 中核症状と周辺症状の特徴的理解 そのⅠ 記憶障害・見当識障害・失語・失行・失認・その他
	第5回	第5回 中核症状と周辺症状の特徴的理解 そのⅡ 徘徊・妄想・食行動異常・その他
	第6回	第6回 認知症進行に伴う症状変化の理解（ステージアプローチの必要性）
	第7回	第7回 コミュニケーション障害としての認知症
	第8回	第8回 まとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。

自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。

テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）

評価の方法

テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

「新・介護福祉士養成講座 12 認知症の理解」中央法規

推薦図書等

参考URL

備考

認知症の理解 II（認知症対象論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 認知症の理解 II（認知症対象論）

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20013601

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 認知症のある人と家族の理解。

学生の達成目標

第1回 第1回 認知症のある人が抱える心理的な問題（ふかい、不安、混乱、被害感等）
第2回 認知症のある人にみられるさまざまな行動 BPSDについて、その出現原因、介護者との関係
第3回 認知症にともなうところとからだの変化と日常生活（認知症のある人の内的世界の理解）
第4回 認知症のある人の家族の心理と障害受容
第5回 認知症のある人を介護する家族への支援
第6回 若年性認知症のある人と家族への支援 その I
第7回 若年性認知症のある人と家族への支援 その II
第8回 まとめ

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。
		テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「新・介護福祉士養成講座 12 認知症の理解」中央法規	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

認知症の理解 Ⅲ（認知症援助論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 認知症の理解 Ⅲ（認知症援助論）

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20013701

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 認知症ケアの実際と今後の課題について学習する。

学生の達成目標

授業内容

第1回	第1回	認知症ケアの理念について	
	第2回	パーソンセンタードケアについて	そのⅠ
	第3回	パーソンセンタードケアについて	そのⅡ
	第4回	認知症の心理療法	そのⅠ
	第5回	認知症の心理療法	そのⅡ
	第6回	認知症のある人のケアマネジメント	竹内式 其のⅠ
	第7回	認知症のある人のケアマネジメント	其のⅡ
	第8回	認知症のある人のケアマネジメント	センター方式 其のⅠ
	第9回	認知症のある人のケアマネジメント	其のⅡ
	第10回	認知症のある人のケアマネジメント	其のⅢ
	第11回	認知症の予防	
	第12回	認知症のある人の地域包括ケア（連携と協働）－尾道市の取り組みの紹介	其のⅠ
	第13回	認知症のある人の地域包括ケア（連携と協働）－尾道市の取り組みの紹介	其のⅡ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	認知症の理解	中央法規
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害の理解 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 障害の理解 I

科目責任者 川村 博子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20003801

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

障害の概念、障害者福祉の理念、精神障害・知的障害等の種類と原因と特性、家族への支援を理解する。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	障害のある人の生活
		第2回	障害の概念（ICFについて）
		第3回	我が国における障害者の定義
		第4回～第5回	障害者福祉の基本理念
		第6回～第7回	知的障害のある人の理解
		第8回～第9回	精神障害のある人の理解
		第10回～第11回	高次機能障害のある人の理解
		第12回～第13回	発達障害のある人の理解
		第14回	家族への支援
		第15回	地域におけるサポート・まとめ

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	「新・介護福祉士養成講座 13 障害の理解」中央法規	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害の理解 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 障害の理解 II

科目責任者 岩本 義浩

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20003901

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 身体障害の医学的側面と家族の支援、障害のアセスメントを講義する。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 ガイダンス 障害のある人の生活を理解
	第2回	視覚障害のある人の生活 I
	第3回	聴覚・言語障害のある人の生活 I
	第4回	視覚障害・聴覚・言語障害のある人の生活 II
	第5回	肢体不自由（運動機能障害）のある人の生活
	第6回	障害当事者による実生活（講話）
	第7回	内部障害者のある人の生活
	第8回	重症心身障害のある人の生活 I
	第9回	重症心身障害のある人の生活 II
	第10回	難病のある人の生活
	第11回	障害のある人に対する介護の基本視点
	第12回	基本的視点に基本づいた個別支援
	第13回	社会資源の利用と開発
	第14回	連携と共同－地域におけるサポート体制の確立（構築）に向けて
	第15回	まとめ

	予習	
予習・復習の内容	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	「障害の理解」中央法規	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみI(人体の構造と機能)

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 こころとからだのしくみI(人体の構造と機能)

科目責任者

担当教員 大野 孝則

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 20014001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 人体の解剖と生理の基礎を講義。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 ガイダンス。細胞、生体膜、核、DNA、ATP
	第2回	組織(上皮、支持、筋、神経)
	第3回	組織(血液)、ホメオスターシス
	第4回	皮膚・骨格系の解剖と生理
	第5回	筋系の解剖と生理
	第6回	呼吸器系の解剖と生理
	第7回	循環器系の解剖と生理
	第8回	消化器系の解剖と生理
	第9回	腎・泌尿器系の解剖と生理
	第10回	血液造血器系、内分泌系、生殖系の解剖と生理
	第11回~第13回	脳・神経系の解剖と生理
	第14回~第15回	感覚器の解剖と生理

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。

自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。

テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）

評価の方法

テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

使用せず。

推薦図書等

参考URL

備考

こころとからだのしくみ II（疾患の症状と介護）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 こころとからだのしくみ II（疾患の症状と介護）

科目責任者

担当教員 大野 孝則

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20014101

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 頻度の高い症候と主要疾病の基礎を講義。

学生の達成目標

第1回	第1回 貧血、出血
	第2回 呼吸困難、チアノーゼ、ショック
	第3回 消化器症状、黄疸、排尿困難
	第4回 脱水、浮腫
	第5回 意識、睡眠、歩行障害
	第6回 疾病総論、感染症、免疫異常
	第7回 悪性腫瘍、虚血性心疾患、脳血管障害
	第8回 高血圧、糖尿病、他の代謝疾患
	第9回 呼吸器、循環器の疾患、血液疾患
	第10回 消化器疾患、腎・泌尿器疾患
	第11回 神経、筋疾患
	第12回 膠原病、運動器疾患、感覚器疾患、皮膚疾患
	第13回 精神障害
	第14回 先天性疾患
	第15回 代謝、栄養

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	使用せず。	
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみ Ⅲ（人間の欲求の理解）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 こころとからだのしくみ Ⅲ（人間の欲求の理解）

科目責任者

担当教員 浅野 誠

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20014201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義中心に進めるが、学生にそれぞれテーマを与え、発表を求める。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	心の健康について、脳と体その構造について
		第2回	乳幼児児童期の心の健康
		第3回	思春期における心の健康
		第4回	成人期における心の健康
		第5回	老年期における心の健康
		第6回	心の病気について総論、精神症状について
		第7回	心の病気について 精神病関連
		第8回	心の病気について 神経症関連
		第9回	心と体の病気について 心身症関連
		第10回	記憶障害と認知症について
		第11回	せん妄
		第12回	心を病んだ人への援助法
		第13回	精神保健制度の概要
		第14回	精神保健に関する法律
		第15回	まとめ

	予習	
予習・復習の内容	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『あたらしい精神保健』十束支朗、生地 新、森岡由紀子 共著 医学出版	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみ IV（日常生活に即したしくみ）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 こころとからだのしくみ IV（日常生活に即したしくみ）

科目責任者

担当教員 今井 訓子
井口 ひとみ

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20014301

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

人体各部の名称と、日常生活に関連したからだのしくみところについて理解できるようにする。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|------|---|
| 第1回 | 第1回 | 人体部位の名称、生命の維持のしくみ 1 |
| | 第2回 | 人体部位の名称、生命の維持のしくみ 2 |
| | 第3回 | 移動に関連した解剖整理 |
| | 第4回 | 移動に関連したところのしくみ・ボディメカニクス |
| | 第5回 | 食事に関連した解剖整理
機能低下が食事に及ぼす影響 |
| | 第6回 | 栄養摂取の意義・安全な食事のための留意点 |
| | 第7回 | 入浴、清潔保持に関連した解剖整理
皮膚のしくみ・頭髮のしくみ・機能低下が入浴に及ぼす影響 |
| | 第8回 | 入浴、清潔保持の実際 |
| | 第9回 | 身じたくの関連した解剖整理
機能低下が身じたくに及ぼす影響 |
| | 第10回 | 身じたくの関連したところのしくみ |

- 第11回 排泄に関連した解剖整理
機能低下が排泄に及ぼす影響
- 第12回 排泄に関連したところのしくみ
- 第13回 睡眠の構造と睡眠障害
睡眠に関連したところのしくみ
- 第14回 終末期の心身の状況・死後の変化
死に対するところの理解
- 第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
	教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 メヂカルフレンド社「最新介護福祉全書 第 12巻」
推薦図書等		
参考URL		
備考		

人間関係論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 人間関係論

科目責任者

担当教員 國生 美南子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20004601

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・グループワークとディスカッションなどによって、関係障害や関係づくりについて考える。
- ・援助・支援における関係づくりの基本的な姿勢や重要性について学ぶ。

学生の達成目標

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーションと自己紹介 自己紹介の意義・自分を見つめる・発見する・表現する
	第2回	家族の機能の変化や地域社会の変化と人間関係
	第3回～第6回	事例を通して探ってみる ①加齢・病い ②障がいをもって生きる ③子ども・親・母子関係 ④虐待・依存
	第7回	コミュニケーション力について
	第8回	表現する（発表）・レポート

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。

自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。

テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）

評価の方法

テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

プリント

推薦図書等

参考URL

備考

施設経営

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 施設経営

科目責任者

担当教員 大澤 直樹

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20004401

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

最新の情報に基づいた資料を提示し、改正介護保険の論点整理を行う。知識を体系化して理解したうえで、今回の制度に於ける問題点及び改善点を明確化する。そのうえでケアを提供していくためには、どのようなスキルが必要であるか、グループワークを行い、机上の空論ではなく、実践として活用できるツールを見出していく。また、ワークシートを各回ごとに使用。これを作成することによって文章力・表現力の向上を図る。基本的には聴講型ではなく、ゼミ方式の講義を行う。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|-----|---------------------------|
| 第1回 | 第1回 | 改正介護保険法（2012年施行）に関する論点整理 |
| | 第2回 | 新規サービスに関する論点整理 |
| | 第3回 | 介護職に求められるリーダーシップとは何か |
| | 第4回 | 介護老人福祉施設の課題と展望 |
| | 第5回 | 地域包括ケアシステムの課題と展望 |
| | 第6回 | 困難事例に対する取り組みと解決方法 |
| | 第7回 | 福祉が抱える根本的な課題 |
| | 第8回 | 施設経営の意義と方向性（グループディスカッション） |

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。

自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。

テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）

評価の方法

テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

特になし

推薦図書等

参考URL

備考

施設経営 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 施設経営 II

科目責任者

担当教員 大澤 直樹

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20004801

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

前半は NPO設立のための基礎的な知識を修得してもらうために、座学中心の講義となる。NPO法に基づく知識を正しく理解して上で、後半は演習を中心とした講義にシフトしていく。なお、介護保険事業を中心とした、事業活動が多い NPO法人の特性を踏まえ、併せて介護保険法に基づく申請のあり方についても指導していく。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 NPOとは何か第2回 福祉 NPOの特徴第3回 福祉 NPOの展望と課題第4回 グループホームとコミュニティケア第5回 行政の NPO支援策第6回 NPOのパートナーシップ第7回 事業計画と多角化戦略第8回 NPO法人のマネジメント

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	改訂版	NPO法人設立・申請完全マニュアル（著 福島達也、Jリサーチ出版）
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 障害教育

科目責任者

担当教員 佐藤 慎二

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20004501

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 現場的で実際的な話題を多くする。
2. 肢体不自由特別支援学校や学生の進路先ともなる関連の施設に関する情報を多くする。
3. ビデオや資料等の視覚的な教材を毎回用意する。
4. 介護施設でも活用可能な“ミニゲーム・簡単マジック”（＝「ミニネタ」）を学ぶ。

学生の達成目標

授業内容

- 第1回 第1回～第5回 障害観・社会観・支援観の転換－疑似体験を通して、障害による困難さについて考える。
その上で、障害を環境要因との関係で考える障害観・社会観・支援観の重要性を確認する。
上記を踏まえ、実際的な支援の在り方を考える。
- 第6回～第10回 特別支援教育に関する学校・学級・教室の概要を実際のビデオを通して学ぶ。
- 第11回～第15回 特別支援学校卒業後のサポーター・エンプロイメントや福祉就労の実際をビデオを通して学ぶ。
＊各回の授業の合間で「ミニネタ」を学ぶ。

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開
成績評価	評価の基準 DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法 テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	毎回、資料を配付する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

カウンセリング

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 カウンセリング

科目責任者

担当教員 大木 みわ

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 41000201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

カウンセリング理論についての講義を基にピアサポートのトレーニングに重点を置く。ロールプレイング・構成的グループエンカウンター体験を通して理解を深めるため、互いにカウンセラー、クライアントを経験し合う。

学生の達成目標

1. カウンセリングの基礎を体験的に学ぶ。
2. カウンセリングの基礎的力を日常の人間関係に活用する。
3. 介護者として必要な人間観・対人関係調整力を養う。

授業内容

第1回 第1回 出会い体験（エクササイズ①）－話し合い第2回 出会い体験（エクササイズ②）「聴く、話す」を中心に事例の提示 カウンセリングの基本姿勢－話し合い第3回 人間関係づくり（エクササイズ③）「聴く、話す」を体験する－話し合い第4回 人間関係づくり（エクササイズ④）「聴く、話す」の体験－話し合い第5回 人間関係づくり（エクササイズ⑤）自己理解を深める－エゴグラム作成－話し合い第6回 人間関係づくり（エクササイズ⑥）自己理解を深める－HTP－話し合い第7回～第10回 ミニカウ

予習・復習の内容	予習			
	復習			
	展開			
成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（ 60%）	研究過程（ 20%）	授業への参加態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	日本教育カウンセラー協会編「ピアヘルパーハンドブックー友達をヘルプするカウンセリング」（図書文化） 1 ,500円			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

在宅における医療処置

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 在宅における医療処置

科目責任者

担当教員 布施 千草
井口 ひとみ
今井 訓子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 41100801

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 家族介護者が行う医療処置を支援するために看護技術の基礎知識を養う。

学生の達成目標

第1回	第1回	ガイダンス：（家庭生活の基本機能・地域の概念）家族介護者と医療処置の現状第2回～第3回 感染予防（清潔・不潔を含む）、手指消毒、ガウンテクニック第4回～第5回 創や褥創の処置、自己導尿、膀胱洗浄第6回～第7回 経管栄養、中心静脈栄養法第8回～第9回 酸素吸入、人工呼吸療法第10回～第11回 緊急時の対応、吸引第12回～第13回 注射法（インシュリン投与、点滴の固定と抜針）第14回～第15回 補習とまとめ
-----	-----	---

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	研究レポート（ 60%） 研究過程（ 20%） 授業への参加態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	資料を配付する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

ボランティア体験実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 ボランティア体験実習

科目責任者 清宮 宏臣

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限 41100901

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

高齢者・障害者福祉の各領域・分野から各自の興味に合わせた活動を選択し、活動現場に参加する。ボランティア活動の心構えや振り返りの指導を受けながら、実際の活動を通じて、人間関係力・社会関係力を身につけ、よりよい職業選択につなげる。

学生の達成目標

授業内容

予習

予習・復習の内容

復習

展開

成績評価

評価の基準 実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。

評価の方法 研究レポート（60％） 研究過程（20％） 授業への参加態度（20％）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

特になし。適宜資料を配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 地域介護福祉研究

科目責任者 布施 千草

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 51000102

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

学生自身の興味、関心を大切にして既存の研究方法に基づいた課題解決を体験する。
主体的に行動できるように努力していく。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回～第2回	オリエンテーション
		第3回～第4回	研究の基本について
		第5回～第6回	研究論文の抄読
		第7回～第8回	研究テーマの設定
		第9回～第10回	研究計画書作成
		第11回～第20回	データ収集と整理
		第21回～第28回	論文作成
		第29回～第30回	研究成果の発表

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（ 60%）	研究過程（ 20%）	授業への参加態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	適時資料配付する。			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 地域介護福祉研究

科目責任者 今井 訓子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 51000103

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 抄読会、実地調査・文献調査などの学生の興味、テーマに合わせて決める。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	オリエンテーション
		第2回	介護研究のプロセスについて
		第3回～第5回	研究のタイプとデザインについて
		第6回	文献検索について
		第7回～第8回	研究計画書の作成
		第9回～第11回	グループワークによる検討
		第12回～第21回	研究論文の作成
		第22回～第28回	研究論文の検討と修正
		第29回～第30回	研究成果発表

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（60%）	研究過程（20%）	授業への参加態度（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	資料配布			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 地域介護福祉研究

科目責任者 川村 博子

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 51000104

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 前半は全体指導を中心、後半は個別指導が主となる。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	オリエンテーション
		第2回～第3回	興味、関心のあるテーマについて話し合い、課題を設定する
		第4回～第7回	資料収集の方法、整理の方法
		第8回～第9回	中間発表
		第10回～第12回	論文の構成、体裁、執筆方法
		第13回～第22回	論文の執筆について
		第23回～第27回	論文の検討、修正
		第28回	論文の提出
		第29回～第30回	論文の発表会

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（ 60%）	研究過程（ 20%）	授業への参加態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	なし			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 地域介護福祉研究

科目責任者

担当教員 井口 ひとみ

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 51000105

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

学生は、主体的な学習・研究的態度でテーマに取り組んでほしい。前期は、全体での講義、グループワーク、ディスカッションの方法を取り入れていく。後期は、全体、個別指導を入れながら行う。

学生の達成目標

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション
	第2回～第3回	研究について
	第4回～第5回	各自の関心について意見交換し、研究テーマ設定の手がかりを探る。
	第6回	テーマの設定
	第7回	研究計画書を作成する
	第8回～第11回	文献検索を行い整理する
	第12回～第14回	文献検索と整理の状況の報告
	第15回	中間発表と今後の計画の調整
	第16回～第20回	データ及び文献、資料等の整理
	第21回～第29回	論文作成と検討・修正
	第30回	研究成果の発表

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	研究レポート（ 60%） 研究過程（ 20%） 授業への参加態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	適宜資料を配付する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 地域介護福祉研究

科目責任者 古川 繁子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 51000107

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 出席を重視し、グループ討議やグループ学習を多くとる。

学生の達成目標

第1回	第1回～第4回 「研究とは」オリエンテーション 第5回～第10回 研究のテーマ決定 第11回～第15回 年間の研究計画作成 第16回～第20回 実習 実習中、研究テーマに添った観察や調査を実施する 第21回～第25回 実習中の観察や調査のまとめ分析 第26回～第30回 原稿のまとめ、下書き、原稿の提出、発表等
-----	--

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価

評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
-------	--

評価の方法	研究レポート（ 60%）	研究過程（ 20%）	授業への参加態度（ 20%）
-------	--------------	------------	----------------

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
なし

推薦図書等

参考URL

備考

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 地域介護福祉研究

科目責任者 清宮 宏臣

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 51000108

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 前半は主に全体での講義を中心に、意見交換を行う。後半は主に個別指導をする。

学生の達成目標

第1回	第1回	オリエンテーション（授業の進め方について）
	第2回～第3回	各自の興味関心のある事柄について意見交換をし、研究テーマを設定する。
	第4回～第5回	研究計画書（研究をしたくなった経緯や背景、研究目的、研究方法など）を作成する。
	第6回～第13回	研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する。
	第14回	中間発表
	第15回～第24回	研究論文を作成（構成、体裁等確認）する。
	第25回～第28回	研究論文の確認、修正をする。
	第29回～第30回	研究論文の提出

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（ 60%）	研究過程（ 20%）	授業への参加態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	適宜資料を配布する。			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 地域介護福祉研究

科目責任者 岩本 義浩

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 51000109

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

研究方法の学習やテーマを決めてディベートを行い自らの問題意識を持つ力を養う。
併せて、研究テーマに関する先行研究のレビューを行い知識を深める。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第 1 回	オリエンテーション
		第 2 回～第 4 回	研究の基礎 I（計画方法・疑問を持つコツ）
		第 5 回～第 10 回	研究の基礎 II（文章読解力・情報の整理方法）
		第 11 回～第 15 回	研究の基礎 III（要約演習）
		第 16 回～第 20 回	研究の展開方法 I（推理・論文作成方法・発想力）
		第 21 回～第 25 回	研究の展開方法 II（調査・分析・要点整理）
		第 26 回～第 29 回	論文作成
		第 30 回	研究発表

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（60%）	研究過程（20%）	授業への参加態度（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	必要に応じて資料を配付する。			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 地域介護福祉研究

科目責任者 中西 正人

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 51000110

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 授業、実習などから捉えられた課題に基づき研究テーマを決める。
2. 学生の主体的な取り組みと、その問題・課題意識に応じて授業を展開する。
3. 学生の研究進度に応じて適宜発表とゼミ批評ができる機会を設ける。

学生の達成目標

1. 介護福祉実践における介護サービス利用者と介護福祉専門職とのかかわりのあり方を考察する。
2. 基礎的な事例研究の方法論を学び、研究報告書を定められた期限までに仕上げ提出する。

授業内容

- | | | |
|-----|-----|------------------------------------|
| 第1回 | 第1回 | 卒業研究を始めるにあたって。 |
| | 第2回 | 介護福祉について各自が抱えている問題意識を語り合う。 |
| | 第3回 | 研究テーマを決める。 |
| | 第4回 | 各自のテーマに関する文献を検索する。＊図書館にてレクチャーを受ける。 |
| | 第5回 | 各自のテーマについて調べてきた内容を文章化し記録していく。 |
| | 第6回 | 研究方法を決める。 |
| | 第7回 | 章立てを決める。 |
| | 第8回 | 実習中に進める研究内容を決める。 |
| | 第9回 | 各自の研究進度に応じて随時発表とゼミ批評をし |

合う。
第 10回～第 28回 必要に応じて授業日時以外にも各自の研究進
度に応じて個別指導をする。
第 29回 研究報告書を仕上げて期限内に提出する。
第 30回 発表会を行う。

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	研究レポート（ 60%） 研究過程（ 20%） 授業への参加態度（ 20%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 必要時紹介する。
-----	---------------------------------------

推薦図書等

参考URL

備考

保育原理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育原理

科目責任者 浅川 繭子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30011102

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 保育現場の実例を出来る限り提示しながら講義形式で行う。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	保育の理念と概念
		第2回	保育の意義
		第3回	子どもの理解からはじまる保育
		第4回	保育の目的
		第5回	生活と遊びを通して総合的に行う保育
		第6回	保育所保育指針、幼稚園教育要領における保育の基本
		第7回	保育のねらいと内容
		第8回	保育の方法
		第9回	保育の環境
		第10回	保育における個と集団への配慮
		第11回	保育者の専門性
		第12回	保育の歴史
		第13回	現代の保育の課題
		第14回	保育の展開と評価
		第15回	まとめ、総括

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準 授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。

評価の方法 学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

「保育原理」大沼良子・榎沢良彦 建帛社

推薦図書等

参考URL

備考

教育原理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 教育原理

科目責任者 高野 良子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30000501

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

日本の社会・家庭・学校で生起している教育事象や教育課題を考察しつつ、教育の原理や教育の営みについて学んでいくことにしたい。講義形式で進めるが、必要に応じ、学習者は感想・意見・質問などを「授業カード」に記入し提出する。教員は次の授業時にそれに適宜応える形式で進め、双方向の授業を目指す。毎回授業時に資料を用意する。適宜、ビデオ活用や討論も導入している。学習者には、教育関連の報道やさまざまな教育事象に常に関心を持つことを求める。

学生の達成目標

授業内容

- 第1回
- 第1回 オリエンテーション：「教育原理」学習の目的と授業計画
 - 第2回 教育の意義と目的：「教育とは何か」、「人間とは何か」、ヒトから人へ
 - 第3回 人間形成と教育：教と育、教育の意味、デューイの教育理論
 - 第4回 教育の構造：教育の諸形態と機能、陶冶と訓育、ペスタロッチの教育思想
 - 第5回 発達の意味と構造：発達の適時性と順序性
 - 第6回 西洋における教育の理念と歴史：ルソー『エミール』にみる「子どもの発見」
 - 第7回 日本における教育の理念と歴史（１）：近世、近代の教育、学制の発布
 - 第8回 日本における教育の理念と歴史（２）：戦後の教育観、教

育制度、教育行政
第 9 回 教育と児童福祉との関連性：「日本国憲法」「教育基本法」「児童の権利に関する条約」
第 10 回 教育の内容と教育の方法：幼児教育におけるカリキュラムと教育方法の理論
第 11 回 教育役割と子どもの社会化：「教育基本法」に新設された第 10 条と第 11 条
第 12 回 教育の基礎的概念と幼児教育の諸理論
第 13 回 生涯学習の理念：「教育基本法」に新設された第 3 条
第 14 回 現代の教育問題と課題＋課題成果の発表 ①
第 15 回 総括＋課題成果の発表 ②

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	保育士養成講座編集委員会編 改訂4版『教育原理』全国社会福祉協議会、2009年、1,890円。ISBN：978 4793509520	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

児童家庭福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 児童家庭福祉

科目責任者 小川 晶

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30010901

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

児童福祉の基本的なことがらを知るために講義を中心に進め、また、現代的課題や家族と子どもの暮らしの様子がリアルに捉えられるよう視聴覚教材を豊富に用いて理解を深めていきたい。出席者の意見や考察をリアクションペーパーにより提出してもらい、フィードバックし、授業内容にも反映させていきたい。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第 1 回 ガイダンス、子どもの概念
		第 2 回 子どもと家族の概念
		第 3 回 子どもの権利とその概念
		第 4 回 子どもの権利条約
		第 5 回 現代の子どもと家族の問題
		第 6 回 児童虐待の現状
		第 7 回 少子化対策と課題
		第 8 回 児童福祉法体系
		第 9 回 欧米の歴史
		第 10回 日本の歴史 1
		第 11回 日本の歴史 2
		第 12回 子ども家庭支援のしくみ 1
		第 13回 子ども家庭支援のしくみ 2
		第 14回 子ども家庭支援のしくみ 3
		第 15回 まとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	『新 保育士養成講座 第3巻 児童家庭福祉』全国社会福祉協議会出版部	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

社会福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 社会福祉

科目責任者 根本 曜子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30000102

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心に行うが、身近な問題として捉えるため、各メディア（新聞、ビデオなど）を教材として利用する。

学生の達成目標

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。
3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

授業内容

- | | | |
|-----|-----|------------------|
| 第1回 | 第1回 | 社会福祉をめぐる状況 |
| | 第2回 | 社会福祉の理念と概念 |
| | 第3回 | 社会福祉の歴史 |
| | 第4回 | 社会福祉と児童家庭福祉 |
| | 第5回 | 児童の人権擁護と社会福祉 |
| | 第6回 | 家庭支援と社会福祉 |
| | 第7回 | 社会福祉の制度と法体系 |
| | 第8回 | 社会福祉の行財政と実施機関、施設 |

- 第9回 社会福祉の専門職、実施者
第10回 社会保障及び関連制度の概要
第11回 社会福祉における相談援助
第12回 利用者保護の仕組み
第13回 少子高齢化社会への対応と在宅福祉・地域福祉の推進
第14回 保育・教育・療育・保健・医療等との連携
第15回 まとめ

	予習
予習・復習の内容	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	「保育者のための社会福祉」小林育子著 萌文書林
	「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房
	「社会福祉用語辞典」ミネルヴァ書房

推薦図書等

参考URL

備考

相談援助

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 相談援助

科目責任者 根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30010202

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義も含めつつ演習を中心に行っていく。その際には一人ひとりが積極的に参加すること。

学生の達成目標

1. 相談援助の概要について理解する。
2. 相談援助の方法と技術について理解する。
3. 相談援助の具体的展開について理解する。
4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。

授業内容

- 第1回
- 第1回 相談援助の概要 ①（相談援助の理論）
第2回 相談援助の概要 ②（相談援助の意義）
第3回 相談援助の概要 ③（相談援助の機能）
第4回 相談援助の概要 ④（相談援助（保育）とソーシャルワーク）
第5回 相談援助の方法と技術 ①（相談援助の対象）
第6回 相談援助の方法と技術 ②（相談援助の過程）
第7回 相談援助の方法と技術 ③（相談援助の技術・アプローチ）
第8回 相談援助の具体的展開 ①（計画・記録・評価）
第9回 相談援助の具体的展開 ②（関係機関との協働）

第10回 相談援助の具体的展開 ③（多様な専門職との連携）
第11回 相談援助の具体的展開 ④（社会資源の活用、調整、開発）
第12回 事例分析 ①（虐待の予防と対応）
第13回 事例分析 ②（障害のある子どもとその保護者への支援）
第14回 事例分析 ③（ロールプレイ、フィールドワーク等による分析）
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	吉田眞理著『生活事例からはじめる相談援助』青踏社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

社会的養護

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 社会的養護

科目責任者

担当教員 水鳥川 洋子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30011302

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義形式だが、事例の提示を多くし、随時レポートの提出を求め、具体的理解を深める。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 社会的養護とは ……現代社会と児童養護問題 第2回 児童虐待問題 第3回 児童養護の歴史 第4回 施設養護の基本理念と児童養護 第5回 児童養護の制度と施設養護の体系 第6回 児童相談所の役割 第7回 養育環境に問題がある児童の施設養護（1）（児童養護施設 母子生活支援施設等） 第8回 養育環境に問題がある児童の施設養護（2）（乳児院 児童家庭支援センター等） 第9回 障害のある児童の施設養護（1）（知的障害児施設 自閉症児施設 盲ろうあ児施設等） 第10回 障害のある児童の施設養護（2）（肢体不自由児施設 重症心身障害児施設等） 第11回 情緒・行動面に問題がある児童の施設養護（児童自立支
------	-----	---

		援施設 情緒障害児短期治療施設) 第12回 家庭的養護（里親、ファミリーホーム） 第13回 児童福祉施設の運営管理 第14回 児童養護の今後の課題とこれからの保育士に求められるもの 第15回 まとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		社会的養護（新保育ライブラリー 保育・福祉を知る）櫻井慶一編著 北大路書房
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育者・教師論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育者・教師論

科目責任者 山本 邦晴

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30010701

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 乳幼児期の保育・教育・障害教育の保育者・教師に重点を置く。
2. 学生の育ちの過程で出会った保育者・教師の例を取り上げ、望ましい在り方を身近で具体的に考える授業にする。

学生の達成目標

授業内容

第1回

第1回
責務等

保育士・教師の制度上の位置づけ－資格・要件・

第2回

保育士・教師観－望ましい保育士・教師像、好きな保育士・教師、優れた保育士・教師、良い教師の条件

第3回

子ども観－教え指導する子ども、共に生活し支える子ども、子ども主体の保育・教育、子ども主体を支える保育・教育

第4回

子ども理解－肯定的理解、共感的理解、感じ合い・分かり合い

第5回

保育・教育観－障害等の有無に関係なく、全ての子どもに適用できる保育・教育観

第6回～第7回

保育課程・教育課程観－保育所や学校等の生活の充実・発展のための保育課程・教育課程、保育所や学校等での生活づくりを保育・教育課程編成と捉えて

第8回～第9回

日々の保育・授業観－活動・生活支援としての日々の保育・授業、生活の一コマとしての授業、遊びや日常生活等

を支える授業

第10回～第11回 保育者・教師の専門性－保育・幼児教育の専門性、特別支援教育の専門性、養護と教育、資質・能力、技術・技法、保育・教育の展開と自己評価、保育・教育観と専門性

第12回 保育者・教師の役割と倫理等－倫理、服務・規律、職務内容・役割等

第13回 保育者・教師の協働－保育者・教師の支え合い、協働

第14回 保育者・教師の専門職としての育ち－専門性の向上とキャリア形成

第15回 講義のまとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	毎回関係資料を配付	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害福祉論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 障害福祉論

科目責任者 根本 曜子

担当教員 田村 光子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30000301

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・ 講義、ビデオ視聴をしながら、レポート作成を中心とする。
- ・ 受講人数により、障害福祉サービス事業所の参観も行う。
- ・ 障害児者施設への就職希望者は、受講をすすめる。

学生の達成目標

授業内容

第1回	第1回 オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に
	第2回 ついての理解	
	第3回 障害とは何か	～障害概念の理解～障害児者福祉
	第4回	
	第5回	障害児者福祉の歴史的変遷
	第6回～第7回	ノーマライゼーション理念の理解
	第8回	自立生活運動、インクルージョン、特別支援教育
	第9回	へ
	第10回	障害者基本法の理解
	第11回	障害者自立支援法への歩み
	第12回～第13回	障害福祉サービスの仕組み
	第14回	障害者福祉を支える関連法の理解
	第15回	現代の障害者福祉の動向

第 14回
第 15回

事例研究
まとめ

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価

評価の基準 DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、
自分の考えを相手に伝えることができる。
自分の考えを明確に示した小論文にまとめること
ができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の
意見文（ 10%）

評価の方法 テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価す
る。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
「よくわかる障害者福祉（第 4 版）」ミネルヴァ書房

推薦図書等

参考URL

備考

障害教育論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 障害教育論

科目責任者

担当教員 佐藤 慎二

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30000601

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 現場的で実際的な話題を多くする。
2. ビデオや資料等の視覚的な教材を毎回用意する。
3. 実際の現場で役立つ“ミニ・ゲーム・ひっかけ手遊び・簡単マジック”(=「ミニネタ」)を毎回、取り入れる。

学生の達成目標

授業内容

第1回

第1回～第6回

- ① 子ども観・障害観の転換－「困った子」ではなく「(何かに)困っている子」－保育や教育の場で出会う「気になる行動」の理解の仕方を具体例を通して考える。
- ② 支援観の転換－子どもの「よさ」「いいところ」を見つめ・伸ばし、子どもの困難さをさりげなく支える保育や教育の実際を考える。
- ③ 誰もが楽しめ・明日すぐ使える「ミニネタ」を毎回の授業で多く取り上げる。

第7回～第15回

- ① 実習で出会った「困っていた」子どもの実例に学び、よりよい支援の在り方を検討する。
- ② 就学支援と関連づけ、特別支援教育に関する学校・学級・教室

の概要について具体的に紹介する。特別支援教育への理解を深める。

③ 保護者の手記や関連のビデオを通して、保護者の思いに触れ・支援の重要性を学ぶ。

④ 誰もが楽しめ・明日すぐ使える「ミニネタ」を毎回の授業で多く取り上げる。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 ○ミニネタ 160選○「ママとパパと先生のための子育てハート・ホッとメッセージ 50 !」（日本文化科学社） ○毎回、資料を配付する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育の心理学 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育の心理学 I

科目責任者 漆澤 恭子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30011802

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とするが、視覚的教材や資料などを使い理解を深める。発表や協議など適宜取り入れ実践的な力量を養うことを目指す。

学生の達成目標

1. 保育実践にかかわる心理学の知識を習得する
2. 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。
3. 子どもが人との相互的関わりを通して発達していくことを具体的に理解する。
4. 生涯発達の観点から初期経験の重要性について理解する。

授業内容

第1回	第1回 保育と発達心理学 1	発達とは
	第2回 保育と発達心理学 2	保育をめぐる動向
	第3回 胎児期から新生児期 1	胎児期から新生児期の発達の特徴と保育
	第4回 胎児期から新生児期 2	身体機能・言語発達の基礎、母子関係の形成
	第5回 乳児期 1	運動機能の発達
	第6回 乳児期 2	言葉の発達
	第7回 乳児期 3	認知機能の発達
	第8回 乳児期 4	他者とのかかわり

第9回 乳児期5 身辺自立と自己コントロール
第10回 幼児期1 集団生活の始まり
第11回 幼児期2 遊びと心の発達
第12回 幼児期3 思考の発達
第13回 幼児期4 言葉の獲得
第14回 幼児期5 仲間関係の開始
第15回 生涯発達から見る初期発達の重要性 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	保育者のたまごのための発達心理学（北樹出版）新井邦二郎監修

推薦図書等

参考URL

備考

保育の心理学 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育の心理学 II

科目責任者

担当教員 小沢 恵美子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30011502

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

実習等での自分の経験や、保育現場で起こりうる状況を設定し、その状況に対して保育士として「自分ならどのように考えるか？どのように行動するか？」を考えていく。またグループワークや発表場面を設けて、自分の考えや意見を発表する、他者の考えや意見を尊重することを経験できるようにする。

学生の達成目標

1. 子どもの心と身体の発達と保育実践について理解を深める。
2. 生活や経験を通しての学びの過程について理解する。
3. 保育、子育て支援における発達援助について学ぶ。
4. 理論をふまえて日常生活や現実場面をとらえなおす。

授業内容

- | | | |
|-----|-----|-------------------------|
| 第1回 | 第1回 | ガイダンス&子どもの理解における発達の把握 |
| | 第2回 | 発達段階、発達過程に応じた保育 |
| | 第3回 | 子ども同士のかかわりと関係作り –遊びを中心に |
| | 第4回 | 環境としての保育者と子どもの発達 |
| | 第5回 | 子どもの経験と学び |
| | 第6回 | 学びを支えているやる気 |
| | 第7回 | 他者とのかかわりと学び |

- 第8回 生涯にわたる生きる力の基礎を培う
- 第9回 発達課題に応じた援助やかかわり
- 第10回 特別な支援を要する子どもへのかかわり
- 第11回 発達の連続性と就学への支援
- 第12回 保護者理解と子育て支援（1）－何を支援するのか
- 第13回 保護者理解と子育て支援（2）－実際の対応
- 第14回 現代社会における今後の保育の課題
- 第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	使用しない。必要に応じてプリント配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

子どもの保健 I A

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 子どもの保健 I A

科目責任者

担当教員 野村 攝子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30011902

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義中心であるが、課題レポート、研究発表なども適宜取り入れる。

学生の達成目標

授業内容

- 第1回 第1回 健康の概念と健康指標について
第2回 生物としてのヒトの成り立ち ① 主に生殖について
第3回 生物としてのヒトの成り立ち ② 主にリプロダクティブヘルスについて
第4回 母と子の健康に関わる保健活動の意義と目的
第5回 子どもの身体発育と保健
第6回 子どもの運動機能の発達と保健 ① 主に粗大運動
第7回 子どもの運動機能の発達と保健 ② 主に微細運動
第8回 子どもの生理機能の発達と保健
第9回 子どもの健康状態の把握と主な症状の特徴及び適切な対応について
第10回 子どもの主な疾病の特徴 ① 主に感染症
第11回 子どもの主な疾病の特徴 ② 主に先天性疾病
第12回 子どもの主な疾病の特徴 ③ 主に慢性疾患
第13回 疾病の予防－免疫と予防接種について

第14回 子どもの事故の特徴、発達との関連
第15回 まとめ・総論

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『新しい時代の子ども保健』日本小児医事出版社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

子どもの保健 I B

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 子どもの保健 I B

科目責任者

担当教員 野村 攝子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30012002

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義中心であるが、課題レポート、研究発表なども適宜取り入れる。子どもの保健 I Aの内容の修得後が望ましい。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|------|------------------------------|
| 第1回 | 第1回 | 子どもの精神機能の発達と保健 ① 主に知能について |
| | 第2回 | 子どもの精神機能の発達と保健 ② 主に情緒について |
| | 第3回 | 子どもの心の健康とその課題 ① 主に児童虐待について |
| | 第4回 | 子どもの心の健康とその課題 ② 主に児童虐待防止について |
| | 第5回 | 子どもの心の健康とその課題 ③ 主に心身症について |
| | 第6回 | 子どもの生活環境と精神保健について |
| | 第7回 | 保育環境整備と保健 |
| | 第8回 | 保育現場における衛生管理 ① 主に感染症 |
| | 第9回 | 保育現場における衛生管理 ② その他 |
| | 第10回 | 保育現場における事故防止及び安全対策・危機管理 |
| | 第11回 | 保育現場において必要な救急処置について |
| | 第12回 | 母子保健対策と保育 |
| | 第13回 | 家庭・専門機関・地域との連携 |

第14回 職員間の連携と組織的取組

第15回 まとめ・総論

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『新しい時代の子ども保健』日本小児医事出版社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

子どもの保健 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 子どもの保健 II

科目責任者

担当教員 栗山 敦子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30012102

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義および実技演習。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 小児の身体的特徴、乳児の抱き方、寝かせ方、衣服の着脱 第2回 身体発育評価 肥満とやせ 第3回 環境管理（室温、湿度、季節の管理） 第4回 子供の栄養と食事（哺乳、離乳、食に関する諸問題） 第5回 睡眠と生活リズムの援助、おむつ交換、トイレトレーニング 第6回 身体の清潔（歯磨き、爪切り、耳掃除、沐浴） 第7回 健康観察（体温測定）発熱時の対応と看護 第8回 車いす 第9回 感染の予防 第10回 感染の予防 第11回 応急処置 第12回 応急処置 第13回 事故の防止と安全対策 第14回 慢性疾患をもつ子供の援助 第15回 まとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『最新保育保健の基礎知識』 荻野悟郎監修 日本保育園保健協議会編集 日本小児医事出版社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

子どもの食と栄養

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 子どもの食と栄養

科目責任者

担当教員 大坂 裕子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30012302

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

教科書を用いた講義や演習とデモンストレーションを含む調理実習を行う。（グループでの活動が多くなる。）

学生の達成目標

1. 子どもの発育・発達と食生活の関連について調理実習や演習を通して深く理解する。
2. 現代の子どもを取り巻く環境について現状と課題を理解し、保育者や幼児教育に携わる者としてどう対処していくかを考える。
3. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学ぶ。

授業内容

第1回 第1回～第2回 オリエンテーション、子どもの健康な食生活の意義
第3回～第4回 栄養に関する基礎知識
第5回～第6回 乳児期の食生活（講義と調乳実習）
第7回～第8回 離乳期の食生活（調理実習 ……離乳食1）
第9回～第10回 離乳期の食生活（調理実習 ……離乳食2）
第11回～第12回 幼児期の食生活
第13回～第14回 幼児期の食生活（調理実習 ……お弁当）
第15回～第16回 幼児期の食生活（調理実習 ……間食）

第 17回～第 18回 幼児期の食生活（調理実習 ……行事食）
第 19回～第 20回 児童福祉施設における食事と栄養（調理実習 ……保育所給食）
第 21回～第 22回 学童・思春期の食生活
第 23回～第 24回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（調理実習 ……アレルギー対応食）
第 25回～第 29回 食育の基本と内容（演習 ①～ ⑤）
第 30回 まとめ※実習衣（割烹着・三角巾）を着用。第 1 回の授業で説明します。

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	最新子どもの食と栄養 学建書院（2,520円）

推薦図書等

参考URL

備考

家庭支援論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 家庭支援論

科目責任者

担当教員 廣橋 比刀美

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30010802

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義・課題レポートの提出。子育てにおいて、家族はどうあるべきかを、現代社会の状況をふまえて、広い視野でみていく。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	授業説明、注意など（何を学ぶか）
		第2回	家族とは何か－家族の現在
		第3回	家族の変化－機能・制度
		第4回	家族の変化－法律
		第5回～第6回	家族問題の現状－家族関係
		第7回	家族問題の現状－離婚・ひとり親家庭
		第8回～第9回	家族問題の現状－児童虐待
		第10回～第12回	家族問題の現状－ドメスティックバイオレンス（DV）
		第13回	家族問題への対策－公的支援・私的支援
		第14回	家族問題への対策－幼児教育に携わる者にできること
		第15回	まとめ－男女共同参画社会での家族援助

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	古川繁子・中川英子編著『家庭福祉論』学文社随時プリント（資料）を配布	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

発達障害心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 発達障害心理学

科目責任者

担当教員 佐藤 愼二
漆澤 恭子
相磯 友子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30011602

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 ・講義の中で実践事例の紹介も行い、心理学関係の諸文献を参考に、グループごとに、・討論の内容を発表し、まとめを提出する。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 ガイダンス・知的障害の子ども基礎的理解と支援 第2回 “気になる子”の保育 第3回 “気になる保護者”の理解と支援 第4回 自閉的傾向のある子ども理解と支援 第5回 外国人の子ども基礎的理解と支援 第6回 ADHDの基礎的理解と支援 第7回 学習障害（LD）の基礎的理解と支援 第8回 アスペルガー症候群・高機能自閉症等の基礎的理解と支援 第9回 事例から考える発達障害の子どもたちの理解と支援（1） 第10回 事例から考える発達障害の子どもたちの理解と支援（2） 第11回 聴覚障害・視覚障害の基礎的理解と支援 第12回 肢体不自由・病弱の基礎的理解と支援
------	-----	--

第13回 言語障害・情緒障害・てんかん・ダウン症の基礎的理解と支援
第14回 保育・教育現場での支援的対応の実例（1）
第15回 保育・教育現場での支援的対応の実例（2）と全体のまとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	授業の中で、随時、資料配付、参考文献の紹介を行う。

推薦図書等

参考URL

備考

小児栄養

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 小児栄養

科目責任者

担当教員 台蔵 彩子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30002201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とし講義内容を理解しているかどうか、授業内での小テストや質問をおこなう。

学生の達成目標

授業内容

第1回	第1回	授業ガイダンス	子どもの健康と食生活の意義
	第2回～第5回	栄養に関する基礎知識	
	第6回～第9回	子どもの発育・発達と食生活	
	第10回～第12回	食育の基本と内容	
	第13回	家庭や児童福祉士施設における食事と栄養	
	第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	
	第15回	まとめ	

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	『最新子どもの食と栄養－食生活の基礎を築くために－』編著：飯塚美和子、桜井幸子、瀬尾弘子、曽根眞理枝著：五関正江、高橋恭子他	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育課程論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育課程論

科目責任者 浅川 繭子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30011202

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 保育現場の実例を出来る限り提示しながら講義形式で行う。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション なぜ保育に計画は必要か
	第2回	第2回 保育における計画
	第3回	第3回 教育課程・保育過程の編成
	第4回	第4回 教育課程・保育課程と指導計画の関係
	第5回	第5回 指導計画の作成
	第6回	第6回 幼稚園教育要領・保育所保育指針における指導計画
	第7回	第7回 指導計画の実際
	第8回	第8回 指導計画を生かすために
	第9回	第9回 保育所の保育課程と指導計画
	第10回	第10回 実践への位置づけ
	第11回	第11回 保育所0・1・2歳児の計画と実践
	第12回	第12回 幼稚園4歳児の計画と実践
	第13回	第13回 幼保一体化保育の計画と実践
	第14回	第14回 指導計画の実際と評価
	第15回	第15回 まとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準 授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。

評価の方法 学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

「幼児教育・保育課程論」戸田雅美 佐伯一弥 建帛社

推薦図書等

参考URL

備考

保育内容総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育内容総論

科目責任者

担当教員 浅川 繭子
田村 光子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30012602

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 グループワークと発表を行う。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	オリエンテーション	就業内容、目的、進め方、評価について
		第2回～5回	これからの時代を生きる子どもたちに必要な保育内容について	グループワーク
		第6回～7回	中間発表	
		第8回～13回	作成した保育内容を深める	
		第14回	発表	
		第15回	まとめ	

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説書」フレーベル館	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育内容演習（健康）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育内容演習（健康）

科目責任者 松原 敬子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30012702

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

教科書に沿った講義を中心としながらも保育現場の VTRや DVDを活用し、具体的な事例を基に授業を展開していく。さらにグループディスカッションや学生による発表を行う。随時レポートの提出を求め、保育者としての視点を深めていく。

学生の達成目標

1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識や技術、判断力、そして、実践力を習得する。
2. 子どもの発達を健康の観点から捉え、子どもの理解を深めながら保育内容を理解し、展開していく力を高める。

授業内容

- | | |
|-----|-------------------------------|
| 第1回 | 第1回 領域「健康」のめざすもの |
| | 第2回 幼児の健康 |
| | 第3回 幼児の発達理解 |
| | 第4回 幼児のあそびの発達と健康 |
| | 第5回 幼児の体格・運動能力の現状と問題 |
| | 第6回 幼児の生活スタイル |
| | 第7回 幼児の健康と栄養 |
| | 第8回 幼児の体格・運動能力測定法と評価 |
| | 第9回 幼児の安全管理と安全教育 |
| | 第10回 保育の成果を公開する行事－運動会 |
| | 第11回 環境とかかわる中で運動あそびが育つ行事－園外保育 |

- 第 12回 小グループによる保育計画と指導案の作成（理論）
第 13回 小グループによる保育計画と指導案の作成・展開・反省
第 14回 保育評価
第 15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	保育内容「健康」民秋言・穂丸武臣編 北小路書房	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育内容演習（人間関係）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育内容演習（人間関係）

科目責任者 松原 敬子

担当教員 浅川 繭子
田村 光子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30012802

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

テキストに沿った講義、及びグループディスカッションや学生による発表の場を設定する。

学生の達成目標

授業内容

第1回	第1回	遊びから考える保育内容（１）
	第2回	遊びから考える保育内容（２）
	第3回	乳幼児期にふさわしい生活の展開
	第4回～6回	子どもの発達の捉え方と領域「人間関係」 （１）親との出会いとのかかわり （２）保育者の出会いとのかかわり （３）友だちとの出会いとのかかわり
	第7回	領域「人間関係」と他領域との関係
	第8回	遊びのなかの人とのかかわり
	第9回	生活を通して育つ人とのかかわり
	第10回	個と集団の育ち
	第11回	人とのかかわりを捉える視点（１）
	第12回	人とのかかわりを捉える視点（２）
	第13回	遊びを通しての総合的指導

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	「演習 保育内容人間関係」田代和美・松村正幸 建帛社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育内容演習（環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育内容演習（環境）

科目責任者

担当教員 神野 茂美

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30012902

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 テキストに沿って講義を進め、さまざまな実習、体験、DVD、スライド等の視聴をしながら学びを深めたい。

学生の達成目標

授業内容	第1回 第 1 回 保育の基本、保育内容とは 第 2 回 幼稚園教育要領、領域「環境」とは 第 3 回 子どもの発達の見方、捉え方 第 4 回 生活のなかでの「環境とかかわる力」の発達 第 5 回 遊びのなかでの「環境とかかわる力」の発達 第 6 回 関係、保育環境のあり方と「環境とかかわる力の発達」 第 7 回 身近な自然とどうかかわるか 第 8 回 文字や記号、数量や形とどうかかわるか 第 9 回 園内外の行事、環境とどうかかわるか 第 10回 環境構成と領域「環境」 第 11回 保育者の役割と領域「環境」 第 12回 自分から自然に触れるようになるには 第 13回 自然に触れる体験の意味と大切さ 第 14回 動物とのかかわりについて、動物公園見学 第 15回 まとめ
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。 評価の方法 学習姿勢＋ミニ課題（ 20点）＋定期試験（ 80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『最新保育講座 保育内容「環境」』柴崎正行・若月芳浩 ミネルヴァ書房
推薦図書等	
参考URL	
備考	

保育内容演習（言葉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育内容演習（言葉）

科目責任者

担当教員 石塚 誠之

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30013002

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

文献、実際の事例、親の体験記録、VTR、DVD等を活用して授業を展開し、講義、発表、話し合いを通して実践的なスキルの習得を目指す

学生の達成目標

1. 子どもの言葉の発達や特徴、及び言葉を育てる保育者の援助のあり方についての実践的な理解を深める
2. 領域「言葉」の意義と内容、子どもの言葉を育てる関わりについて理解を深める
3. 発達障害児の言葉のつまづきや、コミュニケーションの困難に対する関わりについて理解する

授業内容

第1回	第1回	言葉とコミュニケーション
	第2回～第4回	発達における言葉の役割とその過程の理解 1) 言葉の発達（0歳から1歳） 2) 言葉の発達（2歳から3歳） 3) 言葉の発達（4歳から6歳）
	第5回	言葉を育てるための環境
	第6回	言葉を育てるための保育者の関わり
	第7回～第10回	特別な支援を必要とする児童の言葉の問題

		1) 発達障害児の言葉の特徴 2) 発達障害児のコミュニケーション 3) 発達障害児の言葉を育てるための支援・配慮 4) 特別支援学校における言葉を促す指導
	第 11回～第 12回	言葉を育てるための教材 1) 言葉遊び 2) 絵本の読み聞かせ
	第 13回	言葉を育てる指導計画・指導案
	第 14回～第 15回	言葉を育てるための事例の検討 1) 言葉を育てるための指導計画・指導案の発表 (1) 2) 言葉を育てるための指導計画・指導案の発表 (2)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	言葉の発達についての知識・支援についての視点が身についていること
	評価の方法	授業への出席と授業中の参加態度、発表・発言、及び確認テスト・期末の筆記試験によって評価を行う 1. 報告書・感想などの提出 (30%) 2. 学習参加態度 (発表、討論、話を聞く態度) (30%) 3. 期末テスト (40%) (ただし、この比率は若干変更する可能性もある)
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		教科書は用いず、必要な資料は授業中に配布する
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育内容演習（表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育内容演習（表現）

科目責任者 黒田 静江

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30013102

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

保育事例を読んだり DVDを視聴しながら、領域「表現」と、乳幼児の表現に対する保育者の基本的な姿勢を理解する。グループ課題を通して、自ら感性に気づいたり、持てる技術を駆使しながら創意工夫し発表しあう中で、表現の多様性や保育展開について学ぶ。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|------|----------------------------------|
| 第1回 | 第1回 | 授業概要・目標・方針など。「表現」とは何か |
| | 第2回 | 領域「表現」のねらいと内容 |
| | 第3回 | 乳幼児の音楽的発達・保育現場での音楽や動きを使った表現活動 |
| | 第4回 | 簡単な動きを伴った遊び歌 （1）歌うことの意義・遊び歌の指導方法 |
| | 第5回 | 簡単な動きを伴った遊び歌 （2）発表・討議 |
| | 第6回 | わらべうた （1）乳児のわらべうた |
| | 第7回 | わらべうた （2）幼児のわらべうた |
| | 第8回 | 素材に出会う （1）身近なモノを五感を使って感じる |
| | 第9回 | 素材に出会う （2）新聞紙を使った表現活動 |
| | 第10回 | 中間試験 保育現場における子どもの表現 |
| | 第11回 | 音楽と動き （1）感覚統合のためのリズム運動 |
| | 第12回 | 音楽と動き （2）リトミック |
| | 第13回 | 楽器あそび （1）歌や動きとともに楽器を使って遊ぶ |

	予習	
予習・復習の内容	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	言葉の発達についての知識・支援についての視点が身についていること
	評価の方法	授業への出席と授業中の参加態度、発表・発言、及び確認テスト・期末の筆記試験によって評価を行う
		1．報告書・感想などの提出（30%） 2．学習参加態度（発表、討論、話を聞く態度） （30%） 3．期末テスト（40%） （ただし、この比率は若干変更する可能性もある）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	「幼児の表現をはぐくむ歌」黒田静江音 楽教育研究協会必要に応じて資料を配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

乳児保育

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 乳児保育

科目責任者

担当教員 鈴木 のり子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30012402

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 ・講義及び実技演習・プリントや VTRによる事例研修

学生の達成目標

授業内容	第1回	第 1 回 第 2 回 第 3 回 他) 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回	オリエンテーション 乳児保育の意義 保育の基本・乳児保育のあゆみ 乳児保育の制度と現状（乳児院・保育所・その他） 乳児の発達と行動の理解（発達の道筋・愛着と自立・体の発達） 乳児の発達と行動の理解（探索・試行・言葉） 乳児の発達と行動の理解（友達への関心・個から集団） 乳児保育の特質 乳児の生活と保育内容 乳児の発達特徴と保育内容（6か月未満） 乳児の発達特徴と保育内容（1歳3か月未満） 乳児の発達特徴と保育内容（2歳未満） 乳児の発達特徴と保育内容（2歳前期・後期） 乳児の発達特徴と保育内容（3歳前期）
------	-----	---	---

第 14回	前期のまとめ（１）
第 15回	前期のまとめ（２）
第 16回	乳児保育の環境
第 17回	遊びと環境（手遊び・ふれあい遊び）
第 18回～第 19回	遊びと環境（手作り遊具）
第 20回	遊びと環境（絵本・紙芝居）
第 21回	乳児の気になる行動とその理解
第 22回	現場で気になったこと（グループ別研修）
第 23回	現場で気になったこと（発表）
第 24回	乳児保育の計画と記録（保育過程・指導計画）
第 25回	乳児保育の計画と記録（記録と評価）
第 26回	保育者のあり方（保育の専門性・チームワーク）
第 27回	保育所と家庭・地域との連携
第 28回	乳児保育の課題
第 29回	後期のまとめ（１）
第 30回	後期のまとめ（２）

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（ 20点）＋定期試験（ 80点）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	新訂「乳児の保育	－ 0 ・ 1 ・ 2 歳児の生活と保育内容－」千羽喜代子編著 萌文書林

推薦図書等

参考URL

備考

障害児保育 I（障害児の保育・教育法）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 障害児保育 I（障害児の保育・教育法）

科目責任者

担当教員 高倉 誠一
中坪 晃一
漆澤 恭子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30012502

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 課題に関する発表や討論等、授業参加の姿勢を重視する。

学生の達成目標

1. 指導案や個別支援計画などを作成、実際に模擬授業をすることにより、障害のある子どもの保育・教育を実践的に理解する。
2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や支援の方法、望ましい環境構成等について学ぶ。
3. 障害のある子どもの教育方法上の特色を理解し、望ましい教育方法について学び、考える。

授業内容

第1回

1. 障害のある子どもの理解と支援（第1回～第3回）
 - ・肢体不自由児、視覚・聴覚障害児等
 - ・知的障害児
 - ・その他の発達障害－ADHD、LD、PDD等
2. 障害のある子どもの保育と教育の実践（第4回～第8回）
 - ・個々の発達を促す生活や遊びの環境
 - ・子ども同士の関わりと育ちあい

- ・ 幼児期と障害のある子どもの相違
 - ・ 障害のある子どもの保育・教育で大切にしたいこと
 - ・ 集団化と個別化
 - ・ 主体的に取り組む生活・活動づくり
 - ・ 「できる状況づくり」とは
3. 指導計画および指導案の計画と展開（第9回～第15回）
- ・ 障害のある子どもも在籍する幼稚園もしくは保育所を想定し、授業・活動の指導案を作成し、模擬授業を行う。
 - ・ 模擬授業は、グループごとに行う。

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	適宜、プリント等を配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

障害児保育Ⅱ（障害児保育・教育と福祉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 障害児保育Ⅱ（障害児保育・教育と福祉）

科目責任者 松原 敬子

担当教員 高倉 誠一
根本 曜子
相磯 友子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30101102

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 課題に関する発表や討論等、授業参加の姿勢を重視する。

学生の達成目標

第1回	第1回～第2回 障害児の教育と福祉
	第3回 「施設から学校へ」の歴史的経緯と、制度上の変遷
	第4回～第5回 幼稚園・特別支援学校幼稚部と保育所・通園施設等の制度上の関係と社会的機能・役割
	第6回～第7回 小中学校特別支援学級・特別支援学校と障害児福祉施設の制度上の関係と社会的機能・役割
	第8回～第9回 障害児の教育と福祉を支える社会福祉制度
	第10回～第14回 教育と福祉の関係に関する国際動向
	第15回～第16回 まとめ

予習・復習の内容 予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	保育現場を想定し、子ども歌の弾き歌いができる。 期末試験・中間試験・授業への参加態度
評価の方法	期末試験（ 40%） 中間試験（ 30%） 授業への参加態度（ 30%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
なし

推薦図書等

参考URL

備考

社会的養護内容

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 社会的養護内容

科目責任者

担当教員 水鳥川 洋子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30011402

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義では事例提示を多くし随時レポートの提出を求め、社会的養護に関する具体的理解を深める。また、実習で経験したことをもとにグループでの事例研究を行い、子ども理解の方法を学ぶとともに、子どもへの具体的な支援方法を検討する。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション 児童福祉施設入所の意義
第2回 児童虐待と現代の子どもたちの心の発達
第3回 問題行動の理解
第4回 乳児院の子どもたちの暮らしと支援
第5回 児童養護施設の子どもの暮らしと支援
第6回 実習で出会った気になる子どもたち（グループ討議による事例検討）
第7回 実習で出会った気になる子どもたち（グループ討議による事例検討と発表）
第8回 施設入所時の支援と自立支援計画
第9回 子どもの自立への支援 リービングケアとアフターケア
第10回 家庭支援と家族再統合
第11回 児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設の子どもの暮らしと支援

第12回 障害児施設の子どもたちの暮らしと支援
第13回 里親家庭の暮らしと里親支援
第14回 これからの施設と保育士の役割
第15回 授業のまとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	社会的養護内容（新保育ライブラリー 保育の内容・方法を知る）福永博文編著 北大路書房	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育相談支援

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育相談支援

科目責任者 田村 光子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30110202

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 演習中心で進めて行く。一人ひとりが積極的に参加することを大切にしたい。

学生の達成目標

1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。
2. 保護者支援の基本を理解する。
3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。
4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

授業内容

- | | |
|-----|---------------------------------------|
| 第1回 | 第1回 保護者に対する保育相談支援の意義 |
| | 第2回 保育の特性と保育士の専門性を活かした支援 |
| | 第3回 保育相談支援の基本 ①（子どもの最善の利益と福祉） |
| | 第4回 保育相談支援の基本 ②（保護者の養育力向上のための支援） |
| | 第5回 保育相談支援の基本 ③（信頼関係を基本とした対人援助の原則） |
| | 第6回 保育相談支援の基本 ④（地域資源の活用、関係機関等との連携・協力） |
| | 第7回 保育相談支援の実際 ①（保育と保護者支援） |
| | 第8回 保育相談支援の実際 ②（保護者支援の内容） |
| | 第9回 保育相談支援の実際 ③（保護者支援の方法と技術） |
| | 第10回 保育相談支援の実際 ④（保護者支援の計画、記録、評 |

価、カンファレンス)

第 11回 児童福祉施設における保育相談支援 ① (保育所)

第 12回 児童福祉施設における保育相談支援 ② (特別な対応を要する家庭)

第 13回 児童福祉施設における保育相談支援 ③ (要保護児童の家庭)

第 14回 児童福祉し悦における保育相談支援 ④ (障害児、母子生活支援施設等)

第 15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	保育現場を想定し、子ども歌の弾き歌いができる。 期末試験・中間試験・授業への参加態度		
	評価の方法	期末試験 (40%)	中間試験 (30%)	授業への参加態度 (30%)

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	吉田眞理著『生活事例からはじめる保育相談支援』青踏社

推薦図書等

参考URL

備考

レクリエーション理論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 レクリエーション理論

科目責任者

担当教員 植草 完

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30012201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

レクリエーションの歴史的な変遷から今後のレクリエーションのあり方、そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、指導者としての実践能力を高める。理論的学習が主となるので座学中心になるが、学生の経験に照らして考えられるよう進め、自分の生活と関連づけて理解し実践できるようにする。

学生の達成目標

授業内容

第1回

【レクリエーションの基礎理論】
第1回 オリエンテーション、レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史 ①
第2回 レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史 ②、これからのレクリエーション運動
第3回 レクリエーション支援の考え方
第4回 レクリエーション・インストラクターの役割【レクリエーション支援論】
第5回 ライフスタイルとレクリエーション ①
第6回 ライフスタイルとレクリエーション ②
第7回 高齢社会の課題とレクリエーション
第8回 少子化の課題とレクリエーション
第9回 地域とレクリエーション【レクリエーション事業論】

- 第 10回 レクリエーション事業とは
- 第 11回 事業の展開方法
- 第 12回 事業計画 I
- 第 13回 事業計画 II
- 第 14回 レクリエーション活動の安全管理
- 第 15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	特になし（必要に応じてプリントを配布する）

推薦図書等

参考URL

備考

カウンセリングの基礎と方法

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 カウンセリングの基礎と方法

科目責任者

担当教員 田村 光子
大木 みわ

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30011702

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

体験を通して理解を深めるためグループを構成、互いにカウンセラー、クライアントを経験し合う。積み重ねが重要なので、欠席せずに受講すること。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	オリエンテーション	授業内容、目的、進め方、評価についての理解
		第2回	カウンセリングの基礎	
			(1) 出会い体験	
		第3回	(2) 自己理解・自己開示	
		第4回	(3) 基本姿勢、「聴く・話す」の体験	
		第5回	(4) シェアリング	
		第6回	ピアヘルピングの理論と実践	
			(1) ピアヘルピングとは	
		第7回	(2) ピアヘルピングの過程	
		第8回～第9回	(3) ピアヘルピングの技法	
		第10回	青年期の課題（学業問題）	
		第11回	青年期の課題（進路問題）	
		第12回	親支援の課題	

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「ピアヘルパー・ハンドブック」日本教育カウンセラー協会編 図書文化社刊	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害児の生活

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 障害児の生活

科目責任者

担当教員 高倉 誠一
山本 邦晴

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30013502

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 発表等、授業参加の姿勢を重視する。

学生の達成目標

授業内容	第1回	内容 第1回～第2回 生活と生活科。 第3回～第4回 小学校学習指導要領の生活科の内容と、その扱い方について。 第5回 特別支援学校（知的障害）の学習指導要領の生活科の内容と、その扱い方について。 第6回～第7回 小学校の生活科の現状と問題点について。 第8回～第10回 特別支援学校小学部の生活科教育の現状と問題点について。 第11回～第12回 望ましい生活・質の高い生活（QOL）ということについて。 第13回～第15回 幼児期から学童後までの各年齢段階における望ましい生活の条件について。方法内容1～7は高倉が、内容8～15は山本がそれぞれ担当する。学生の発表等では、両者が担当する。調査、発表、討論等を多くし、考える演習を目指す。
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
	評価の方法	レポート（30%）、発表（30%）、作品（30%）、授業への参加度（10%）
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		逐次プリントを配布する。
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育の表現技術 I（身体表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育の表現技術 I（身体表現）

科目責任者 松原 敬子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30013802

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

実際に身体を動かすことや身体で表現することの楽しさを味わいながら、他者と身体
の表現を通して関わる楽しさを知る。具体的な運動あそびを題材にし、理論と実技を
交ぜながら授業を進めていく。また授業を通して作成したノートの提出を求め、記録
する重要性を確認していく。

学生の達成目標

1. 保育育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するに必要な知識や
技術を習得する。
2. 身体表現に関する知識や技術を習得する。
3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展
開のための技術を習得する。
4. 実際の保育場面での指導法を具体的に学ぶ。

授業内容

- 第1回 第1回 オリエンテーション
第2回 仲間づくりとその指導ポイントの確認
第3回 集団あそび（ゲーム）と指導ポイントの確認
第4回 からだを使ったあそびと指導ポイントの確認 ①（2人
組）
第5回 からだを使ったあそびと指導ポイントの確認 ②（グルー
プ）
第6回 フォーク・ダンスの基本用語と実践

第7回 リズムあそびと指導ポイントの確認 ①
第8回 リズムあそびと指導ポイントの確認 ②（2人組）
第9回 リズムあそびと指導ポイントの確認 ③（3人組・グループ）
第10回 用具（ボール）を使ったあそびと指導ポイントの確認
第11回 用具（フープ）を使ったあそびと指導ポイントの確認
第12回 身近なもの（タオル）を使ったあそびと指導ポイントの確認
第13回 身近なもの（新聞紙）を使ったあそびと指導ポイントの確認
第14回 小グループ活動による保育シミュレーションと反省
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
	評価の方法	レポート（30%）、発表（30%）、作品（30%）、授業への参加度（10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	「幼児体育 基礎理論と指導の方法」前橋明編著 樹村房	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育の表現技術 I（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育の表現技術 I（音楽表現）

科目責任者 黒田 静江

担当教員
石井 恵子
柴辻 純子
水村 明子
石橋 葉子
木村 憲子
石井 博子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30013202

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

保育の場で音楽は欠かせないものである。保育者として幼児の音楽表現活動を援助・指導するために必要な（１）音楽の基礎的な理論と、（２）器楽（ピアノ）演奏の技術を習得する。２グループに分け、４５分ずつ音楽の基礎理論とピアノ実技を交互に行う。基礎的な理論については、子どもの歌を使ったり身体表現などを交えながら学び、ピアノ実技については、小グループでの授業を行う。

学生の達成目標

授業内容

第1回 （１）音楽の基礎的理論
（２）ピアノ実技
第1回 授業概要・達成目標
ピアノを弾く時の心構えや楽器の基礎知識
第2回 音名
４分音符を中心とした曲（１）
第3回 音符の名称

		4分音符と8分音符を中心とした曲 第4回 拍子 いろいろなリズムの曲 第5回 音程・移調 いろいろな拍子の曲（3/8 6/8 2/2拍子） 第6回 調号 ヘ・ト長調の曲 第7回 楽語・演奏順 二長調の曲 第8回 コードネーム（1） 「きらきらぼし」の移調奏（ハ・ト・ヘ長調） 第9回 コードネーム（2） 「きらきらぼし」の移調奏（ニ・変口長調） 第10回 中間試験 「簡単な動きを伴った歌」の伴奏 第11回 子どもの発達・音楽的な発達 「簡単な動きを伴った歌」の弾き歌い 第12回 発達を考慮した音楽遊び（低年齢） 「季節の歌」の伴奏 第13回 発達を考慮した音楽遊び（年長児） 「季節の歌」の弾き歌い 第14回 課題曲発表準備 （1）（2）合同授業 第15回 発表・まとめ （1）（2）合同授業
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	言葉の発達についての知識・支援についての視点が身についていること
	評価の方法	授業への出席と授業中の参加態度、発表・発言、及び確認テスト・期末の筆記試験によって評価を行う 1. 報告書・感想などの提出（30%） 2. 学習参加態度（発表、討論、話を聞く態度）（30%） 3. 期末テスト（40%） （ただし、この比率は若干変更する可能性もある）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「おとなのためのバイエル」 坂東貴子著 ドレミ楽譜出版 「幼児の表現をはぐくむ歌」 黒田静江著 音楽教育研究協会	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育の表現技術 I（造形表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育の表現技術 I（造形表現）

科目責任者

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30013302

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 授業は実技が中心となり、それに関する理論を加える。

学生の達成目標

授業内容 第1回 オリエンテーション
第2回～第12回 色彩構成と材料演習を軸に、さまざまな技法を学びながら作品を制作し、指導法も学習する。
第13回～第14回 共同制作
第15回 作品の合評と反省

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価

評価の基準 言葉の発達についての知識・支援についての視点が身についていること

評価の方法 授業への出席と授業中の参加態度、発表・発言、及び確認テスト・期末の筆記試験によって評価を行う
1. 報告書・感想などの提出（30%）

- 2. 学習参加態度（発表、討論、話を聞く態度）
（ 30%）
- 3. 期末テスト（ 40%）
（ただし、この比率は若干変更する可能性もある）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
授業に合わせて、資料等配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

保育の表現技術（言語表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育の表現技術（言語表現）

科目責任者

担当教員 鈴木 朱美
植草 一世

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30013402

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な知識や技術を習得し、活用する。
2. 言語表現の表現活動に関する知識や技術を習得し、活用する。
3. 表現活動に関わる教材（絵本、素身芝居、人形劇、ストーリーテリング等）の活用および作成と、環境構成および具体的展開のための技術を習得する。

学生の達成目標

1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な言語表現に関する技術を習得する。
2. 言語表現活動にかかる教材等の活用および作成と、保育の表現構成および具体的展開のための技術を習得する。

授業内容

- 第1回 第1回 本科目の目標、授業の概要。受講者の心得。授業形態と実技演習予定。
- 第2回 子どもの日常と表現 他（ビデオ視聴）
- 第3回 描いたもの、作ったもので遊ぶ。お面づくり「大きなかぶ」
- 第4回 絵本、紙芝居等の扱い方：絵本、紙芝居をみんなの前で読んでみる。

第5回 手遊び：パネルシアター
第6回 パネルシアターを作る。「お弁当箱」または「カレーライス」
第7回 パネルシアターを演じてみる。
第8回 保育教材：うた遊び、ペープ・サート、エプロンシアター、指人形の実演・演じ方
第9回 保育教材：うた遊び、ペープ・サート、エプロンシアター、指人形の実演・演じ方
第10回 教材研究：①どんなお話 役決め 舞台構成等
第11回 教材研究：②人形作り 背景作り
第12回 教材研究：③人形作り 背景作り
第13回 教材研究：発表
第14回 教材研究：発表
第15回 相互評価 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
	評価の方法	レポート（30%）、発表（30%）、作品（30%）、授業への参加度（10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『保育の内容の研究 造形活動と遊び』植草一世 大楊社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育の表現技術 II（身体表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育の表現技術 II（身体表現）

科目責任者 松原 敬子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30013902

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

実際に身体を動かすことや身体で表現することの楽しさを味わいながら、他者と身体の表現を通して関わる楽しさを知る。具体的な運動あそびを題材にし、理論と実技を交ぜながら創作活動を行う。実際に指導計画を作成した上で模擬保育を実践し、他者からの評価を加え振り返りを行う。

学生の達成目標

1. 保育育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。
2. 身体表現に関する知識や技術を習得する。
3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。
4. 実際に指導計画を立案し、模擬保育法の実践を通して具体的に学んでいく。

授業内容

- | | |
|-----|------------------------------|
| 第1回 | 第1回 オリエンテーション |
| | 第2回 パラバルーンと指導ポイントの確認 |
| | 第3回 模倣体操と指導ポイントの確認 ① |
| | 第4回 模倣体操と指導ポイントの確認 ② |
| | 第5回 ボールを使ったあそびと指導の確認 ① |
| | 第6回 ボールを使ったあそびと指導の確認 ② |
| | 第7回 マラカスをを使ったあそびと指導ポイントの確認 ① |

第8回 マラカスを使ったあそびと指導ポイントの確認 ②
第9回 縄を使ったあそびと指導ポイントの確認 ①
第10回 縄を使ったあそびと指導ポイントの確認 ②
第11回 創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省）①
第12回 創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省）②
第13回 創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省）③
第14回 創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省）④
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
	評価の方法	レポート（30%）、発表（30%）、作品（30%）、授業への参加度（10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	「幼児体育 基礎理論と指導の方法」前橋明編著 樹村房	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育の表現技術 II（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育の表現技術 II（音楽表現）

科目責任者

担当教員 石井 恵子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30013602

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

人前で臆せず範唱できるための歌唱テクニックや気構えを、実際の声楽曲演奏を通して学ぶ。正しい姿勢、正しい音程を常に注意し、豊かな声量をめざす。何より独唱、合唱の楽しさに触れたい。

学生の達成目標

授業内容

予習
予習・復習の内容 復習
展開

成績評価

評価の基準 授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
評価の方法 レポート（30%）、発表（30%）、作品（30%）、授業への参加度（10%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

『幼児のための音楽教育』教育芸術者－神原雅之他

推薦図書等

参考URL

備考

保育の表現技術 II（造形表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育の表現技術 II（造形表現）

科目責任者

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30013702

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 個々の制作技能の向上を図るとともに、保育の場での実用性を重視する。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第 1 回	オリエンテーション
		第 2 回	自己課題の設定、プロット提出
		第 3 回	表現方法、材料、用具、制作過程の決定
		第 4 回	アイディアスケッチ、寸法どり等
		第 5 回～第 9 回	制 作
		第 10回	進行状況の確認
		第 11回～第 13回	制 作
		第 14回	作品提出、発表
		第 15回	作品返却と鑑賞

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価

評価の基準 授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。

評価の方法	レポート（ 30%）、発表（ 30%）、作品（ 30%）、授業への参加度（ 10%）
-------	--

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
授業に合わせて、資料等配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

保育の表現技術 Ⅲ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育の表現技術 Ⅲ（音楽表現）

科目責任者 松原 敬子

担当教員
黒田 静江
柴辻 純子
水村 明子
石橋 葉子
石井 博子
池田 仁美
額田 優美

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30019102

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

前期「保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）」での学習をさらに深めて、音楽に関する保育に必要な知識やピアノ演奏技術を向上させる。小グループまたはその中で個人指導を行う。伴奏を弾く側と歌う子どもの側との両方に意識が持てるようにする。歌いたい気持ちを盛り上げるような導入や教材などを準備し、伴奏と共に発表しあう。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション 授業概要・到達目標・伴奏を弾く時気を付けたいこと。
第2回 必修曲と季節の歌（1）春
第3回 中間試験について
第4回 必修曲と季節の歌（2）夏
第5回 必修曲と季節の歌（3）秋・冬
第6回 中間試験（保育教材を活用した音楽活動）

- 第7回 コードネームで表された歌の伴奏（1）
第8回 コードネームで表された歌の伴奏（2）
第9回 年少児向けの歌と音楽活動方法
第10回 年長児向けの歌と音楽活動方法
第11回 子どもの歌を使ったさまざまな音楽活動（1）
第12回 子どもの歌を使ったさまざまな音楽活動（2）（簡易打楽器を使って）
第13回 実習準備のための曲
・歌（1）
第14回 実習準備のための曲
・歌（2）子どもと共に楽しめる歌
第15回 発表 まとめ

予習・復習の内容	予習			
	復習			
	展開			
成績評価	評価の基準	保育現場を想定し、子ども歌の弾き歌いができる。 期末試験・中間試験・授業への参加態度		
	評価の方法	期末試験（40%）	中間試験（30%）	授業への参加態度（30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「おとなのためのバイエル」坂東貴子著　ドレミ楽譜出版 「幼児の表現をはぐくむ歌」黒田静江著　音楽教育研究協会			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

保育の表現技術Ⅳ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育の表現技術Ⅳ（音楽表現）

科目責任者 松原 敬子

担当教員
黒田 静江
石井 恵子
柴辻 純子
水村 明子
石橋 葉子
木村 憲子
石井 博子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30019202

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

「保育の表現技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（音楽表現）」で習得した技能を更に高め、積極的に音楽に取り組む意欲を養い、幅広い音楽活動にも対応できるようにする。子どもの歌とその伴奏法、アレンジの仕方も学ぶ。必要に応じて全員で学ぶ時間を設けつつ、学生のグレードに合わせた個人レッスンと保育現場を想定した発表を毎回行う。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 各自で作成	オリエンテーション	進度に合わせた授業計画を
		第2回 確認	伴奏のアレンジについて	（1）コードネームの
		第3回	伴奏のアレンジについて	（2）子どもの活動を
		第4回	想定し、自由に伴奏形を変える	
			子育て支援での音楽活動（親子で楽しめる活動）	

	第 5 回	3、4 歳児の歌と音楽表現活動
	第 6 回～第 7 回	5 歳児の音楽表現活動
	第 8 回	さまざまな子どもの歌 試験曲の確認
	第 9 回	ピアノ実技試験
	第 10 回	音楽表現における総合的な保育について
	第 11 回～第 13 回	音楽表現課題 グループワーク
	第 14 回～第 15 回	課題発表・考察及び評価
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	保育現場を想定し、子ども歌の弾き歌いができる。 期末試験・中間試験・授業への参加態度
	評価の方法	期末試験（ 40%） 中間試験（ 30%） 授業への参加態度（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社「幼児の表現をはぐくむ歌」音楽教育研究協会「おとなのためのバイエル教本」ドレミ楽譜出版社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

特別支援教育原論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 特別支援教育原論

科目責任者

担当教員 漆澤 恭子
佐藤 慎二

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30004701

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 特別支援学校学習指導要領解説書などを参考に、特別支援教育の在り方を考える。
2. 講義を中心とするが、調査・発表・討論も取り入れる。

学生の達成目標

授業内容

第1回

第1回～第5回 特別支援教育の意義

- ①能力に応じる教育からニーズに応じる教育
- ②インクルージョン教育への道程 …ノーマライゼーション、メインストリーミング、インテグレーション
- ③特別な教育的ニーズの理解
- ④特別支援教育の対象と関連教育法規の確認
- ⑤個別の教育支援計画の意義と実際

第6回～第10回 特別支援教育の方法Ⅰ

- ①特別支援学校の目的・機能・その実際
- ②特別支援学級の目的・機能・その実際
- ③通級指導教室の目的・機能・その実際

第11回～第15回 特別支援教育の方法Ⅱ

- ①通常の学校における特別支援教育

②特別支援教育コーディネーターと校内支援体制の構築
③巡回指導他の様々な校外リソースとのコラボレーションの実
際

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	毎回資料を配付する。参考書を手元に置くことが望ましい。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

知的障害の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 知的障害の子どもの心理・生理・病理

科目責任者 漆澤 恭子

担当教員 相磯 友子
高野 喜久雄

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30005601

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・写真や図、パワーポイント等を活用し、実践的・具体的に理解できるようにする。
- ・事例研究により、知的障害のある子どもの、行動背景を考えられるようにする。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第 1 回	知的障害の生理・病理 担当：高野 ① 遺伝子の異常 ② 染色体の異常 ③ 胎生期、周産期の異常 ④ てんかん ⑤ 障害の発見と対応
		第 2 回～第 4 回	知的障害観の変遷と知的障害の定義 担当：相磯 ① 知的障害観の変化 ② 知的障害の定義－WHOなど ③ 知能と知能検査
		第 5 回～第 8 回	知的障害のある子どもの心理 担当：相磯 ① 知的機能の発達の特徴 ② 社会性の発達の特徴 ③ 知的障害のある子どもの事例検討
予習・復習の内容		予習	
		復習	
		展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。	
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）	
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
		佐藤泰正編著「障害児の心理」学芸図書出版 kkを中心に、適宜プリントを配布する。	
推薦図書等			
参考URL			
備考			

肢体不自由の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 肢体不自由の子どもの心理・生理・病理

科目責任者 漆澤 恭子

担当教員 相磯 友子
高野 喜久雄

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30005701

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

肢体不自由のある子どもへの理解を深め、具体的な事例から行動背景を考えられるようにする。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|-------------|------------------------|
| 第1回 | 第 1 回 | 肢体不自由の生理・病理 担当：高野 |
| | 由 | ① 脳損傷性肢体不自由と非脳損傷性肢体不自由 |
| | | ② 脳性まひ、二分脊椎 |
| | | ③ 重複障害 |
| | 第 2 回～第 5 回 | 肢体不自由の子どもの心理 担当：相磯 |
| | | ① 肢体不自由の定義 |
| | | ② 肢体不自由と認知の障害 |
| | | ③ 肢体不自由と言語の障害 |
| | | ④ 肢体不自由の子どもの事例検討 |
| | 第 6 回～第 8 回 | 肢体不自由の子どもの障害受容 担当：相磯 |
| | | ① 障害受容とは |
| | | ② 事例検討 |

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	佐藤泰正編著「障害児の心理」学芸図書出版 kkを中心に、適宜プリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

病弱の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 病弱の子どもの心理・生理・病理

科目責任者 漆澤 恭子

担当教員 相磯 友子
高野 喜久雄

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30005801

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 病弱の子どもへの理解を深め、具体的な事例から行動背景を考えられるようにする。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第 1 回	「病弱」の生理・病理 担当：高野 ① 「病弱」の起因と疾患 ② 小児気管支喘息 ③ 筋ジストロフィー ④ ネフローゼ ⑤ 自律神経失調症 ⑥ 小児慢性特定疾患等 ⑦ 重度重複障害
		第 2 回～第 3 回	「病弱」の教育上の定義 担当：相磯 ① 教育上の定義 ② 病弱教育の対象の移り変わりと現在の動向
		第 4 回～第 8 回	病弱の子どもの心理 担当：相磯 ① 疾病進行への不安と恐怖 ② 行動制限によるストレス ③ 親子関係への影響

- ④ 適応機制
- ⑤ 慢性疾患の子どもの事例

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	佐藤泰正編著「障害児の心理」学芸図書出版 kkを中心に、適宜プリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

知的障害教育 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 知的障害教育 I

科目責任者

担当教員 中坪 晃一

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30005901

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とするが、幼稚園免許状等取得のための特別支援学校での実習経験等を踏まえ、調査・発表・協議も取り入れ、できるだけ具体的な事例を多くして、理解を深めるようにする。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|-------|--|
| 第1回 | 第 1 回 | 知的障害教育における学習指導要領と教育課程編成
知的障害教育における教育課程編成の考え方・編成手順 |
| | 第 2 回 | 知的障害教育の教育課程の特色
知的障害特別支援学級のエデュケーション |
| | 第 3 回 | 知的障害教育における教科の指導 |
| | 第 4 回 | 知的障害教育と自立活動 |
| | 第 5 回 | 知的障害教育と特別活動 |
| | 第 6 回 | 知的障害教育と「総合的な学習の時間」 |
| | 第 7 回 | 個別的教育支援計画と個別の指導計画 |
| | 第 8 回 | 知的障害特別支援学校の望ましい教育課程編成 |

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準 授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。

評価の方法 学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

「知的生姜教育・基礎知識 Q&A」 千葉大学附属委特別支援学校編・K&H

推薦図書等

参考URL

備考

知的障害教育 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 知的障害教育 II

科目責任者

担当教員 山本 邦晴
漆澤 恭子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30006001

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とするが、実習経験や参観を踏まえ、協議・発表も取り入れる。ビデオ等も多く活用し、できるだけ具体的な事例を多くして、理解を深める。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 知的障害とは何か?改めて、考える!
		第2回 「合わせた指導」の教育課程上の位置づけと考え方
		第3回 生活単元学習の計画と指導の実際(1)
		第4回 生活単元学習の計画と指導の実際(2)
		第5回 遊びの指導の計画と指導の実際
		第6回 作業学習の計画と指導の実際
		第7回 日常生活の指導の計画と指導の実際
		第8回 進路指導・キャリア教育と卒業後の課題

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	毎時間、関連の資料を配付する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

肢体不自由教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 肢体不自由教育

科目責任者

担当教員 小久保 元

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30006101

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 教育現場との関わりを大切にし、具体的事例を基に授業を進める。
2. 肢体不自由児からの視点で教育活動を考える。
3. レポートやグループ討議を通して、指導者としての心構えや基礎力を培う。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第 1 回	特別支援学校の子ども	
		第 2 回	子どもと学力	
		第 3 回	個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成方法と活用の仕方	
		第 4 回～第 5 回	個別の指導計画の作成・活用・見通しの実際	
		第 6 回	肢体不自由児の教育課程と学習指導要領の関係	
		第 7 回	学習活動（教科）	
		第 8 回	学習活動（総合的な学習）	
		第 9 回	学習活動（自立活動・個の成長）	
		第10回	学習活動（自立活動・コミュニケーション）	
		第11回	コミュニケーション支援の具体的な方法	
		第12回～第13回	医療的ケア（課題・実践・教育）	
		第14回	訪問教育	
		第15回	環境づくりの意義と保護者・地域との連携	
	予習・復習の内容		予習	
		復習		
		展開		
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。		
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）		
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	資料を毎回配布する。			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

病弱教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 病弱教育

科目責任者

担当教員 昆 俊雄

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30006201

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義を中心とするが、レポートやグループ討議等で考える機会を設けていく。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 病弱教育の歴史
		第2回 病気治療における教育の役割
		第3回 病気の子の理解・子どもの病気と心のケア
		第4回 病弱の特別支援学校における教育の実際
		喘息 慢性疾患、肥満、小児ガン、心身症、心臓疾患、重症心身障害、腎疾患、筋ジス等の筋疾患、等の教育
		第5回 院内学級、特別支援教室等の教育の実際
		第6回 病弱教育の教育課程
		第7回 医療機関と学校の関係及び医療と教育との連携
		第8回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	全国病弱教育養護学校長会 編著『病弱教育 Q&A』PART I ジアース教育新社 他	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

視覚・聴覚障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 視覚・聴覚障害教育総論

科目責任者

担当教員 伊藤 和男
渡邉 研

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30006301

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

見えない見えにくい児童の教育は、個々の視機能を考慮すると共に、触覚や聴覚などを活用して指導することが必要である。本授業では、この基本的立場を念頭に、現在行われている視覚障害教育の基本を学ぶと共に、特別支援教育下における盲学校のあり方と視覚障害児に適した教育の場についても考える。講義形式。授業内容に即したプリントを用意し、これを逐次読みながら、解説を加えるとともに、関連する資料の提示により、一層の理解を図るようにする。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|-----|--|
| 第1回 | 第1回 | 【視覚障害教育の概要】
視覚機構と視覚障害
視機能の検査（教育的評価）
視覚障害児童生徒の実態と教育の場 |
| | 第2回 | 【教育課程と指導法】
教育課程・指導計画の作成
盲児に対する指導内容・方法と弱視児に対する配慮
視覚障害児のための教材・教具（教科書） |
| | 第3回 | 【自立活動の基本と指導】
視覚障害児の抱える困難と自立活動の意義 |

		特設時間における指導の進め方と指導内容
	第4回	【乳幼児期における支援】 盲学校幼児部の歩みと現状 幼児部における教育と視覚障害幼児の指導内容 幼稚園や保育所等に通う視覚障害幼児の援助
	第1回	【沿革と現状】 聾教育の創始とその後の発展 戦後の聾教育 聾学校の幼児児童生徒数の推移 聾学校の現状 難聴教育の発展と現状 筑波技術短期大学の設立
	第2回	【対象児童生徒】 聴覚障害の定義 聴覚障害の分類 聴覚検査法の概要 判別基準の推移と教育措置
	第3回	【指導内容・方法】 学習指導要領の変遷 新学習指導要領と具体的な指導内容 指導方法の変遷と現状 教材
	第4回	【今後の課題】 聾学校在学者数の減少傾向 言語指導法の確立 基礎学力の向上 時代に即応した職業教育 重複障害教育の充実 卒業後の生徒に対するアフターケア
予習・復習の内容		予習
		復習
		展開
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 香川邦生編著『視覚障害教育に携わる方のために』慶應義塾大学出版会 その他必要に応じてプリント配布プリント
推薦図書等		
参考URL		
備考		

学習障害・重複障害等教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 学習障害・重複障害等教育総論

科目責任者 漆澤 恭子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30006401

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とするが、幼稚園教諭免許状取得のための特別支援学校での実習経験や参観をふまえ、調査・発表・協議も取り入れ、できるだけ具体的な事例を多くして理解を深める。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 発達障害の理解
第2回 学習障害の基本的理解
第3回 学習障害の教育的支援
第4回 ADHDの基本的理解
第5回 ADHDの教育的支援
第6回 自閉症を中心とする広汎性発達障害の理解と支援
第7回 重複障害の理解と教育的支援の方法（特別支援学校での教育実践を中心に）
第8回 学習のまとめ

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		軽度発達障害の教育 上野一彦他編 日本文化科学社
推薦図書等		
参考URL		
備考		

言語障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 言語障害教育総論

科目責任者

担当教員 堀 彰人

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30006501

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とするが、その中で事例の紹介や、指導に関する実技等も含めて理解を深めていく。

学生の達成目標

1. 構音障害、吃音、言語発達の遅れ等に関する基礎的事項を学ぶ。
2. 子どもの言語障害に関する指導について、事例を通して学ぶ。
3. 学校における言語障害教育への指導に関する制度等について学ぶ。

授業内容

- 第1回 第1回 言語障害の概要、指導の場や指導方法等について学習する。
- 第2回 言語発達の基礎について学習する。
- 第3回 言語発達の遅れ、言語性学習障害、AAC等に関するアセスメント、指導について学習する。
- 第4回 構音障害の基礎について学習する。
- 第5回 構音障害に関するアセスメント、指導について学習する。
- 第6回 吃音の基礎について学習する。
- 第7回 吃音に関するアセスメント、指導について学習する。
- 第8回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

特別支援教育実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 特別支援教育実習

科目責任者 松原 敬子

担当教員

高倉 誠一
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
黒田 静江
浅川 繭子
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30016601

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 特別支援学校での実習がよりよく行えるよう、実習の意義や必要性等の理解を深める。
2. 実習中は、巡回訪問を行い、指導・支援につとめる。

学生の達成目標

授業内容

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
評価の方法	レポート（ 30%）、発表（ 30%）、作品（ 30%）、授業への参加度（ 10%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
文部科学省「特別支援学校学習指導要領・同解説書」ケーアンドエイチ「支援案の書き方・個別の支援計画」

推薦図書等

参考URL

備考

特別支援教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 特別支援教育実習事前事後指導

科目責任者

担当教員 高倉 誠一

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30006801

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 特別支援学校での実習がよりよく行えるよう、実習の意義や必要性等の理解を深める。
2. 特別支援教育の教育課程の特色及び指導法の他、実習校の概要の理解を深める。
3. 支援（指導）案、記録簿の書き方や、子どもの様子の把握と支援等について、学ぶ。

学生の達成目標

授業内容

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	文部科学省「特別支援学校学習指導要領・同解説書」ケーアンドエイチ「支援案の書き方・個別の支援計画」	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

ボランティア体験実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 ボランティア体験実習

科目責任者 田村 光子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30006701

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

幼児教育、保育、障害児者福祉の各領域・分野から各自の興味に合わせた活動を選択し、現場の活動に参加する。現場での関わりを通して、具体的・実際的な支援の必要性を知る。さらに各領域・分野におけるコーディネーターによる体験の導入と振り返りの指導により、人間関係力・社会関係力を身につけ、よりよい職業選択につなげる内容とする。

学生の達成目標

授業内容

予習
予習・復習の内容 復習
展開

成績評価

評価の基準 授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
評価の方法 学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

なし

推薦図書等

参考URL

備考

保育実習 I（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実習 I（保育所）

科目責任者 松原 敬子

担当教員

中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 蘭子
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30014301

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・ 学内での事前・事後指導を必ず受けて実習に出る。
- ・ 実習施設内での事前・事後指導を受け、実習期間中は毎日実習記録を提出する。

学生の達成目標

1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。

5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

授業内容

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
	評価の方法	レポート（30%）、発表（30%）、作品（30%）、授業への参加度（10%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	「実習の手引き」・「保育所保育指針」厚生労働省 フレーベル館

推薦図書等

参考URL

備考

保育実習 I（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実習 I（施設）

科目責任者 松原 敬子

担当教員

田村 光子
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30014401

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

児童福祉施設（児童養護施設、母子生活支援施設）、障害関連施設等、それぞれの施設において求められる専門職としての知識・技能を身につける。

学生の達成目標

授業内容

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
評価の方法	レポート（ 30%）、発表（ 30%）、作品（ 30%）、授業への参加度（ 10%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
なし

推薦図書等

参考URL

備考

保育実習Ⅱ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実習Ⅱ（保育所）

科目責任者 松原 敬子

担当教員

中坪 晃一
佐藤 愼二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 蘭子
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30014501

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・学内での事前・事後指導を必ず受けて実習に出る。・実習施設内での事前・事後指導を受け、実習期間中は毎日実習記録を提出する。

学生の達成目標

1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。
3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。

4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
6. 保育士としての自己の課題を明確化する。

授業内容

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
	評価の方法	レポート（30%）、発表（30%）、作品（30%）、授業への参加度（10%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	「実習の手引き」・「保育所保育指針」厚生労働省 フレーベル館

推薦図書等

参考URL

備考

保育実習 Ⅲ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実習 Ⅲ（施設）

科目責任者 松原 敬子

担当教員

田村 光子
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30014601

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

児童福祉施設（児童養護施設、母子生活支援施設）、障害関連施設等、それぞれの施設において求められる専門職としての知識・技能を身につける。

学生の達成目標

授業内容

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
評価の方法	レポート（ 30%）、発表（ 30%）、作品（ 30%）、授業への参加度（ 10%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
なし

推薦図書等

参考URL

備考

保育実習指導 I（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実習指導 I（保育所）

科目責任者 松原 敬子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30014702

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・実習に向けての心構えを踏まえ、目標を掲げ実習に臨む。
- ・実習後は、振り返りを通して自分自身の新たな実習課題を明確化していく。

学生の達成目標

1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。
4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

授業内容

- 第1回 第1回～第2回
1. 保育実習の意義
 - （1）実習の目的
 - （2）実習の概要
- 第3回～第4回
2. 実習の内容と課題の明確化
 - （1）実習の内容

		(2) 実習の課題
	第5回～第7回	3. 実習に際しての留意事項
		(1) 子どもの人権と最善の利益の考慮
		(2) プライバシーの保護と守秘義務
		(3) 実習生としての心構え
	第8回～第12回	4. 実習の計画と記録
		(1) 実習における計画と実践
		(2) 実習における観察、記録及び評価
	第13回～第15回	5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化
		(1) 実習の総括と自己評価課題の明確化
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
	評価の方法	レポート（30%）、発表（30%）、作品（30%）、授業への参加度（10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「実習の手引き」・「保育所保育指針」厚生労働省 フレーベル館	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習指導 I（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実習指導 I（施設）

科目責任者 松原 敬子

担当教員 田村 光子
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30014802

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

実習に向けての事前学習、事後学習である。実習にむけて実習目標、実習課題を明確化し、よりよい実習にのぞめるよう準備する。

学生の達成目標

授業内容

予習
予習・復習の内容 復習
展開

成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
	評価の方法	レポート（30%）、発表（30%）、作品（30%）、授業への参加度（10%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

なし

推薦図書等

参考URL

備考

保育実習指導Ⅱ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実習指導Ⅱ（保育所）

科目責任者 松原 敬子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30014902

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・実習に向けての心構えを踏まえ、目標を掲げ実習に臨む。
- ・実習後は、振り返りを通して自分自身の新たな実習課題を明確化していく。

学生の達成目標

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
3. 保育の観察や、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

授業内容

- | | |
|-----|---------------------------|
| 第1回 | 第1回～第2回 |
| | 1. 保育実習による総合的な学び |
| | （1）子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 |
| | （2）子どもの保育と保護者支援 |
| | 第3回～第4回 |
| | 2. 保育実践力の育成 |
| | （1）子どもの状態に応じた適切なかかわり |

		(2) 保育の表現技術を生かした保育実践
	第 5 回～第 10 回	
	3. 計画と観察、記録、自己評価	
		(1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
		(2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
	第 11 回～第 12 回	
	4. 保育士の専門性と職業倫理	
	第 13 回～第 15 回	
	5. 事後指導における実習の総括と評価	
		(1) 実習の総括と自己評価
		(2) 課題の明確化
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
	評価の方法	レポート（ 30%）、発表（ 30%）、作品（ 30%）、授業への参加度（ 10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	「実習の手引き」・「保育所保育指針」厚生労働省 フレーベル館	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習指導 Ⅲ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実習指導 Ⅲ（施設）

科目責任者 松原 敬子

担当教員 田村 光子
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30015001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

実習に向けての事前学習、事後学習である。実習にむけて実習目標、実習課題を明確化し、よりよい実習にのぞめるよう準備する。

学生の達成目標

授業内容

予習
予習・復習の内容 復習
展開

成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
	評価の方法	レポート（30%）、発表（30%）、作品（30%）、授業への参加度（10%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

なし

推薦図書等

参考URL

備考

教育実習 I（参観実習）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 教育実習 I（参観実習）

科目責任者 松原 敬子

担当教員
相磯 友子
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
田村 光子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30014101

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 幼稚園、特別支援学校等で、観察・参観実習を行う。
2. 1 に向けてのオリエンテーションを実施する。

学生の達成目標	1.	幼稚園の保育に接し、保育の流れ・保育者の動き・子どもの様子等の観点がつかめるようにする。子どもたちの活動の中に入り、一緒に遊ぶ。
	2.	幼稚園の園行事に参加し、行事のねらいに沿って展開される保育を体験する。子どもの様子や保育者の動き、さらには、保育者が保護者と関わる様子を観察する。
	3.	特別支援学校に在籍する子どもたちと触れ合うことを通して、障害ややさしい支援の在り方を考えるきっかけとする。
授業内容		
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
	評価の方法	レポート（30%）、発表（30%）、作品（30%）、授業への参加度（10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	必要に応じて資料を配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教育実習 II（幼稚園）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 教育実習 II（幼稚園）

科目責任者 松原 敬子

担当教員

浅川 繭子
中坪 晃一
佐藤 愼二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30014001

教室

単位数 3

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 巡回訪問を行い、指導・支援に努める。

学生の達成目標

授業内容

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
	評価の方法	レポート（ 30%）、発表（ 30%）、作品（ 30%）、授業への参加度（ 10%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	・実習の手引き・「幼稚園教育要領解説」フレーベル館	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教育実習 Ⅲ（特別支援学校・学級）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 教育実習 Ⅲ（特別支援学校・学級）

科目責任者 松原 敬子

担当教員

相磯 友子
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
田村 光子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30014201

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 ・実習施設内での事前・事後指導を受け、実習期間中は毎日日誌を提出する。

学生の達成目標

1. 特殊教育諸学校での実習がよりよく行えるよう、実習の意義や必要性等の理解を深める。
2. 実習中は、巡回訪問を行い、指導・支援につとめる。

授業内容

予習・復習の内容 予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
評価の方法	レポート（30%）、発表（30%）、作品（30%）、授業への参加度（10%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
適宜プリントを配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

教育実習Ⅱ・Ⅲ事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 教育実習Ⅱ・Ⅲ事前事後指導

科目責任者 松原 敬子

担当教員 浅川 繭子
相磯 友子

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30015102

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

幼稚園、特別支援学校での実習がよりよく行えるよう、実習の意義や必要性等の理解を深める。

学生の達成目標

授業内容

予習
予習・復習の内容 復習
展開

成績評価
評価の基準 授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
評価の方法 レポート（30%）、発表（30%）、作品（30%）、授業への参加度（10%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

- ・実習の手引き・「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

推薦図書等

参考URL

備考

教職実践演習（幼稚園）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 教職実践演習（幼稚園）

科目責任者 清宮 宏臣

担当教員

佐藤 慎二
中坪 晃一
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
松原 敬子
浅川 繭子
田村 光子
相磯 友子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 50000011

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

専任教員 11名が担当する。現場教師の経験談等は、全員で聴講することもあるが、原則として、11グループ編成とする。グループごとに10名から20名程度の少人数とし、きめ細かな対応をする。

学生の達成目標

授業内容

第1回
第1回 オリエンテーション ・本演習のねらいや方法について
・教育実習を含むこれまでの学習の振り返りと課題等の協議・確認第2回 現場教師による経験談
「現場で望まれる教師」第3回 幼稚園における望ましい教師のあり方－職業倫理、勤務態度、服務規律等（ロールプレイング）第4

回 幼稚園における望ましい教師のあり方－人間関係・チームティーチング（ロールプレイング）第5回 現場教師による経験談「保育の実践力について」第6回 子どもの声・思いの聞き取り・感じ取り（ロールプレイング）第7回 子どもの前に立つ（実習体験等を振り返り、課題の協議・確認）第8回 子どもの前に立つ（模擬授業・ロールプレイング－手遊び・素話等を交えて）第9回 子どもの前に立つ（模擬授業・ロールプレイング）第10回 特別な支援を必要とする子への対応（その子自身への支援を中心に）第11回 特別な支援を必要とする子への対応（周囲との関係づくりを中心に）第12回 保護者との関係（相談への対応を中心に）第13回 保護者との関係（信頼関係をつくることを中心に）第14回 就学に向けて（幼少の連携・園児への対応・手続き等）第15回 資質能力の自己評価、確認・まとめ 定期試験等 テスト

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価

評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
評価の方法	研究レポート（60%） 研究過程（20%） 授業への参加態度（20%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
なし。課題に即した資料を必要に応じて作成・配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

科目責任者

担当教員 中坪 晃一

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 50001001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・実際の保育等生活の場に関わりをもって、自ら問題意識を深めることを重視する。
・個別の指導を多くし、全体で集まる機会を適宜設ける。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション（授業の進め方）。第2回 卒業研究の意義と方法について。第3回～第4回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。第5回～第6回 課題設定に基づき、参観・ボランティア先の決定。第7回 参観記録の方法、問題の明確化等について検討。第8回～第9回 各自の研究課題の発表・協議。第10回～第18回 参観先訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）。第19回～第20回 参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表）。第21回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。第22回～第23回 関係資料の収集・文献研究。第24回～第28回 論文の執筆過程での相談支援。第29回 論文の加除・修正・論文の提出。第30回 卒業研究発表会。

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
評価の方法	研究レポート（60%） 研究過程（20%） 授業への参加態度（20%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
なし

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

科目責任者

担当教員 佐藤 慎二

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 50001002

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 実際の保育や教育場面に関わりをもつて、自ら問題意識を高めることを重視する。2. テーマや進路先とも関連させながらの個別的な支援を丁寧に行い、全体での交流・発表の場を適宜設定する。*進路先の相談については、授業時間以外にも適宜設定する。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回～第5回 ○授業の進め方や年間の見通しについての確認。
○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。 ○卒業研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。
○実際の参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。
○個別面談方式による相談会第6回～第10回 ○卒業研究の執筆過程での相談支援。 ○特に、進路先の相談については、授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。第11回～第15回 ○執筆と相談第16回 ○中間発表会Ⅰ第17回～第22回
○執筆と相談第23回 ○中間発表会Ⅱ第24回～第29回
○執筆と相談→提出第30回 ○卒業研究発表会

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	研究レポート（ 60%） 研究過程（ 20%） 授業への参加態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	学生のテーマに合わせて、参考文献、資料等を紹介する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

科目責任者 山本 邦晴

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 50001003

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 実際の保育や教育場面に関わりをもって、自ら問題意識を高めることを重視する。2. テーマや進路先とも関連させながらの個別的な支援を丁寧に行い、全体での交流・発表の場を適宜設定する。＊進路先の相談については、授業時間以外にも適宜設定する。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回～第5回 ○授業の進め方や年間の見通しについての確認。
○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。 ○卒業研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。
○実際の参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。
○個別面談方式による相談会第6回～第10回 ○卒業研究の執筆過程での相談支援。 ○特に、進路先の相談については、授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。第11回～第15回 ○執筆と相談第16回 ○中間発表会Ⅰ第17回～第22回
○執筆と相談第23回 ○中間発表会Ⅱ第24回～第29回
○執筆と相談→提出第30回 ○卒業研究発表会

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
評価の方法	研究レポート（60%） 研究過程（20%） 授業への参加態度（20%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
学生のテーマに合わせて、参考文献、資料等を紹介する。

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

科目責任者 漆澤 恭子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 50001004

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・子どもの立場に立って、教育的ニーズを理解し、具体的な支援の方法を考えることを重視する。・個別の指導を多くし、全体で集まる機会を適宜設ける。

学生の達成目標

第1回 オリエンテーション（授業の進め方）。第2回 卒業研究の意義と方法について。第3回～第4回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。第5回～第6回 課題設定に基づく研究方法の検討。第7回～第8回 各自の研究課題の発表・協議。第9回～第18回 各自の課題にそった研究活動、相談支援。第19回～第20回 中間発表。第21回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。第22回～第23回 関係資料の収集・文献研究。第24回～第28回 論文の執筆過程での相談支援。第29回 論文の加除・修正・論文の提出。第30回 卒業研究発表会。

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（60%）	研究過程（20%）	授業への参加態度（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	逐次状況に応じてプリントを配布する。			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

科目責任者

担当教員 高倉 誠一

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 50001005

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・実際の保育等生活の場に関わりをもって、自ら問題意識を深めることを重視する。
・個別の指導を多くし、全体で集まる機会を適宜設ける。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション（授業の進め方）。第2回 卒業研究の意義と方法について。第3回～第4回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。第5回～第6回 課題設定に基づき、参観・ボランティア先の決定。第7回 参観記録の方法、問題の明確化等について検討。第8回～第9回 各自の研究課題の発表・協議。第10回～第18回 参観先訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）。第19回～第20回 参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表）。第21回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。第22回～第23回 関係資料の収集・文献研究。第24回～第28回 論文の執筆過程での相談支援。第29回 論文の加除・修正・論文の提出。第30回 卒業研究発表会。

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
評価の方法	研究レポート（60%） 研究過程（20%） 授業への参加態度（20%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
逐次状況に応じてプリントを配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

科目責任者 黒田 静江

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 50001006

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

子どもをとりまく様々な課題の中から、自らの興味関心に基づいて具体的なテーマを設定し、調査・研究活動に取り組み、発表・協議を行い報告書にまとめる。保育現場でのボランティアを経験しながら、各自設定した課題について考える。また自分たちで協力しあいながら音楽会を企画し、発表する。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション第2回 卒業研究の意義と方法・資料収集などについて第3回～第4回 各自で興味・関心のあるテーマを設定し、発表しあったり、今後の研究計画を考える。第5回～第6回 課題設定に基づき、参観・ボランティア先の決定第7回 参観記録の方法・問題の明確化第8回～第9回 各自の研究課題の発表・協議第10回～第18回 各自で調査研究（参観・実習・ボランティア・調査等）第19回～第20回 中間発表第21回 論文の構成・体裁、執筆方法などについて第22回～第23回 関係資料の収集・文献研究第24回～第27回 論文の執筆課程での相談支援第28回 論文の加筆・修正・論文の提出第29回～第30回 卒業研究発表会

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
評価の方法	研究レポート（60%） 研究過程（20%） 授業への参加態度（20%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
特になし。

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

科目責任者 松原 敬子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 50001007

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・学生の主体的取り組みを大切にし、その支援に努める。
- ・個別の支援・指導を大切にすると共に、全体で協議を行い課題の共有化・深化を図る。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|-----------|--------------------------------|
| 第1回 | 第1回 | オリエンテーション（授業・卒業研究の進め方） |
| | 第2回 | 総合演習（保育・障害支援）・卒業研究の意義と方法について |
| | 第3回～第4回 | 一人ひとりの関心等の意見交換と課題設定についての検討 |
| | 第5回～第6回 | 課題設定に基づく、参考文献収集、参観先・ボランティア先の決定 |
| | 第7回 | 参観先での記録と深めたい問題の明確化等について検討 |
| | 第8回～第9回 | 各自の研究課題の発表・協議 |
| | 第10回～第18回 | 参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等） |
| | 第19回～第20回 | 参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表） |
| | 第21回 | 論文の構成・体裁と執筆方法について |
| | 第22回～第23回 | 関係資料の収集・文献研究 |

第 24回～第 28回 論文の執筆
第 29回 論文の検討・修正
第 30回 卒業研究発表会

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	研究レポート（ 60%） 研究過程（ 20%） 授業への参加態度（ 20%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	逐次状況に応じてプリントを配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

科目責任者 浅川 繭子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 50001008

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・学生の主体的取り組みを大切にし、その支援に努める。
- ・個別の支援・指導を大切にすると共に、全体で協議を行い課題の共有化・深化を図る。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|-----------|--------------------------------|
| 第1回 | 第1回 | オリエンテーション（授業・卒業研究の進め方） |
| | 第2回 | 総合演習（保育・障害支援）・卒業研究の意義と方法について |
| | 第3回～第4回 | 一人ひとりの関心等の意見交換と課題設定についての検討 |
| | 第5回～第6回 | 課題設定に基づく、参考文献収集、参観先・ボランティア先の決定 |
| | 第7回 | 参観先での記録と深めたい問題の明確化等について検討 |
| | 第8回～第9回 | 各自の研究課題の発表・協議 |
| | 第10回～第18回 | 参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等） |
| | 第19回～第20回 | 参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表） |
| | 第21回 | 論文の構成・体裁と執筆方法について |
| | 第22回～第23回 | 関係資料の収集・文献研究 |

第 24回～第 28回 論文の執筆
第 29回 論文の検討・修正
第 30回 卒業研究論文の発表と協議

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	研究レポート（60%） 研究過程（20%） 授業への参加態度（20%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	なし

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

科目責任者 田村 光子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 50001009

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・学生の主体的取り組みを大切にし、その支援に努める。
- ・個別の支援・指導を大切にすると共に、全体で協議を行い課題の共有化・深化を図る。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|-----------|--------------------------------|
| 第1回 | 第1回 | オリエンテーション（授業・卒業研究の進め方） |
| | 第2回 | 総合演習（保育・障害支援）・卒業研究の意義と方法について |
| | 第3回～第4回 | 一人ひとりの関心等の意見交換と課題設定についての検討 |
| | 第5回～第6回 | 課題設定に基づく、参考文献収集、参観先・ボランティア先の決定 |
| | 第7回 | 参観先での記録と深めたい問題の明確化等について検討 |
| | 第8回～第9回 | 各自の研究課題の発表・協議 |
| | 第10回～第18回 | 参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等） |
| | 第19回～第20回 | 参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表） |
| | 第21回 | 論文の構成・体裁と執筆方法について |
| | 第22回～第23回 | 関係資料の収集・文献研究 |

第 24回～第 28回 論文の執筆
第 29回 論文の検討・修正
第 30回 卒業研究論文の発表と協議

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	研究レポート（60%） 研究過程（20%） 授業への参加態度（20%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	なし

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

科目責任者 相磯 友子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 50001010

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・興味関心と関連する文献調査から、学生自身で研究テーマを設定する。
- ・調査等の実施については、学生の主体的な取り組みを期待する。
- ・個別の支援・指導と同時に、全体での課題の共有化を図る。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第 1 回	オリエンテーションで、授業の進め方を説明する。
		第 2 回～第 4 回	研究テーマについて、意見交換、文献調査等により理解を深める。
		第 5 回～第 6 回	研究テーマに基づいて、フィールドを検討し、決定する。
		第 7 回～第 8 回	研究テーマを明らかにするための方法を検討し、決定する。
		第 9 回～第 10 回	中間発表を行う。
		第 11 回～第 18 回	フィールドで調査を行う。
		第 19 回～第 21 回	報告書の構成の検討と体裁、執筆方法の説明を行う。
		第 22 回～第 26 回	報告書を執筆する。
		第 27 回～第 29 回	報告書を検討・修正する。
		第 30 回	報告書を提出する。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	研究レポート（ 60%） 研究過程（ 20%） 授業への参加態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	各自の研究テーマに合わせて参考文献を紹介する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

科目責任者 根本 曜子

授業形態

開講時期

登録コード・曜日・時限 50001011

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・学生の主体的取り組みを大切にし、その支援に努める。・個別の支援・指導を大切にすると共に、全体で協議を行い課題の共有化・深化を図る。

学生の達成目標

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション（授業・卒業研究の進め方）
	第2回	総合演習（保育・障害支援）・卒業研究の意義と方法について
	第3回～第4回	一人ひとりの関心等の意見交換と課題設定についての検討
	第5回～第6回	課題設定に基づく、参考文献収集、参観先・ボランティア先の決定
	第7回	参観先での記録と深めたい問題の明確化等について検討
	第8回～第9回	各自の研究課題の発表・協議
	第10回～第18回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）
	第19回～第20回	参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表）
	第21回	論文の構成・体裁と執筆方法について
	第22回～第23回	関係資料の収集・文献研究
	第24回～第28回	論文の執筆

第 29回
第 30回

論文の検討・修正
卒業研究論文の発表と協議

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	研究レポート（ 60%） 研究過程（ 20%） 授業への参加態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリアガイダンス

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 キャリアガイダンス

科目責任者

担当教員 佐藤 慎二
中坪 晃一
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
松原 敬子
浅川 繭子
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 12001105

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- 「人生」や「仕事」、更に「キャリア」、「働くこと」について、各職場で働く先輩の話、さらには、ビジネスマナー等の講習会、ワークシートでの演習等を通して学ぶ。
- 就職試験に向けた実践的な講習会を設定する。

学生の達成目標

授業内容 第1回 第1回 オリエンテーション・ワークシートでの演習（自己理解他）
第2回 教育・保育関連の各職種及び試験準備の概要説明会

第3回 公務員試験講座 I
第4回 公務員試験講座 II
第5回 公務員試験講座 III
第6回 教育採用試験講座 I
第7回 教育採用試験講座 II
第8回 卒業生の話聞く会・ワークシートでの演習（人生設計他）
第9回 教員採用試験講座 IV
第10回 教育採用試験講座 V
第11回 夏休み中の就職活動・履歴書及び模擬面接講座
第12回 作文添削講座
第13回 公務員試験講座 IV
第14回 ビジネスマナー講座
第15回 卒業オリエンテーション（社会人としての自覚と責任を考える・講義と演習）

	予習
予習・復習の内容	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	なし

推薦図書等

参考URL

備考

特別支援教育原論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 特別支援教育原論

科目責任者

担当教員 漆澤 恭子
佐藤 慎二

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30004701

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 特別支援学校学習指導要領解説書などを参考に、特別支援教育の在り方を考える。
2. 講義を中心とするが、調査・発表・討論も取り入れる。

学生の達成目標

授業内容

第1回

第1回～第5回 特別支援教育の意義

- ①能力に応じる教育からニーズに応じる教育
- ②インクルージョン教育への道程 ……ノーマライゼーション、メインストリーミング、インテグレーション
- ③特別な教育的ニーズの理解
- ④特別支援教育の対象と関連教育法規の確認
- ⑤個別の教育支援計画の意義と実際

第6回～第10回 特別支援教育の方法 I

- ①特別支援学校の目的・機能・その実際
- ②特別支援学級の目的・機能・その実際
- ③通級指導教室の目的・機能・その実際

第11回～第15回 特別支援教育の方法 II

- ①通常の学校における特別支援教育

②特別支援教育コーディネーターと校内支援体制の構築
③巡回指導他の様々な校外リソースとのコラボレーションの実
際

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	毎回資料を配付する。参考書を手元に置くことが望ましい。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害教育方法史

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 障害教育方法史

科目責任者

担当教員 名古屋 恒彦

授業形態 講義

開講時期

登録コード・曜日・時限 35001001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 戦後の特別支援教育の理念等を知的障害教育を中心に概説する。

学生の達成目標

第1回	第1回 知的障害教育における「生活主義教育」と「生活中心教育」第2回 生活を大切にする教育の始まり第3回 本物の生活づくりの徹底第4回 生活を大切にする教育の変容と後退第5回 生活主義教育批判・反省の総括的論点第6回 障害の重度化・重複化と知的障害教育第7回 障害の重度化・重複化と生活主義教育第8回 生活中心教育における生活単元学習の再興第9回 教育課程編成と学校生活づくり第10回 学校生活の集団化と個別化第11回 生活中心教育の総括的主張点第12回 生活中心教育の4つの型第13回 子ども主体方の生活中心教育と他の型の比較検討第14回 今日における知的障害教育方法の具体的展開第15回 まとめと討論
-----	--

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	知的障害教育方法史の変遷、教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。
評価の方法	試験 70%、授業での発言等 30%。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
山形県立米沢養護学校編著、中坪晃一・名古屋恒彦監修『テーマのある学校生活 子ども主体の特別支援教育』：コレール社、2,500円（税別）

推薦図書等

参考URL

備考

障害者の人権と社会参加

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 障害者の人権と社会参加

科目責任者

担当教員 中坪 晃一

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 35001201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 ・講義・事例研究・話し合い

学生の達成目標

第1回 第1回 障害者の人権と社会参加の動向第2回～第3回 家族支援（障害の受容、相談支援）第4回～第5回 成年後見制度第6回～第7回 施設から地域生活への移行第8回 警察による権利侵害第9回～第10回 職場における権利侵害第11回～第12回 地域生活を支えるしくみ第13回～第14回 本人活動、地域でくらす人たち第15回 差別禁止の法整備 まとめ

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	知的障害教育方法史の変遷、教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。
	評価の方法	試験 70%、授業での発言等 30%。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		毎回資料を配付
推薦図書等		
参考URL		
備考		

社会福祉論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 社会福祉論

科目責任者 根本 曜子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 35001401

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 DVDなどの教材を使用し、演習形式で行う。

学生の達成目標

1. 現代の社会状況を理解する中から社会福祉とは何か、また社会福祉を支える理念について検討していく(事例を通して内容を確認していく)。
2. 社会福祉の政策的動向を踏まえつつ、ここでは特に児童、障害児者への生活支援を中心に上げつつ、検討していく。
3. ソーシャルサポートネットワークについての理解を深める。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション第2回 自分と社会福祉第3回 低所得者問題 ①第4回 低所得者問題 ②第5回 家族について ①第6回 家族について ②第7回 児童養護について ①第8回 児童養護について ②第9回 学童保育について第10回 社会福祉の理念 ①第11回 社会福祉の理念 ②第12回 社会福祉の理念 ③第13回 地域福祉 ①第14回 地域福祉 ②第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	知的障害教育方法史の変遷、教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。
	評価の方法	試験 70%、授業での発言等 30%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特に指定なし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

統合保育論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 統合保育論

科目責任者 木下 勝世

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 35001601

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 講義資料のほかに統合保育の現場体験と資料を提供する。2. 共に考え、意見を交換しながら理解を深めるようにする。

学生の達成目標

1. 障害のある幼児が幼稚園や保育所で共に生活することの意義を多角的に理解する。
2. 統合保育の実践例を学び、統合保育が果たす役割を実際的に確かめる。
3. 統合保育実践上の諸問題を通して、その背後にある課題について深い認識をもつ。
4. 統合保育の担い手としての確固たる姿勢と熱意を醸成する。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション 授業の目標・内容・進め方
説明 受講者の希望・課題の
聴取第2回 統合保育の定義・意義 ①文献資料の読み込
み<目標1>第3回 統合保育の定義・意義 ②担当教員
の実践から<目標1>第4回～第5回 現場見学事前学習<目標2
>第6回～第8回 現場見学 統合保育実践幼稚園、幼児通園施
設、相談療育機関の見学<目標2> (日程は授業
日と別に設定)第9回 現場見学事後学習・まとめ<目標
2>第10回 統合保育をめぐる諸問題 ①保護者への対応
<目標3> - 障害受容

の問題第 11回 統合保育をめぐる諸問題 ②子ども相互の
関係＜目標 3＞ - 幼児
の自己理解と関係性の育ち第 12回 統合保育をめぐる諸
問題 ③幼児期を取り巻くもの＜目標 3＞
- 就学、関係機関との連携ほか第 13回 統合保育をめぐ
る諸問題 ④直面する現在の課題＜目標 3＞
- 受け入れの態勢、保育者の専門性ほか第 14回 意見発
表「統合保育への提言」＜目標 4＞第 15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	知的障害教育方法史の変遷、教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。
	評価の方法	試験 70%、授業での発言等 30%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

知的障害の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 知的障害の子どもの心理・生理・病理

科目責任者 漆澤 恭子

担当教員 相磯 友子
高野 喜久雄

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30005601

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・写真や図、パワーポイント等を活用し、実践的・具体的に理解できるようにする。
- ・事例研究により、知的障害のある子どもの、行動背景を考えられるようにする。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第 1 回	知的障害の生理・病理 担当：高野 ① 遺伝子の異常 ② 染色体の異常 ③ 胎生期、周産期の異常 ④ てんかん ⑤ 障害の発見と対応
		第 2 回～第 4 回	知的障害観の変遷と知的障害の定義 担当：相磯 ① 知的障害観の変化 ② 知的障害の定義－WHOなど ③ 知能と知能検査
		第 5 回～第 8 回	知的障害のある子どもの心理 担当：相磯 ① 知的機能の発達の特徴 ② 社会性の発達の特徴 ③ 知的障害のある子どもの事例検討
予習・復習の内容		予習	
		復習	
		展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。	
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）	
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
		佐藤泰正編著「障害児の心理」学芸図書出版 kkを中心に、適宜プリントを配布する。	
推薦図書等			
参考URL			
備考			

肢体不自由の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 肢体不自由の子どもの心理・生理・病理

科目責任者 漆澤 恭子

担当教員 相磯 友子
高野 喜久雄

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30005701

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

肢体不自由のある子どもへの理解を深め、具体的な事例から行動背景を考えられるようにする。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|-------------|------------------------|
| 第1回 | 第 1 回 | 肢体不自由の生理・病理 担当：高野 |
| | 由 | ① 脳損傷性肢体不自由と非脳損傷性肢体不自由 |
| | | ② 脳性まひ、二分脊椎 |
| | | ③ 重複障害 |
| | 第 2 回～第 5 回 | 肢体不自由の子どもの心理 担当：相磯 |
| | | ① 肢体不自由の定義 |
| | | ② 肢体不自由と認知の障害 |
| | | ③ 肢体不自由と言語の障害 |
| | | ④ 肢体不自由の子どもの事例検討 |
| | 第 6 回～第 8 回 | 肢体不自由の子どもの障害受容 担当：相磯 |
| | | ① 障害受容とは |
| | | ② 事例検討 |

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	佐藤泰正編著「障害児の心理」学芸図書出版 kkを中心に、適宜プリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

病弱の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 病弱の子どもの心理・生理・病理

科目責任者 漆澤 恭子

担当教員 相磯 友子
高野 喜久雄

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30005801

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 病弱の子どもへの理解を深め、具体的な事例から行動背景を考えられるようにする。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第 1 回	「病弱」の生理・病理 担当：高野
			① 「病弱」の起因と疾患 ② 小児気管支喘息 ③ 筋ジストロフィー ④ ネフローゼ ⑤ 自律神経失調症 ⑥ 小児慢性特定疾患等 ⑦ 重度重複障害
		第 2 回～第 3 回	「病弱」の教育上の定義 担当：相磯
			① 教育上の定義 ② 病弱教育の対象の移り変わりと現在の動向
		第 4 回～第 8 回	病弱の子どもの心理 担当：相磯
			① 疾病進行への不安と恐怖 ② 行動制限によるストレス ③ 親子関係への影響

- ④ 適応機制
- ⑤ 慢性疾患の子どもの事例

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	佐藤泰正編著「障害児の心理」学芸図書出版 kkを中心に、適宜プリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

幼児の生理と健康

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 幼児の生理と健康

科目責任者

担当教員 林 悠佳

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 35004801

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義を中心に、運動実技や測定実習などを行いながら、生理学の基礎と幼児の健康に関わる基礎的な知識の理解を深める。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	幼児の健康と環境第2回	幼児の身体的
		発達第3回	なぜ運動が必要か第4回～第5回	脳神経系
		機能第6回	呼吸・循環反応第7回	体温調節反
		応第8回	免疫とアレルギー第9回	体性感覚第
		10回	幼児の運動機能第11回	幼児の運動発達
	第12回～第14回	幼児の運動・遊び（実技・測定実習・考察）		
	第15回	まとめ		

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	知的障害教育方法史の変遷、教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。
	評価の方法	試験 70%、授業での発言等 30%。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		必要に応じてプリント等を配布する。
推薦図書等		
参考URL		
備考		

発達障害と自閉症

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 発達障害と自閉症

科目責任者 漆澤 恭子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 35005001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 疑似体験などを通じて、発達障害の子どもたちの感じ方や日常生活のストレスなどについて考える。2. 実習の経験や授業参観、研究発表会への参加などを通して実践に役立つ教育方法を考え発表する。

学生の達成目標

第1回 第1回 発達障害概論第2回～第4回 LD、ADHD、高機能 PDDの理解第5回～第7回 自閉症の理解第8回 情緒障害：不登校と被虐待児第9回 アセスメントの基本第10回 認知特性に配慮した教育方法 ①学習第11回 認知特性に配慮した教育方法 ②行動第12回 認知特性に配慮した教育方法 ③社会性第13回～第14回 グループ討論、演習第15回 まとめ実習、現場実践、研究発表会、参観などの時期により、順を入れ替えることがある。

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	知的障害教育方法史の変遷、教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。
	評価の方法	試験 70%、授業での発言等 30%。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		必要に応じて指示する。
推薦図書等		
参考URL		
備考		

児童相談事例研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 児童相談事例研究

科目責任者 漆澤 恭子

担当教員 田村 光子
根本 曜子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 35005201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・「子どもの貧困」をテーマに、子どもの視点から現代の社会状況を理解する。・子ども、家族が置かれた状況について理解し、その支援について検討する。・地域子育て支援の場への参観を実施する。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 ガイダンス第2回 「子どもの貧困」について第3～10回 「子どもの貧困」についての事例検討（保育所・児童養護施設・障害児・青年期等）第11～13回 地域子育て支援の場への参観第14～15回 まとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価	評価の基準	知的障害教育方法史の変遷、教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。
	評価の方法	試験 70%、授業での発言等 30%。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		なし
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 障害論

科目責任者

担当教員 高倉 誠一

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30004901

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 関係資料の調査活動に重点をおく。
2. 講義ではあるが、発表・討論を多くし、考える授業を進める。

学生の達成目標

授業内容

第1回

第1回～第3回 障害の三つの階層・側面－Impairments. Disabilities. Handicapsについて
第4回～第5回 社会的不利益を重要視する障害観－障害を「社会的に負わされた不利益」ととらえる障害観。社会的
不利益を最重要視し、それへの対応を最優先する教育観
第6回～第7回 障害とは何か、障害をどう定義するか－発達に障害があって、そのため生じる社会的不利を解消するには、特別な教育的支援を必要とする状態
第8回～第9回 教育上問題にされる各障害－視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、内部障害、言語障害、自閉症、ADHD、LD等々
第10回 能力の劣弱と教育的対応－視力、聴力、知能、運動能力等が劣ることと、それらを支える対応
第11回 社会的不利と教育的対応－障害から生じる社会的不利と、社会的不利の解消を優先する教育。

	「できる状況づくり」としての支援
第 12回	障害と関わる特別な教育的ニーズ－障害観と教育的ニーズ、障害と教育的ニーズ
第 13回～第 14回	ICFの障害観と対応の変化
第 15回	まとめ
第 16回	試験

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	適宜、関係資料を配付。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害教育課程論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 障害教育課程論

科目責任者 山本 邦晴

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 35007001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 学習指導要領を中心教材として教育課程編成の基礎的理解を深める。2. 講義を中心とするが、調査・発表も取り入れる。3. 特別支援学級等を実際に訪問する。4. 実際の現場で役立つ“手遊び、マジック、ゲーム”(=「ミニネタ」)を毎回、取り入れる。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回～第5回 <学習指導要領における教育課程の基準>
① 学校教育関連法規・学習指導要領との関係
② 特別支援学校学習指導要領の特色 ③ 特別支援学校学習指導要領に規定される領域・教科の内容
④ 知的障害特別支援学校における教育課程の二重構造。
⑤ 特別支援学級の教育課程第6回～第13回 <特別支援学校の教育課程の実践>
① 県内知的障害特別支援学校を中心に、実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。
② 特別支援学級についても同様に行う。第14回～第15回 <望ましい教育課程編成の在り方>
第13回までの授業を踏まえて、望ましい教育課程について発表を行う。

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準 知的障害教育方法史の変遷、教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。

評価の方法 試験 70%、授業での発言等 30%。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

特別支援学校学習指導要領

推薦図書等

参考URL

備考

障害教育指導法研究 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 障害教育指導法研究 I

科目責任者

担当教員 佐藤 慎二

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30005001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 学校教育現場で実際に活用されている指導計画等の事例に学ぶ機会を多くする。
2. 学校教育現場との接点を大切にする。

学生の達成目標

第1回	第 1 回～第 5 回 教育課程と指導法概説 ① 教育課程・指導計画と個別の計画（個別の指導計画、個別移行支援計画、個別の教育支援計画）と授業の計画の関連 ② 学校生活づくりと「できる状況づくり」 ③ 知的障害教育に関連する様々な指導法・指導技法の概説
授業内容	第 6 回～第 15 回 遊びの指導の実際 学園祭に巨大すべり台を中心にした遊び場を設置し、（障害のある）子どもたちを招待し、一緒に遊ぶことを通して、準備、実際の授業展開、評価を行う。

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
評価の方法	学習姿勢 + ミニ課題（20点） + 定期試験（80点）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
必要に応じて資料を配付する。

推薦図書等

参考URL

備考

障害教育指導法研究 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 障害教育指導法研究 II

科目責任者 漆澤 恭子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30005101

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 多様な教育の場のあり方（特別支援学級～通常学級など）について学ぶ。
2. 様々な事例について、実習の経験などから、具体的な支援の方法を協議検討し、発表する。
3. 学校教育現場との接点を大切にし、研究発表、授業参観の機会も設ける。

学生の達成目標

授業内容

- | | | | |
|-----|-----------|--------------------------------------|----|
| 第1回 | 第1回 | 「特別支援教育」の理念について | |
| | 第2回～第6回 | 特別支援教育の実践を学ぶ | (特 |
| | | 別支援学級・通級指導学級・通常学級など) | |
| | 第7回 | 教育課程と編成と年間計画 | |
| | | ①特別支援学級 | |
| | 第8回 | ②通級指導学級 | |
| | 第9回 | ③通常学級 | |
| | 第10回 | 個別の指導計画 | |
| | 第11回～第14回 | 模擬授業の指導案作成と指導の実際・協議 | |
| | 第15回 | まとめ実習、現場実践、研究会などの時期により、順を入れ替えることがある。 | |

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準 授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。

評価の方法 学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

適宜配布、授業では自分の実践について発表できるよう逐次記録し、まとめておくこと。

推薦図書等

参考URL

備考

知的障害教育 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 知的障害教育 I

科目責任者

担当教員 中坪 晃一

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30005901

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とするが、幼稚園免許状等取得のための特別支援学校での実習経験等を踏まえ、調査・発表・協議も取り入れ、できるだけ具体的な事例を多くして、理解を深めるようにする。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|-------|--|
| 第1回 | 第 1 回 | 知的障害教育における学習指導要領と教育課程編成
知的障害教育における教育課程編成の考え方・編成手順 |
| | 第 2 回 | 知的障害教育の教育課程の特色
知的障害特別支援学級のエデュケーション |
| | 第 3 回 | 知的障害教育における教科の指導 |
| | 第 4 回 | 知的障害教育と自立活動 |
| | 第 5 回 | 知的障害教育と特別活動 |
| | 第 6 回 | 知的障害教育と「総合的な学習の時間」 |
| | 第 7 回 | 個別の教育支援計画と個別の指導計画 |
| | 第 8 回 | 知的障害特別支援学校の望ましい教育課程編成 |

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準 授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。

評価の方法 学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

「知的障害教育・基礎知識 Q&A」千葉大学附属特別支援学校編・K&H

推薦図書等

参考URL

備考

知的障害教育 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 知的障害教育 II

科目責任者

担当教員 山本 邦晴
漆澤 恭子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30006001

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とするが、実習経験や参観を踏まえ、協議・発表も取り入れる。ビデオ等も多く活用し、できるだけ具体的な事例を多くして、理解を深める。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 知的障害とは何か？改めて、考える！
	第2回	「合わせた指導」の教育課程上の位置づけと考え方
	第3回	生活単元学習の計画と指導の実際（1）
	第4回	生活単元学習の計画と指導の実際（2）
	第5回	遊びの指導の計画と指導の実際
	第6回	作業学習の計画と指導の実際
	第7回	日常生活の指導の計画と指導の実際
	第8回	進路指導・キャリア教育と卒業後の課題

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	毎時間、関連の資料を配付する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

肢体不自由教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 肢体不自由教育

科目責任者

担当教員 小久保 元

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30006101

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 教育現場との関わりを大切にし、具体的事例を基に授業を進める。
2. 肢体不自由児からの視点で教育活動を考える。
3. レポートやグループ討議を通して、指導者としての心構えや基礎力を培う。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第 1 回	特別支援学校の子ども	
		第 2 回	子どもと学力	
		第 3 回	個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成方法と活用の仕方	
		第 4 回～第 5 回	個別の指導計画の作成・活用・見通しの実際	
		第 6 回	肢体不自由児の教育課程と学習指導要領の関係	
		第 7 回	学習活動（教科）	
		第 8 回	学習活動（総合的な学習）	
		第 9 回	学習活動（自立活動・個の成長）	
		第10回	学習活動（自立活動・コミュニケーション）	
		第11回	コミュニケーション支援の具体的な方法	
		第12回～第13回	医療的ケア（課題・実践・教育）	
		第14回	訪問教育	
		第15回	環境づくりの意義と保護者・地域との連携	
	予習・復習の内容		予習	
		復習		
		展開		
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。		
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（ 20点）＋定期試験（ 80点）		
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	資料を毎回配布する。			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

病弱教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 病弱教育

科目責任者

担当教員 昆 俊雄

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30006201

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義を中心とするが、レポートやグループ討議等で考える機会を設けていく。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 病弱教育の歴史
		第2回 病気治療における教育の役割
		第3回 病気の子の理解・子どもの病気と心のケア
		第4回 病弱の特別支援学校における教育の実際
		喘息 慢性疾患、肥満、小児ガン、心身症、心臓疾患、重症心身障害、腎疾患、筋ジス等の筋疾患、等の教育
		第5回 院内学級、特別支援教室等の教育の実際
		第6回 病弱教育の教育課程
		第7回 医療機関と学校の関係及び医療と教育との連携
		第8回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	全国病弱教育養護学校長会 編著『病弱教育 Q&A』PART I ジアース教育新社 他	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

視覚・聴覚障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 視覚・聴覚障害教育総論

科目責任者

担当教員 伊藤 和男
渡邉 研

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30006301

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

見えない見えにくい児童の教育は、個々の視機能を考慮すると共に、触覚や聴覚などを活用して指導することが必要である。本授業では、この基本的立場を念頭に、現在行われている視覚障害教育の基本を学ぶと共に、特別支援教育下における盲学校のあり方と視覚障害児に適した教育の場についても考える。講義形式。
授業内容に即したプリントを用意し、これを逐次読みながら、解説を加えるとともに、関連する資料の提示により、一層の理解を図るようにする。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|-----|--|
| 第1回 | 第1回 | 【視覚障害教育の概要】
視覚機構と視覚障害
視機能の検査（教育的評価）
視覚障害児童生徒の実態と教育の場 |
| | 第2回 | 【教育課程と指導法】
教育課程・指導計画の作成
盲児に対する指導内容・方法と弱視児に対する配慮
視覚障害児のための教材・教具（教科書） |
| | 第3回 | 【自立活動の基本と指導】
視覚障害児の抱える困難と自立活動の意義 |

		特設時間における指導の進め方と指導内容
	第 4 回	【乳幼児期における支援】 盲学校幼児部の歩みと現状 幼児部における教育と視覚障害幼児の指導内容 幼稚園や保育所等に通う視覚障害幼児の援助
	第 1 回	【沿革と現状】 聾教育の創始とその後の発展 戦後の聾教育 聾学校の幼児児童生徒数の推移 聾学校の現状 難聴教育の発展と現状 筑波技術短期大学の設立
	第 2 回	【対象児童生徒】 聴覚障害の定義 聴覚障害の分類 聴覚検査法の概要 判別基準の推移と教育措置
	第 3 回	【指導内容・方法】 学習指導要領の変遷 新学習指導要領と具体的な指導内容 指導方法の変遷と現状 教材
	第 4 回	【今後の課題】 聾学校在学者数の減少傾向 言語指導法の確立 基礎学力の向上 時代に即応した職業教育 重複障害教育の充実 卒業後の生徒に対するアフターケア
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 香川邦生編著『視覚障害教育に携わる方のために』慶應義塾大学出版会その他必要に応じてプリント配布 プリント	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

学習障害・重複障害等教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 学習障害・重複障害等教育総論

科目責任者 漆澤 恭子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30006401

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とするが、幼稚園教諭免許状取得のための特別支援学校での実習経験や参観をふまえ、調査・発表・協議も取り入れ、できるだけ具体的な事例を多くして理解を深める。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 発達障害の理解
第2回 学習障害の基本的理解
第3回 学習障害の教育的支援
第4回 ADHDの基本的理解
第5回 ADHDの教育的支援
第6回 自閉症を中心とする広汎性発達障害の理解と支援
第7回 重複障害の理解と教育的支援の方法（特別支援学校での教育実践を中心に）
第8回 学習のまとめ

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	軽度発達障害の教育 上野一彦他編 日本文化科学社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

言語障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 言語障害教育総論

科目責任者

担当教員 堀 彰人

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30006501

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とするが、その中で事例の紹介や、指導に関する実技等も含めて理解を深めていく。

学生の達成目標

1. 構音障害、吃音、言語発達の遅れ等に関する基礎的事項を学ぶ。
2. 子どもの言語障害に関する指導について、事例を通して学ぶ。
【GRUPOS】
3. 学校における言語障害教育への指導に関する制度等について学ぶ。

授業内容

第1回 第1回 言語障害の概要、指導の場や指導方法等について学習する。
第2回 言語発達の基礎について学習する。
第3回 言語発達の遅れ、言語性学習障害、AAC 等に関するアセスメント、指導について学習する。
第4回 構音障害の基礎について学習する。
第5回 構音障害に関するアセスメント、指導について学習する。
第6回 吃音の基礎について学習する。
第7回 吃音に関するアセスメント、指導について学習する。
第8回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

統合保育研究 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 統合保育研究 I

科目責任者 浅川 繭子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 35008001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

事例や制作、体験活動を通して、一人ひとりの子どもに合わせた援助について考え、総合保育の理解を深める。

学生の達成目標

第1回 第1回 オリエンテーション 授業内容、目的、進め方、評価について第2回～第4回 総合保育における「遊び」とは第5回 季節を感じる・時間の流れを感じる（1）第6回～第7回 環境による保育とは第8回 自然の中で育つもの第9回～第13回 保育現場での自然とかかわる遊びの実態第14回 季節を感じる・時間の流れを感じる（2）第15回 まとめ これからの保育について

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価

評価の基準 知的障害教育方法史の変遷、教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。

評価の方法 試験 70%、授業での発言等 30%。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
資料配布

推薦図書等

参考URL

備考

統合保育研究 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 統合保育研究 II

科目責任者 田村 光子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 35008101

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・「まち」と「子ども」をテーマに子ども主体の生活づくりにおける地域との連携について考える。・障害のある子どもの地域での生活支援に参加し、必要な支援について考える。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 ガイダンス第2回～第8回 子どもの視点から暮らしを見る ～「子どもの道くさ」から第9回～第12回 地域子育て支援の活動に見学・参観する第13回～第15回 事例研究
いま求められる子育て支援とは

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価

評価の基準 知的障害教育方法史の変遷、教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。
評価の方法 試験 70%、授業での発言等 30%。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

「こどもの道草」東信堂

推薦図書等

参考URL

備考

統合保育研究 Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 統合保育研究 Ⅲ

科目責任者 黒田 静江

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 35008201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

「統合保育」における音楽教育の果たす役割を考え指導法を研究したり、指導例を発表・討議を行う。また統合保育が行われている幼稚園や保育園に見学参加実習に行き、統合保育に対する理解を深める。

学生の達成目標

第1回	第1回	オリエンテーション	保育現場での音楽活動第2回
		音楽教育の目的とは何か	第3回～第4回 教育実習
		(見学・参加実習)	第5回 教育実習の考察(統合保育に
			における音楽の果たす役割について)
			第6回 感覚統合を目標としたリズム運動
			第7回～第8回 保育実習(見学・参加実習)
			第9回 保育実習の考察(統合保育における音楽が果たす役割について)
			第10回～第11回 リトミック・オルフの音楽教育について調査・研究する
			第12回 リトミック・オルフの音楽教育について(発表・討議)
			第13回～第14回 音楽療法第15回
			まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	知的障害教育方法史の変遷、教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。
	評価の方法	試験 70%、授業での発言等 30%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	適宜資料を配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

特別支援教育実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 特別支援教育実習

科目責任者 松原 敬子

担当教員

高倉 誠一
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
黒田 静江
浅川 繭子
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30016601

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 特別支援学校での実習がよりよく行えるよう、実習の意義や必要性等の理解を深める。
2. 実習中は、巡回訪問を行い、指導・支援につとめる。

学生の達成目標

授業内容

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
評価の方法	レポート（ 30%）、発表（ 30%）、作品（ 30%）、授業への参加度（ 10%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
文部科学省「特別支援学校学習指導要領・同解説書」ケーアンドエイチ「支援案の書き方・個別の支援計画」

推薦図書等

参考URL

備考

特別支援教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 特別支援教育実習事前事後指導

科目責任者

担当教員 高倉 誠一

授業形態 実習

開講時期

登録コード・曜日・時限 30006801

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 特別支援学校での実習がよりよく行えるよう、実習の意義や必要性等の理解を深める。
2. 特別支援教育の教育課程の特色及び指導法の他、実習校の概要の理解を深める。
3. 支援（指導）案、記録簿の書き方や、子どもの様子の把握と支援等について、学ぶ。

学生の達成目標

授業内容

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		文部科学省「特別支援学校学習指導要領・同解説書」ケーアンドエイチ「支援案の書き方・個別の支援計画」
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 修了研究

科目責任者 松原 敬子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009101

教室

単位数 4

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・学生自身の興味関心と主体的取り組みを大切にし、その支援に努める。・個別の支援・指導を多くするが、全体で集まる機会も適宜設ける。

学生の達成目標

第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）。第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。第34回 各自の研究課題の発表・協議。第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究。第50回 中間発表。第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援。第58回～第59回 論文の加筆・修正。論文の提出第60回 修了研究発表会

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価	評価の基準	知的障害教育方法史の変遷、教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。
	評価の方法	試験 70%、授業での発言等 30%。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		逐次状況に応じてプリントを配布する。
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 修了研究

科目責任者 田村 光子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009102

教室

単位数 4

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・実際の生活の場に関わりをもって、自ら問題意識を深めることを重視する。・個別の支援・指導を基本に、中間発表等全体で集める機会を適宜設ける。

学生の達成目標

第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）。第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。第34回 各自の研究課題の発表・協議。第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究。第50回 中間発表。第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援。第58回～第59回 論文の加筆・修正。論文の提出。第60回 修了研究発表会。

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	知的障害教育方法史の変遷、教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。
	評価の方法	試験 70%、授業での発言等 30%。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		なし
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 修了研究

科目責任者

担当教員 高倉 誠一

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009103

教室

単位数 4

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 実際の生活の場に係わりをもって、自ら問題意識を深めることを重視する。2. 個別の指導を基本に、中間発表等全体で集まる機会を適宜設ける。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）。第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。第4回～第33回 テーマに基づき、参観やボランティア等を通じて資料収集に取り組む。第34回 各自の研究課題の発表・協議。第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究。第50回 中間発表。第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援。第58回～第59回 論文の加筆・修正。論文の提出第60回 修了研究発表会

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	知的障害教育方法史の変遷、教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。
	評価の方法	試験 70%、授業での発言等 30%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 修了研究

科目責任者

担当教員 佐藤 慎二

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009104

教室

単位数 4

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 実際の保育や教育場面に関わりをもって、自ら問題意識を高めることを重視する。2. テーマや進路先とも関連させながらの個別的な支援を丁寧に行うことを重視する。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーションー修了研究の進め方や年間の見通しについての確認。第2回～第4回 各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。第5回～第8回 修了研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。第9回～第30回 資料収集・文献研究第31回 各自の研究課題の発表と協議第32回～第49回 資料整理・論文執筆第50回 中間発表会第51回～第59回 論文の加筆・修正・提出第60回 修了研究発表会

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	知的障害教育方法史の変遷、教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。
	評価の方法	試験 70%、授業での発言等 30%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	学生のテーマに合わせて、参考文献・資料等を紹介する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 修了研究

科目責任者 浅川 繭子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009105

教室

単位数 4

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・実際の生活の場に関わりをもって、自ら問題意識を深めることを重視する。・個別の支援・指導を基本に、中間発表会等全体で集まる機会を適宜設ける。

学生の達成目標

第1回	第1回	オリエンテーション（修了研究の進め方）第2回
	～第3回	一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討第4回～第33回
	テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む第34回	各自の研究課題の発表・協議第35回
	～第49回	関係資料の収集・文献研究第50回
	中間発表第51回～第52回	論文の構成・体裁、執筆方法等について第53回～第57回
	論文の加筆過程での相談支援第58回～第59回	論文の加筆・修正 論文の提出第60回
		修了研究発表会

予習

予習・復習の内容

復習

展開

成績評価	評価の基準	知的障害教育方法史の変遷、教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。
	評価の方法	試験 70%、授業での発言等 30%。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		なし
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 修了研究

科目責任者 黒田 静江

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009106

教室

単位数 4

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

幼児の音楽や表現の指導法等に関する研究テーマを設定し、文献や保育現場での観察記録等を収集して分析・検討を行い、報告書をまとめる。保育の場に関わりをもつて、自らの問題意識を高めることを重視する。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）。第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。第34回 各自の研究課題の発表・協議。第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究。第50回 中間発表。第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援。第58回～第59回 論文の加筆・修正。論文の提出第60回 修了研究発表会

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（60%）	研究過程（20%）	授業への参加態度（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	各自のテーマに合わせて、参考書籍を紹介する。			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 修了研究

科目責任者

担当教員 中坪 晃一

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009107

教室

単位数 4

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・学生の主体的取り組みを大切にし、その支援に努める。・個別の支援・指導を多くするが、全体で集まる機会を適宜設ける。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）。第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。第34回 各自の研究課題の発表・協議。第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究。第50回 中間発表。第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援。第58回～第59回 論文の加筆・修正。論文の提出。第60回 修了研究発表会。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	研究レポート（ 60%） 研究過程（ 20%） 授業への参加態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 修了研究

科目責任者 相磯 友子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009108

教室

単位数 4

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・興味関心と関連する文献調査から、学生自身で研究テーマを設定する。・研究を通して、調査法と論文の作成法を習得する。

学生の達成目標

第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）。第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。第34回 各自の研究課題の発表・協議。第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究。第50回 中間発表。第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援。第58回～第59回 論文の加筆・修正。論文の提出。第60回 修了研究発表会。

予習

予習・復習の内容

復習

展開

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（60%）	研究過程（20%）	授業への参加態度（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	各自の研究テーマに合わせて参考文献を紹介する。			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 修了研究

科目責任者 漆澤 恭子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009109

教室

単位数 4

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・学生の主体的取り組みを大切にし、その支援に努める。・個別の支援・指導を中心に行うが、全体での検討会も適宜設けお互いの研究視野を広げる。

学生の達成目標

第1回 第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）。第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。第34回 各自の研究課題の発表・協議。第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究。第50回 中間発表。第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援。第58回～第59回 論文の加筆・修正。論文の提出第60回 修了研究発表会

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（60%）	研究過程（20%）	授業への参加態度（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	必要とする参考文献等は紹介する。			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 修了研究

科目責任者 根本 曜子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009110

教室

単位数 4

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・学生の主体的取り組みを大切にし、その支援に努める。・個別の支援・指導を多くするが、全体で集まる機会を適宜設ける。

学生の達成目標

第1回	第 1 回	オリエンテーション（修了研究の進め方）。
	第 2 回～第 3 回	一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。
	第 4 回～第 33 回	テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。
	第 34 回	各自の研究課題の発表・協議。
	第 35 回～第 49 回	関係資料の収集・文献研究。
	第 50 回	中間発表。
	第 51 回～第 52 回	論文の構成・体裁、執筆方法等について。
	第 53 回～第 57 回	論文の加筆過程での相談支援。
	第 58 回～第 59 回	論文の加筆・修正。論文の提出
	第 60 回	修了研究発表会

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	研究レポート（ 60%） 研究過程（ 20%） 授業への参加態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 修了研究

科目責任者 山本 邦晴

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 35009111

教室

単位数 4

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 実際の保育や教育場面に関わりをもって、自ら問題意識を高めることを重視する。2. テーマや進路先とも関連させながらの個別的な支援を丁寧に行うことを重視する。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーションー修了研究の進め方や年間の見通しについての確認。第2回～第4回 各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。第5回～第8回 修了研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。第9回～第30回 資料収集・文献研究第31回 各自の研究課題の発表と協議第32回～第49回 資料整理・論文執筆第50回 中間発表会第51回～第59回 論文の加筆・修正・提出第60回 修了研究発表会

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（ 60%）	研究過程（ 20%）	授業への参加態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	学生のテーマに合わせて、参考文献・資料等を紹介する。			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

キャリアガイダンス

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 キャリアガイダンス

科目責任者

担当教員 川村 博子
古川 繁子
井口 ひとみ
中西 正人
清宮 宏臣
今井 訓子

授業形態 演習

開講時期

登録コード・曜日・時限 12001106

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義やグループワーク、講演などを通し、キャリアについて考える。また、将来の自分の状況をイメージしながら、学習がすすむように展開する。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション、自己理解を深める、職業選 択について
	第2回	進路について考える（職業に就くということ）
	第3回	進路について考える（キャリアについて・職場定 着について）
	第4回～第5回	グループワーク
	第6回	アサーティブ講座
	第7回	卒業生のお話を聞く会
	第8回	講演会
	第9回	作文添削講座

	第10回	マナー講座
	第11回	職場定着のための労働・社会保障関係法の知識
	第12回	ストレスマネジメント講座
	第13回～第14回	グループ面談（進路希望）
	第15回	現場の話を聞く会
	予習	
予習・復習の内容	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	キャリアデザイン・ボランティアノート、進路ガイドブック	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護保険制度とその他の諸制度

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護保険制度とその他の諸制度

科目責任者 川村 博子

担当教員 古川 繁子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20000305

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義が主であるが、自ら学びまとめるレポートを課し、社会保障や介護保険制度とその他の諸制度について、自らの考えを持てるように進める。

学生の達成目標

授業内容

第1回

第1回 我が国の社会保障の基本的考え方。社会構造の変容、生活支援と福祉等個人が自立した生活を営む為に必要な生活と福祉に関する基本概念について（家庭・家族・地域社会組織）

第2回 介護保険制度創設の背景と目的・介護保険制度の動向

第3回 介護保険制度の仕組み ①（保険者・被保険者・保険料と利用者負担・受給権者）

第4回 介護保険制度の仕組み ②（介護保険サービス利用までの流れ・サービスの種類と内容）

第5回 介護保険制度の仕組み ③（介護予防・介護サービス情報の公表・第三者評価等）

第6回 介護保険制度における組織・団体の役割。専門職の役割

第7回 障害者自立支援制度創設の背景と目的、動向

第8回 障害者自立支援制度の仕組み ①（自立支援給付・利用者負担・障害者自立支援制度における事業者・施設・専門職と役割）

第9回 障害者自立支援制度の仕組み ②（障害者福祉サービス利

用の流れ・種類と内容、組織・団体・の役割)

第10回 介護実践に関連する諸制度 ①（個人情報に関する制度。成年後見制度・社会福祉法における権利擁護の仕組み。消費者保護法）

第11回 介護実践に関連する諸制度 ②（高齢者虐待防止法。高齢者保険医療制度）

第12回 介護実践に関連する諸制度 ③（生活習慣病予防その他の健康づくりのための施策。感染症・難病対策と予防）

第13回 介護実践に関連する諸制度 ④（医療関係者に関する法規・医療関係施設に関する法規）

第14回 介護実践に関連する諸制度 ⑤（生活保護制度・老人福祉法・海外の社会保障制度など）

第15回 介護実践専門家として諸制度の理解の重要性とまとめ

予習

予習・復習の内容

復習

展開

成績評価

評価の基準

DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。

自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。

テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）

評価の方法

テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

「新・介護福祉士養成講座 2 社会と制度の理解」中央法規出版

推薦図書等

参考URL

備考

介護福祉特論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護福祉特論

科目責任者 田村 光子

担当教員
中西 正人
布施 千草
古川 繁子
川村 博子
井口 ひとみ
今井 訓子
清宮 宏臣
岩本 義浩

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 31002605

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 国家試験の合格に相応する内容に準じた卒業時共通試験に合格できる実力を養う。2. 初回に模擬試験を行い、その解答と解説を各授業回で学びながら主体的な学習につなげていく。3. 本試験の直前に再度模擬試験を行い、学習によって養われた自己の実力を確かめる。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 模擬試験 ①第2回 人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション第3回 社会の理解第4回 発達と老化の理解第5回 認知症の理解第6回 障害の理解第7回 コミュニケーション技術第8回 介護の基本 その1第9回 介護の基本 その2第10回 生活支援技術 その1第11回 生活支援技術 その2第

予習・復習の内容	予習		
	復習		
	展開		
成績評価	評価の基準	保育現場を想定し、子ども歌の弾き歌いができる。 期末試験・中間試験・授業への参加態度	
	評価の方法	期末試験（40%）	中間試験（30%） 授業への参加態度（30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 いとう総研資格取得支援センター編『目で見えて覚える！介護福祉士国試ナビ』中央法規出版		
推薦図書等			
参考URL			
備考			

介護の基本 I（介護福祉論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護の基本 I（介護福祉論）

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20010505

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護の歴史を踏まえての現状把握、新しい法改正下の介護福祉士の役割と義務が理解できるようにする。諸外国の状況から自国の課題を見出せるようになる。

学生の達成目標

授業内容

第1回

- 第1回 ガイダンス 介護の歴史：小説、体験記から学ぶ家族介護の変化
第2回 現代社会と介護－介護問題の背景
①－日本の高齢化の特徴、家族形態、家族機能
第3回 現代社会と介護－介護問題の背景
②－老老介護、孤独死、高齢者虐待、認知介護
第4回 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ
①尊厳を与える介護（ノーマライゼーション、QOL利用者主体、自立支援、個別ケア、ICF）
第5回 社会福祉士及び介護福祉士法
①定義、介護従事者倫理、養成制度
第6回 社会福祉士及び介護福祉士法
②専門職団体の活動
第7回 介護実践における連携
①他職種連携－チームの種類と機能、連携の意義
第8回 介護実践における連携
②他職種連携－他の福祉職との連携

- 第 9 回 介護実践における連携
③他職種連携－保健医療職との連携、医療行為
第 10 回 介護実践における連携
④地域連携－地域連携の意義と目的
第 11 回 介護実践における連携
⑤地域連携－インフォーマルな社会資源の重要性
第 12 回 介護実践における連携
⑥地域連携－地域包括支援センターの機能と役割、行政
第 13 回 海外における介護福祉の動向
第 14 回 今後の介護福祉の課題
第 15 回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「最新介護福祉全書 第 3 巻」メヂカルフレンド社随時資料配布	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本 II（介護対象論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護の基本 II（介護対象論）

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20010605

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護を必要とする人の理解を生活面、健康面、ライフサイクル面から解説し、それらの人とどう向き合うか考えていく。

学生の達成目標

授業内容

第1回

第1回 ガイダンス VTR 尊敬を支える介護の基本
第2回 介護を必要とする人の理解 I－①人間の多様性・複雑性の理解（生活史）
第3回 介護を必要とする人の理解 I－②人間の多様性・複雑性の理解（生活習慣・生活様式）
第4回 介護を必要とする人の理解 I－③高齢者の暮らしの理解（世帯構成、役割、社会活動）
第5回 介護を必要とする人の理解 I－④高齢者の暮らしの理解（住まいと環境、収入、雇用）
第6回 介護を必要とする人の理解 I－⑤障害のある人の暮らしの理解（生活ニーズ）
第7回 介護を必要とする人の理解 I－⑥障害のある人の暮らしの理解（生活を支える基盤）
第8回 介護を必要とする人の理解 I－⑦生活環境としての地域の存在
第9回 介護を必要とする人の理解 II－VTR「声を取り戻した2年間」：尊厳を支える介護の基本 II

- 第 10回 介護を必要とする人の理解 II－①高齢者の身体的・心理的特徴
第 11回 介護を必要とする人の理解 II－②障害者の身体的・心理的特徴
第 12回 介護を必要とする人の理解 II－③終末期にある人の理解 I
第 13回 介護を必要とする人の理解 II－④終末期にある人の理解 II
第 14回 介護を必要とする人の理解 II－⑤終末期にある人の理解 III
第 15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	「最新介護福祉全書 第3巻」メヂカルフレンド社 随時資料配布

推薦図書等

参考URL

備考

介護の基本 Ⅲ（リスクマネジメント）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護の基本 Ⅲ（リスクマネジメント）

科目責任者 今井 訓子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20010705

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

具体的な事例をもとにグループワークを取り入れ、リスクマネジメント、セーフティマネジメントを考える。介護従事者が陥りやすい健康障害とその予防対策について知識を深める。

学生の達成目標

授業内容

第1回

- 第1回 ガイダンス、リスクマネジメントの考え方
- 第2回 セーフティマネジメント（介護の質の向上と安全確保）
- 第3回 リスクコントロール・リスクファイナンス
- 第4回 介護における安全確保とリスクマネジメント ①ヒヤリハット事例の分析
- 第5回 介護における安全確保とリスクマネジメント ②施設内の事故の特徴と対策
- 第6回 介護における安全確保とリスクマネジメント ③在宅での事故の特徴と対策
- 第7回 介護における安全確保とリスクマネジメント ④医療対応時（受療、服薬、医療行為）
- 第8回 介護における安全確保とリスクマネジメント ⑤感染予防
- 第9回 介護における安全確保とリスクマネジメント ⑥緊急時の対応
- 第10回 介護における安全確保とリスクマネジメント ⑦防災時のネットワーク

第 11回 認知症高齢者の事故対策
第 12回 介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ①心の健康管理（スーパービジョンの存在）
第 13回 介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ②腰痛等身体の健康管理（福祉用具の活用）
第 14回 介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理） ③感染予防の対策と労働安全（関係法規）
第 15回 まとめ（セーフティマネジメントとの関連）

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「最新介護福祉全書 第3巻」介護の基本 メヂカルフレンド社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）

科目責任者 今井 訓子

担当教員 宮崎 陽夫
山崎 敦

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20010805

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 リハビリテーション医学から考える介護論

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 リハビリテーション医学と介護（オリエンテーション、リハビリテーション概論） 第2回 リハビリテーション医学と介護（リハビリテーション概論） 第3回 障害の医学的基礎知識（神経・生理学） 第4回 障害の医学的基礎知識（骨・筋肉解剖） 第5回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション（進行性疾患） 第6回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション（脳血管疾病） 第7回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション（骨折） 第8回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション（運動麻痺） 第9回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション
------	-----	--

(言語・排尿・嚥下障害)

第 10回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション(脊髄損傷・切断)

第 11回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション(廃用症候群)

第 12回 認知症のリハビリテーション

第 13回 シーティングについて

第 14回 終末期のリハビリテーション

第 15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『最新介護福祉全書別巻2 リハビリテーション論』
-----	---

推薦図書等

参考URL

備考

介護の基本 V（レクリエーション）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護の基本 V（レクリエーション）

科目責任者

担当教員 八鍬 拓

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20010905

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

福祉的視点に立ったレクリエーションの基礎理論と集団コミュニケーションの指導体験

学生の達成目標

授業内容

第1回

第1回 ガイダンス（「尊厳の保持」「自立支援」のためのレクリエーション）

第2回 講義：介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解 ①

第3回 講義：介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解 ②

第4回 講義：レクリエーションの活動領域と意義 ①

第5回 講義：レクリエーションの活動領域と意義 ②

第6回 講義：レクリエーション活動の主体

第7回 講義：レクリエーション計画作成及び実施

第8回 講義：レクリエーション指導者の配慮

第9回 講義：レクリエーション活動の実践

第10回 講義：高齢者・障害者レクリエーションの実際

第11回 講義：レクリエーションワークの指導法

第12回 集団レク援助実習1

- 第 13回 集団レク援助実習 2
第 14回 集団レク援助実習 3
第 15回 まとめと評価

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
	教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「新版・介護福祉士養成講座 ⑥ レクリエーション活動援助法」中央法規
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本 VI（介護サービス事務）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護の基本 VI（介護サービス事務）

科目責任者

担当教員 福岡 浩

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20011005

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護保険制度の仕組みを理解したい上で、介護報酬の算定の実務知識を理解する。

学生の達成目標

授業内容

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 第 1 回 テキスト第一章 共通事項
1. サービス全般にわたる共通事項 |
| 第2回 | 第 2 回 テキスト第一章 共通事項
2. 通則 |
| 第3回 | 第 3 回 テキスト第二章 居宅サービス
1. 訪問介護
2. 訪問入浴介護 |
| 第4回 | 第 4 回 テキスト第二章 居宅サービス
3. 訪問看護
4. 訪問リハビリテーション |
| 第5回 | 第 5 回 テキスト第二章 居宅サービス
5. 居宅療養管理指導
6. 通所介護 |
| 第6回 | 第 6 回 テキスト第二章 居宅サービス
7. 通所リハビリテーション
8. 福祉用具貸与 |

第7回 テキスト第二章 居宅サービス
9. 短期入所生活介護
10. 短期入所療養介護
第8回 テキスト第二章 居宅サービス
11. 特定施設入居者介護
12. 居宅介護支援
第9回 テキスト第三章 地域密着型サービス
第10回 テキスト第四章 施設サービス
第11回 テキスト第五章 公費請求方法
第12回 練習問題 様式第二、様式第八の事例問題の解答、解説
第13回 練習問題 様式第二、様式第八の事例問題の解答、解説
第14回 模擬試験（90分）
第15回 練習問題 様式第二、様式第八の事例問題の解答、解説
及び振り返り

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『介護保険事務士養成テキスト（実務編）』『介護給付費単位数等サービスコード表』	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

コミュニケーション技術 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 コミュニケーション技術 I

科目責任者 古川 繁子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20001105

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義形式ではあるが、全体的に事例と演習を豊富に交えながら、介護の場面に即応したコミュニケーション技術が習得できる。

学生の達成目標

授業内容

第1回

- 第1回 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割を知る
第2回 利用者・家族との関係づくり（波長合わせ・ラポールの取り方）
第3回 利用者・家族とのコミュニケーションの実際（話を聞く技法 ①）
第4回 利用者・家族とのコミュニケーションの実際（非言語的コミュニケーション）
第5回 利用者・家族とのコミュニケーションの実際（納得と同意を得る方法。相談・助言・指導。意欲を引き出す技法。利用者本人と家族の意向の調整。その他）
第6回 利用者の状況に応じたコミュニケーションの実際（感覚機能が低下している人とのコミュニケーション。運動機能の低下している人とのコミュニケーション。認知・知覚機能の低下している人とのコミュニケーション。その他）
第7回 記録による情報の共有化（介護における記録の意義・目的・介護に関する記録の種類。記録の技法 ①）

第8回 記録による情報の共有化（記録の方法・留意点。記録の管理。介護記録の共有化）
第9回 情報通信機器を活用した記録の意義と実際。活用の留意点。個人情報の保護。活用
第10回 報告の意義・目的（報告・連絡・相談の方法。留意点）
第11回 会議の意義と目的（会議の種類・方法・留意点。その他）
第12回 話を聞く技法 ②（傾聴とカウンセリングマインド・個別的な価値に気付く）
第13回 話を聞く技法 ③（家族とのコミュニケーションの実際）
第14回 記録の技法 ②（マッピング：ジェノグラム・ソシオグラム）
第15回 記録の技法 ③（評価：アセスメント・エバリュエーション・モニタリング）

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 なし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

コミュニケーション技術 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 コミュニケーション技術 II

科目責任者 古川 繁子

担当教員 渡邊 研
高橋 恵子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20001205

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

授業の方法については、基礎的な手話の習得を図るための手話実技の演習を行うとともに、必要に応じて、聴覚障害を理解するための講義を行う。
基本的な点字を誰でも難しく考えることなく学ぶ。その他、手引き介助については、実践的に学んでいく。

学生の達成目標

授業内容

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | 第1回 聴覚障害の定義及び障害の種類と分類・手話実技演習 |
| | 第2回 聴力測定の方法及び補聴器の種類と機能・手話実技演習 |
| | 第3回 コミュニケーションの基礎的な考え方と聴覚障害児のコミュニケーション・手話実技演習 |
| | 第4回 聴覚障害教育のコミュニケーション手段・手話実技演習 |
| | 第5回 聴覚障害教育におけるコミュニケーション指導法・手話実技演習 |
| | 第6回 聴覚障害教育における言語指導の重要性及び困難性・手話実技演習 |
| | 第7回 聴覚障害児の各発達段階における言語指導の方法・手話実技演習 |
| | 第8回 手話の造語法と統語法及び指文字の効果的習得の方法・手 |

話実技演習

- 第1回 視覚障害とは。発生原因・視覚判定の方法
- 第2回 視覚障害者補助器具の種類と機能
- 第3回 視覚障害とコミュニケーション。情報伝達方法
- 第4回 視覚障害の歴史と視覚障害教育の歴史制度
- 第5回 視覚障害者の暮らし
- 第6回 点字技術演習（1）
- 第7回 点字技術演習（2）
- 第8回 総括・討論

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	プリント	『初めての点訳 第2版』全国視覚障害者情報提供施設協会編
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活支援技術 I（参加・環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 生活支援技術 I（参加・環境）

科目責任者

担当教員 井口 ひとみ
中西 正人

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20011105

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

さまざまな生活空間の場で生活する高齢者・障害者について理解をしたうえで、事例を通して、環境整備の工夫・留意点などを考える。

学生の達成目標

授業内容

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 第1回 生活とは（生活の定義、生活形成のプロセス、生活経営その他） |
| | 第2回 生活支援するとは（対象者、生活支援の内容その他） |
| | 第3回 ICFの視点を生活支援に生かすには |
| | 第4回 居住環境整備の意義・目的 |
| | 第5回 ベッドメイキングを通じた寝室の環境整備 |
| | 第6回 ベッドメイキング（演習） |
| | 第7回 ベッドメイキング（演習） |
| | 第8回 生活空間と介護について（居場所とアイデンティティ、生活の場、すまい、住み慣れた地域での生活の保障、その他） |
| | 第9回 さまざまな居住空間での心地よい生活の場作り 1（施設や在宅など） |
| | 第10回 さまざまな居住空間での心地よい生活の場作り 2（施設や在宅など） |

第 11回 さまざまな居住空間での心地よい生活の場作り 3（施設や在宅など）
第 12回 生活不活発病と褥瘡について
第 13回 事例を通した居住環境の整備についてグループワークする
第 14回 事例を通した居住環境の整備についてグループワークする
第 15回 まとめ

	予習	
予習・復習の内容	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I 基本編」メヂカルフレンド社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活支援技術 II（移動）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 生活支援技術 II（移動）

科目責任者

担当教員 中西 正人
井口 ひとみ

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20011306

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

移動に関する課題を学生が主体的に調べ発表と批評をしながら理解を進められる機会を設ける。移動に関するプラス面と安全の大切さについてグループワークを通じて学ぶ機会を設ける。

学生の達成目標

授業内容

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | 第1回 自立に向けた住環境 |
| | 第2回 移動の介護の基本 |
| | 第3回 移動に関するアセスメントと目標設定 ①本人の観点 |
| | 第4回 移動に関するアセスメントと目標設定 ②「心身機能」
「身体構造」からの観点 |
| | 第5回 移動に関するアセスメントと目標設定 ③「活動」「参
加」からの観点 |
| | 第6回 安全で気兼ねなく動けることを支える介護 |
| | 第7回 安全で的確な移動介助の方法 ①基本的留意点・立ち上がり
動作とボディメカニクス |
| | 第8回 安全で的確な移動介助の方法 ②コミュニケーション観察
と環境整備 |
| | 第9回 安全で的確な移動介助の方法 ③観察と環境整備、アセス |

メントに基づく介助

第 10回 安全で的確な移動介助の方法 ④体位交換 I・II、歩行介助

第 11回 安全で的確な移動介助の方法 ⑤車いす介助

第 12回 他の職種の役割と協働

第 13回 移動介護演習 ①

第 14回 移動介護演習 ②

第 15回 1 移動における介護演習を振り返って・まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I」メヂカルフレンド社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活支援技術 Ⅲ（食事）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 生活支援技術 Ⅲ（食事）

科目責任者

担当教員 中西 正人
井口 ひとみ

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20011405

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

食事に関する介護技術を事例で説明し、演習で介助者・利用者の体験をすることから、食事の意義を考えられるように図る。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 義と目的 第2回～第3回 第4回～第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回～第13回 第14回	ガイダンス、自立に向けた食事の介助：食事の意 食事にに関する利用者のアセスメント 「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫 安全で的確な食事介助 感覚機能が低下している人の介助（事例検討） 運動機能が低下している人の介助（事例検討） 認知・知覚機能が低下している人の介助（事例検討） 誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点 脱水予防 食事介助（演習） 他職種との役割と協働（経管栄養を行っている人
------	-----	--	---

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	メヂカルフレンド社「最新介護福祉全書 第 5 巻・第 6 巻」	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活支援技術 IV（清潔・入浴）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 生活支援技術 IV（清潔・入浴）

科目責任者

担当教員 中西 正人
井口 ひとみ

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20011505

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

清潔に関して、特に入浴について講義および演習を行う。演習では一般的な家庭浴槽や寝台浴槽などに実際に入る。そのほか、寝たまま行う全身清拭や洗髪について演習を行う。

学生の達成目標

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）、清潔について（意義と目的）
	第2回	入浴、清潔に関して；支援を要する利用者の様子
	第3回	入浴、清潔にむけた利用者のアセスメントの視点
	第4回	爽快感・安楽を支える介護（入浴を楽しむ環境作りや安全で安楽な入浴）
	第5回	入浴に関して（効果とリスク）
	第6回	入浴に関して（浴槽の種類）
	第7回～第8回	感覚機能・運動機能・認知機能・知覚機能が低下している人の介助の留意点（事例検討）
	第9回～第10回	入浴・シャワー浴の介護（演習）
	第11回～第13回	洗髪、全身清拭、足浴（演習）

第 14回
第 15回

他職種との役割と協働
まとめ

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価

評価の基準 DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、
自分の考えを相手に伝えることができる。
自分の考えを明確に示した小論文にまとめること
ができる。
テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の
意見文（ 10%）

評価の方法 テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価す
る。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
「生活支援技術 I 基本編」メヂカルフレンド社

推薦図書等

参考URL

備考

生活支援技術 V（身じたく）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 生活支援技術 V（身じたく）

科目責任者

担当教員 中西 正人
井口 ひとみ

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20011605

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 身じたく・整容に関する介護技術の内容である。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	ガイダンス、自立に向けた身支度の介護：身じたくの意義と目的
		第2回～第3回	身じたくに関する利用者のアセスメント
		第4回	生活習慣と装いの楽しみを支える介護
		第5回	整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメント
		第6回	整容行動、衣生活の介助の技法（洗面、整髪、ひげの手入れ、爪、化粧等）
		第7回	整容行動、衣生活の介助の技法（口腔の清潔、衣服着脱）
		第8回	口腔の清潔（演習）
		第9回	衣服着脱（演習）パジャマ
		第10回	足浴と爪切り（演習）
		第11回	感覚機能が低下している人の介助（事例検討）
		第12回	運動機能が低下している人の介助（事例検討）
		第13回	認知機能が低下している人の介助（事例検討）

第 14回
第 15回

他職種の役割と協働
まとめ

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価

評価の基準 DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、
自分の考えを相手に伝えることができる。
自分の考えを明確に示した小論文にまとめること
ができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の
意見文（ 10%）

評価の方法 テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価す
る。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
「最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I」メヂカルフレンド社

推薦図書等

参考URL

備考

生活支援技術 VI（排泄）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 生活支援技術 VI（排泄）

科目責任者

担当教員 井口 ひとみ
中西 正人

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20011705

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

学生自身の体験を取り入れながら排泄について考える。また、利用者がその人らしい生活を過ごすことができるような排泄の介護が考えられるようにする。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回～第2回 ガイダンス、排泄の意義、目的、排泄の解剖・生理的機序
第3回 おむつ着用による排泄と生活体験（課題）のグループワークと発表、正常な排泄とできる条件について（課題）（講義、演習）
第4回～第6回 気持ちよい排泄をささえる介護、（課題）男性の下着と排泄について、を含む、排泄障害を支える介護（講義、演習）
第7回 安全的確な排泄の介助の技法（トイレ・ポータブルトイレ、採尿器・差し込み便器、おむつ）（講義）
第8回 排泄ケア用品の理解と排泄に関する公的制度の活用（講義）
第9回～第10回 数種類のおむつの吸水実験と排泄の介護の技法（演習）

第 11回～第 12回 その人らしい生活のためのよりよい排泄のケアになっているか。（成功事例を使用して）（講義、演習）
第 13回～第 14回 他職種の役割と協働（坐薬、浣腸、留置カテーテル含む）（講義、演習）
第 15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I 基本編」メヂカルフレンド社
-----	---

推薦図書等

参考URL

備考

生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）

科目責任者

担当教員 中西 正人
井口 ひとみ

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20011805

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

睡眠に関する安楽な技法を理解するために自己の体験発表やグループワークを取り入れる。緊急時の対応を理解すると共に、在宅ターミナルケアや介護施設での見取りについて考えられるようになる。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|------|-------------------------------------|
| 第1回 | 第1回 | ガイダンス、自立に向けた睡眠の介護：睡眠の意義、目的 |
| | 第2回 | 睡眠に関するアセスメント |
| | 第3回 | 安眠のための介護、安眠を促す介護の技法、安眠に関する環境 |
| | 第4回 | 利用者の状況による介助の留意点 |
| | 第5回 | 安眠のための介護、安眠を促す介護の技法 電法、マッサージ（演習） |
| | 第6回 | 緊急時のアセスメント |
| | 第7回 | 緊急事故時の状況観察と応急手当（演習） |
| | 第8回 | 終末期における介護の意義と目的（事前意思確認） |
| | 第9回 | 利用者のアセスメントと医療との連携（ICFに基づく看取りのための制度） |
| | 第10回 | 終末期における介護、緩和ケア |

- 第 11回 臨終時の対応、在宅ターミナルケア、死後の処置
- 第 12回 死後の処置（演習）
- 第 13回 グリーフケア
- 第 14回 事例検討
- 第 15回 事例を通してのまとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	メヂカルフレンド社「最新介護福祉全書 第 5 巻・第 6 巻」

推薦図書等

参考URL

備考

生活支援技術Ⅷ（障害別）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 生活支援技術Ⅷ（障害別）

科目責任者

担当教員 井口 ひとみ
中西 正人

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20011905

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 運動機能障害、感覚機能障害、内部障害等の障害の内容と生活支援。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 ガイダンス 第2回 片麻痺のある人の生活支援（例：脳血管障害の人） 第3回 運動および知覚機能に障害がある人の生活支援（例：脊髄損傷の人） 第4回 関節痛や関節可動域制限のある人の生活支援（例：慢性関節リウマチの人） 第5回 振戦や姿勢反射障害のある人の生活支援（例：パーキンソン病の人） 第6回 失語症や構音障害のある人の生活支援 第7回 視覚機能障害のある人の生活支援、聴覚機能障害のある人の生活支援 第8回 難病で在宅療養している人の生活支援（例：ALSまたは筋ジストロフィーの人） 第9回 重度心身障害のある人の生活支援 第10回 心臓機能障害のある人の生活支援
------	-----	--

- 第 11回 呼吸機能障害のある人の生活支援
- 第 12回 腎臓機能障害のある人の生活支援
- 第 13回 排泄機能障害のある人の生活支援
- 第 14回 事例検討
- 第 15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	「最新介護福祉全書 6 生活支援技術 II 障害編」メヂカルフレンド社

推薦図書等

参考URL

備考

家事生活支援技術 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 家事生活支援技術 I

科目責任者

担当教員 廣橋 比刀美

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20002005

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 家事の意義や目的、洗濯、掃除、裁縫、家庭経営等に関する知識と介助を学ぶ。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第 1 回 スメント 第 2 回 験の準備 第 3 回 吸水性) 第 4 回 の準備 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回～第13回 練習など) 第14回	授業オリエンテーション、注意事項、自己紹介 家事の意義と目的・家事に関する利用者のアセ 被服・繊維について …繊維の講義、繊維の実 被服・繊維について …繊維の実験（燃焼性・ 被服・繊維について …繊維の実験・しみ抜き しみ抜きの実習 洗濯の実習（セーターの洗濯） しみ抜き・洗濯のまとめ 被服実習 …基本の縫い方・繕いについて 被服実習 …おむつ・袋を縫う（ボタン付けの 感覚・運動機能、認知・知覚機能が低下して
------	-----	--	---

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「最新家庭科トータルデータ」教育図書	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

家事生活支援技術 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 家事生活支援技術 II

科目責任者

担当教員 三幣 周子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20002105

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 日常生活の支援方法が確実に自己の学習内容として実践できる。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回 食生活の意義（健康と栄養、状態別の栄養（年齢と栄養） 第2回 高齢者の心身の特性を知った上での形態別の配慮と対応のあり方（生活習慣病の予防も含む） 第3回 献立と調理（摂食者の状況にあった献立作成と調理法） 第4回～第5回 調理実習（1）…日常食から介護職への展開 第6回～第7回 調理実習（2）…高齢者の食事（身体活動の保持と疾病の予防をふまえて） 第8回～第9回 調理実習（3）…障害者の食事（障害の程度に応じた食事） 第10回～第11回 調理実習（4）…生活習慣病の食事（予防と維持回復をふまえて） 第12回～第13回 調理実習（5）…郷土食 第14回 調理実習（6）…支援したい食事をグループで作る。
------	-----	---

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『生活支援技術 IV』建帛社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護過程 I（総論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護過程 I（総論）

科目責任者

担当教員 古川 繁子
根本 曜子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20012205

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護過程の意義や目的、介護過程の各段階の内容を演習を用いて学ぶ。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	介護過程とは何か、介護過程の意義や目的
		第2回	介護過程の展開とは
		第3回	情報収集
		第4回	情報のアセスメント（ICFの視点を踏まえて） （生活支援の課題、目標のとらえ方）
		第5回	介護計画立案
		第6回	介護計画の実践と評価
		第7回～第9回	事例に基づく介護過程の展開（グループワーク） （情報整理とアセスメント）
		第10回～第12回	事例に基づく介護過程の展開（グループワーク） （介護目標設定、計画立案）
		第13回～第14回	事例に基づく介護過程の展開（グループワーク）
		第15回	まとめ

	予習	
予習・復習の内容	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	「新・介護福祉士養成講座9 介護過程」中央法規	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護過程Ⅱ（演習）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護過程Ⅱ（演習）

科目責任者

担当教員 古川 繁子
川村 博子
清宮 宏臣
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20012305

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 身体障害および精神障害、施設および在宅介護等の事例の介護を展開する。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	ガイダンス、グループ分け等
		第2回	事例Aの説明
		第3回～第4回	情報整理分析
		第5回	介護目標設定、計画立案
		第6回～第7回	計画立案
		第8回	事例Aの発表とまとめ
		第9回	事例Bの説明
		第10回～第11回	情報整理分析
		第12回	介護目標設定、計画立案
		第13回～第14回	計画立案
		第15回	まとめ
		第16回	ガイダンス、グループ分け
		第17回	事例Cの説明

第 18回～第 19回 情報整理分析
第 20回 介護目標設定、計画立案
第 21回～第 22回 計画立案
第 23回 事例 C の発表とまとめ
第 24回 事例 D の説明
第 25回～第 26回 情報整理分析
第 27回 介護目標設定、計画立案
第 28回～第 29回 計画立案
第 30回 事例 D の発表とまとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVD やさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	なし

推薦図書等

参考URL

備考

介護過程 Ⅲ（チームアプローチ）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護過程 Ⅲ（チームアプローチ）

科目責任者

担当教員 古川 繁子
川村 博子
清宮 宏臣
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20012405

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 事例展開を通して、チームアプローチの方法や必要性を考える。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	ガイダンス、グループ分け
		第2回	介護に関連する各職種と連携について
		第3回	施設内でのチームアプローチを考えて展開する事例A（ケースカンファレンス）
		第4回～第8回	事例Aの介護展開のグループワーク
		第9回	地域でのチームアプローチを考えて展開する事例B（サービス担当者会議）
		第10回～第14回	事例Bの介護展開のグループワーク
		第15回	まとめ

予習・復習の内容 予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。

自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。

テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）

評価の方法

テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

「介護過程」中央法規出版

推薦図書等

参考URL

備考

介護過程Ⅳ（事例研究）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護過程Ⅳ（事例研究）

科目責任者

担当教員 古川 繁子
川村 博子
布施 千草
井口 ひとみ
今井 訓子
中西 正人
清宮 宏臣
岩本 義浩

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20012505

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 Ⅲ・Ⅳ段階の実習で展開した事例のまとめとクラス全体での発表。

学生の達成目標

授業内容 第1回 ガイダンス
第2回～第5回 実習で受け取った利用者の事例のまとめ
第6回～第12回 実習で受け取った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備（実習担当教員のグループで行う）
第13回～第14回 全体発表
第15回 まとめ

予習・復習の内容 予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。

自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。

テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）

評価の方法

テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

なし

推薦図書等

参考URL

備考

介護総合演習 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護総合演習 I

科目責任者 中西 正人

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20002605

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 介護実習（実習区分 I）に向けて、心構え、予備知識、動機づけなどの準備をおこない自己の実習目標を明確にする。
2. 巡回指導教員並びに実習指導者の助言を受け入れて学びに生かすとともに、指示に従って行動することができる。
3. 実習中に生活支援の実際の学びに向けて主体的に実習目標を掲げ、それを達成していくために、その具体的な方法を考案し、実習指導者に願い出て積極的に実習機会を得つつ、利用者と実際に係わることのできる実践力を身につける。

学生の達成目標

1. 介護実習(実習区分 I)における学び方を理解するために自らの考えを表明したり、体験を語ったり、意見を述べ合ったりする。
2. 介護実習先について図書館において各自で調べてきて発表し合う。

授業内容

- 第1回 第1回 オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方、実習の時期や概要）
介護福祉士の実習について（意義、目的、心得など）
児童福祉施設実習に向けて（1）（意義や目的、目標など）
第2回 児童福祉施設実習に向けて（2）（施設や利用者について；重症心身障害、肢体不自由）
第3回 児童福祉施設実習に向けて（3）（施設や利用者について；知的障害、ダウン症、自閉症ほか）

第4回 認知症高齢者グループホーム実習に向けて（１）（意義、目的、心得など）
 認知症高齢者グループホーム実習に向けて（２）（施設や利用者について；法的根拠、位置づけ、留意点など）
 第5回 認知症高齢者グループホーム実習に向けて（３）（実習課題について；認知症の人のためのケアマネジメント センター方式について）
 第6回 実習Ⅰおよび実習Ⅱへの準備（学生個人票、実習目標など提出書類の作成、提出）
 第7回 記録の書き方（記録の意義や目的、基本的な書き方や文体など）
 第8回 実習先別学内オリエンテーション（１）（実習Ⅰ；「児童福祉施設」と「認知症高齢者グループホーム」）
 実習先別学内オリエンテーション（２）（実習Ⅱ；「入居生活施設」と「居宅介護実習」）
 第9回 入居生活施設実習に向けて（１）（意義や目的、目標など）
 入居生活施設実習に向けて（２）（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設）
 第10回 入居生活施設実習に向けて（３）（障害者支援施設、労災特別介護施設）
 第11回 居宅介護実習に向けて（実習先種別ごとの理解；訪問介護、訪問入浴、居宅介護支援センターや在宅介護支援センター 記録の提出方法など）
 第12回 実習において予測される諸問題（１）（身だしなみ、指導者や利用者との関わりなど）
 第13回 実習において予測される諸問題（２）（実習課題への取り組み方、カンファレンスへの臨み方など）
 第14回 まとめ
 第15回 実習Ⅰの実習直前学内オリエンテーション

	予習	
予習・復習の内容	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
	教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
推薦図書等	坪内孝・能田茂代編「最新介護福祉全書 第8巻 介護総合演習」メヂカルフレンド社	
参考URL		
備考		

介護総合演習 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護総合演習 II

科目責任者 中西 正人

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20002705

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 介護実習（実習区分 II）における学び方を理解するために自らの考えを表明したり、体験を語ったり、意見を述べ合ったりする。
2. 実習先について図書館において各自で調べてきて発表し合う。
3. 実習において体験学習してきた事例の発表を通して学びを深め合う。

学生の達成目標

1. 介護実習(実習区分 II)に向けて、心構え、予備知識、動機づけなどの準備をおこない自己の実習目標を明確にする。
2. 実習中に介護過程の展開の学びに向けて主体的に実習目標を達成していくためにご協力いただく利用者の理解を深め、ご本人にとっての主目標の達成を支援するためにより良い係わりのできる実践力を身につける。
3. 介護実習後は、十分な振り返りをおこなうことで学びを深め自己の介護観の涵養に役立てる。

授業内容

- | | |
|-----|------------------------------------|
| 第1回 | 第1回 実習 II の実習直前学内オリエンテーション |
| | 第2回 実習 I の振り返り（1）（児童福祉施設実習） |
| | 第3回 実習 I の振り返り（2）（認知症高齢者グループホーム実習） |
| | 第4回 実習 II の振り返り（3）（居宅介護実習） |
| | 第5回 実習 II の振り返り（4）（入居生活施設実習） |
| | 第6回 実習課題「介護過程の展開」の振り返り（学びと課題） |

- (1)
第7回 実習課題「介護過程の展開」の振り返り（学びと課題）
(2)
第8回 実習で実際に体験した事例・出来事について（疑問点、問題意識や課題提起など）（1）
第9回 実習で実際に体験した事例・出来事について（疑問点、問題意識や課題提起など）（2）
第10回 介護福祉における研究の視点（上記の問題意識や課題提起に関連した先行研究、事例研究について）（1）
第11回 介護福祉における研究の視点（上記の問題意識や課題提起に関連した先行研究、事例研究について）（2）
第12回 実習で課題となった生活支援技術について（振り返りと学びなおし）（1）
第13回 実習で課題となった生活支援技術について（振り返りと学びなおし）（2）
第14回 実習全体を通しての学び（「介護観」について）
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	坪内孝・能田茂代編「最新介護福祉全書 第8巻 介護総合演習」メヂカルフレンド社

推薦図書等

参考URL

備考

介護実習 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護実習 I

科目責任者 岩本 義浩

担当教員
中西 正人
古川 繁子
井口 ひとみ
布施 千草
川村 博子
今井 訓子
清宮 宏臣
石原 富子

授業形態 実習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20002905

教室

単位数 1

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 実習の手引きと教員からの指示に基づきつつ、実習先の指導方針と実習方法に従って実習する。
2. 学校の巡回指導担当教員と実習先の実習指導者に実習状況について報告・連絡・相談し指導と支援を得られるようにする。
3. 利用者のプライバシーにかかわり学んでいくことから、敬意と感謝の念を常に忘れず責任ある態度をもって保秘は厳守する。

学生の達成目標

1. 福祉施設において利用者はどのような介護ニーズをもって生活しているか理解する。
2. 福祉施設において職員は利用者の介護ニーズに応えるためにどのような支援をしているか理解する。

3. 心身に関して介護を要する児童の利用者が福祉施設においてどのように日中を過ごしているか理解する。

授業内容

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	介護実習の手引き

推薦図書等

参考URL

備考

介護実習 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 介護実習 II

科目責任者 岩本 義浩

担当教員

中西 正人
古川 繁子
井口 ひとみ
布施 千草
川村 博子
今井 訓子
清宮 宏臣
石原 富子

授業形態 実習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20003005

教室

単位数 4

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 実習の手引きと教員からの指示に基づきつつ、実習先の指導方針と実習方法に従って実習する。
2. 学校の巡回指導担当教員と実習先の実習指導者に実習状況について報告・連絡・相談し指導と支援を得られるようにする。
3. 利用者のプライバシーにかかわり学んでいくことから、敬意と感謝の念を常に忘れず責任ある態度をもって保秘は厳守する。

学生の達成目標

1. 介護過程の展開実習を通して利用者を全人間的に支援するかわりの重要性を理解する。
2. 実際に真のニーズを理解しそれに応えていくために生活支援技術をいかに生かしていったらよいのかを理解する。

3. ホームヘルプ、デイサービス、ショートステイなどの居宅生活支援事業の重要性を理解する。

授業内容

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	介護実習の手引き

推薦図書等

参考URL

備考

開 講 年 度	2012	登 録 コー ド	20003305		
授 業 科 目 名	発達と老化の理解 I				授 業 形 態
担 当 教 員	丹羽真里				講 義
専 攻	専攻科介護福祉専攻			期 別	前 期
				単 位	2
				卒 業 要 件	必 修
授 業 目 標	高齢者を理解する。				
授 業 方 針	老年期の心理的問題を理解し、発見（障害の把握）やそれに基づく援助の方策について学ぶ。				
年 間 授 業 画 計	第1回 人間の生涯発達の過程 第2回 発達段階の特徴 第3回 老年心理学研究の歴史（老年期の定義） 第4回 高齢者の心と身体（老年期の発達課題） 第5回 老年期の知能と記憶 第6回 高齢者の人格 第7回 高齢者の知覚 第8回 老年期の身体（1）（身体機能の変化と日常生活への影響） 第9回 老年期の身体（2）（知的・認知機能の変化・精神的機能の変化と日常生活への影響） 第10回 老年期の心理（1）（老人を受けとめる高齢者の気持ち、役割喪失、別れ） 第11回 老年期の心理（2）（経済不安、障害を受けとめる高齢者の気持ち） 第12回 家族、対人関係と社会生活 第13回 高齢者の支援（1） 職員の対応についてビデオを見て学ぶ。 第14回 高齢者の支援（2） 対応の仕事の基本を押さえる。 第15回 まとめ				
教 科 書	「高齢者心理学」建帛社 一番ヶ瀬康子監修 下仲順子、中里克治編著				
参 考 書	特になし				
成績評価の方法・基準	レポートの提出、出席日数を勘案して評価する。				

発達と老化の理解 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 発達と老化の理解 II

科目責任者

担当教員 井口 ひとみ

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20003405

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

前期に学習した、こころとからだのしくみや、生活支援技術、介護支援技術などをふまえながら、発達と老化について理解を深める。学生は、課題学習をしながら、主体的な学びができるようにする。

学生の達成目標

授業内容

第1回

第1回

ガイダンス、加齢（老化）とは

第2回

“老い”に対する捉え方・価値

第3回

老化に伴う身体の変化と生活への影響（感覚器系、脳神経系）

第4回

老化に伴う身体の変化と生活への影響（消化器系、循環器系）

第5回

老化に伴う身体の変化と生活への影響（泌尿器系、内分泌系ほか）

第6回

高齢者の病気の特徴

第7回～第10回

生活不活発病とその予防（寝たきり予防に向けて）

第11回～第13回

高齢者がかかりやすい病気とその予防、生活上の留意点

第14回
第15回

介護保険における特定疾病
まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
	教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「最新介護福祉全書 9 発達と老化の理解」メヂカルフレンド社
推薦図書等		
参考URL		
備考		

認知症の理解 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 認知症の理解 I

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20003505

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

認知症のある人を取り巻く社会環境を知るとともに、医学的視点に基く認知症の症状理解を行う。

学生の達成目標

授業内容

第1回

- 第1回 認知症ケアの歴史の変遷（認知症の疫学、施策も含む）その I
第2回 医学的側面からの認知症についての基礎的理解（原因となる疾患と特徴）
第3回 認知症の検査や治療法を理解
第4回 中核症状と周辺症状の特徴的理解 その I 記憶障害・見当識障害・失語・失行・失認・その他
第5回 中核症状と周辺症状の特徴的理解 その II 徘徊・妄想・食行動異常・その他
第6回 認知症進行に伴う症状変化の理解（ステージアプローチの必要性）
第7回 コミュニケーション障害としての認知症
第8回 認知症のある人が抱える心理的な問題（不快、不安、混乱、被害感等）
第9回 認知症のある人にみられるさまざまな行動（BPSDについて、その出現原因、介護者との関係）
第10回 認知症のある人の内的世界の理解

第11回 認知症のある人の家族の心理と障害受容
第12回 認知症のある人を介護する家族への支援
第13回 若年性認知症のある人と家族の支援 その I
第14回 若年性認知症のある人と家族の支援 その II
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「新・介護福祉士養成講座 12 認知症の理解」中央法規
-----	--

推薦図書等

参考URL

備考

認知症の理解 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 認知症の理解 II

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20003605

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 認知症ケアの実際と今後の課題について学習する。

学生の達成目標

授業内容

第1回 第1回 認知症ケアの理念について
第2回 パーソンセンタードケアについて その I
第3回 パーソンセンタードケアについて その II
第4回 認知症の心理療法 その I
第5回 認知症の心理療法 その II
第6回 認知症のある人のケアマネジメント 竹内式 その I
第7回 認知症のある人のケアマネジメント 竹内式 その II
第8回 認知症のある人のケアマネジメント センター方式 その I
第9回 認知症のある人のケアマネジメント センター方式 その II
第10回 認知症のある人のケアマネジメント センター方式 その III
第11回 認知症の予防
第12回 認知症のある人の地方包括ケア（連携と協働）－尾道市の取り組みの紹介 その I
第13回 認知症のある人の地方包括ケア（連携と協働）－尾道市の取り組みの紹介 その II

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） 振り返り（20%） 授業中の意見文（10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
	教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「新・介護福祉士養成講座 12 認知症の理解」中央法規
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害の理解

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 障害の理解

科目責任者 川村 博子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20003805

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

障害の概念、障害者福祉の理念、身体障害、精神障害・知的障害等の種類と原因と特性、家族への支援を理解する。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第1回	障害の概念
		第2回～第3回	障害福祉の基本理念
		第4回～第5回	肢体不自由（運動機能障害）のある人の理解
		第6回	内部障害のある人の理解
		第7回	視覚障害のある人の理解
		第8回	聴覚障害のある人、言語障害のある人の理解
		第9回～第10回	精神障害のある人の理解
		第11回	高次機能障害のある人の理解
		第12回	発達障害のある人の理解
		第13回	全介助を要する人および難病の人の理解
		第14回	家族への支援
		第15回	地域におけるサポート体制、まとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
「新・介護福祉士養成講座 13 障害の理解」中央法規

推薦図書等

参考URL

備考

こころとからだのしくみ I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 こころとからだのしくみ I

科目責任者

担当教員 大野 孝則

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20004005

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 こころとからだのしくみの基礎と代表的疾患について講義。

学生の達成目標

授業内容	第1回	第 1 回	欲求、自己概念、尊厳、自己決定
		第 2 回	こころと脳
		第 3 回	細胞、生体膜、核、DNA、ATP
		第 4 回	組織（上皮、支持、筋、神経）
		第 5 回	組織（血液）、ホメオスタシス
		第 6 回	皮膚、骨格、筋系
		第 7 回～第 8 回	脳、神経系
		第 9 回	疾病総論、感染症、免疫異常
		第 10 回	悪性腫瘍、虚血性心疾患、脳血管障害
		第 11 回	高血圧、糖尿病、高脂血症、内分泌異常
		第 12 回	循環器・呼吸器の解剖と生理、その主な疾病
		第 13 回	消化器、腎・泌尿器の解剖と生理、その主な疾
		病	
		第 14 回	主な神経・筋疾患
		第 15 回	その他の疾病

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 使用せず。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみ II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2012年度

科目区分

授業科目名 こころとからだのしくみ II

科目責任者

担当教員 井口 ひとみ

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20004105

教室

単位数 2

配当年次・対象学生

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 人体各部の名称と、日常生活に関連したからだのしくみところについて理解できるようにする。

学生の達成目標

授業内容

- | | | |
|-----|------|--|
| 第1回 | 第1回 | 人体部位の名称、生命の維持のしくみ |
| | 第2回 | 人体部位の名称、生命の維持のしくみ |
| | 第3回 | 移動に関連した解剖整理 |
| | 第4回 | 移動に関連したところのしくみ・ボディメカニクス |
| | 第5回 | 食事に関連した解剖整理 機能低下が食事に及ぼす影響 |
| | 第6回 | 栄養摂取の意義・安全な食事のための留意点 |
| | 第7回 | 入浴、清潔保持に関連した解剖整理 皮膚のしくみ・頭髮のしくみ・機能低下が入浴に及ぼす影響 |
| | 第8回 | 入浴、清潔保持の実際 |
| | 第9回 | 身じたくの関連した解剖整理 機能低下が身じたくに及ぼす影響 |
| | 第10回 | 身じたくの関連したところのしくみ |
| | 第11回 | 排泄に関連した解剖整理 機能低下が排泄に及ぼす影響 |

第 12回	排泄に関連したところのしくみ	
第 13回	睡眠の構造と睡眠障害	睡眠に関連したところのしくみ
第 14回	終末期の心身の状況・死後の変化	死に対するところの理解
第 15回	まとめ	

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	「最新介護福祉全書 第 12巻」メヂカルフレンド社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		